

今井

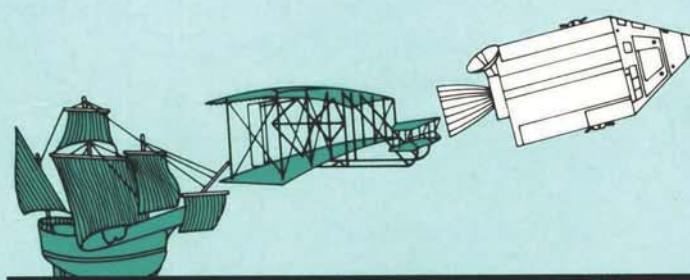


R.I.第267地区

第7回 RYLAセミナー報告

見つけよう 奉仕の新生面
Discover a New World of Service

1984-85年度 R.I.会長
カルロス・カンセコ
メキシコ、ヌエボレオン州、モンテレー



1984～85国際ロータリー267地区

もくじ

セミナースケジュール

ライラセミナーを終えて	辻 忠夫	1
	牟禮米一	2
講演	佃範夫	3
	加藤義和	27
	徳永尚子	47
参加者感想文		63
参加者名簿		113

〈セミナースケジュール〉

	4月4日(木)	4月5日(金)	4月6日(土)	4月7日(日)
8		朝 食	朝 食	朝 食
9				
10		講 演 佃 範夫 氏	講 演 加藤 義和 氏	講 演 徳永 尚子 女史
11				
12				閉会式
1	打合せ カウンセラー	カウンセラー 打合せ	バズのテーマ リマインド	記念植樹
2				
3	開講式 ライラと ロータリー バズのテーマ について	レクレーション テニス・ヨット他	思考の時間 バズセッション (キャビン毎)	離島
4				
5		S K 法		
6	夕 食	夕 食	夕 食	
7	オープニングパーティ			
8		キャンプファイヤー		
9	キャビンタイム	親睦の夕	フォーラム	
10				

ライラセミナーを終えて

R.I 第 268 地区ガバナー

辻 忠 夫

今年度の第7回ライラセミナーは第267地区にお世話様になって4月4日から7日まで、例年通り余島で行われました。267地区から49名、268地区から33名の参加を頂き「人と出会い、神と交わり、愛の灯のもえるところ」の余島の感動を今年も味えました。お世話を頂いた指導者の皆様に心から感謝申し上げます。

ロータリーでは「青少年のためにではなく、青少年と共に」、「ロータリアンは青少年の模範であれ」が指標であります。青少年達は胸襟を開いて話のできる仲間を求め、リーダーと寝食を共にしてコミュニケーションを深める。余島という離れ小島で、ロータリアンと青少年達の作りだす感動的な成果は毎年「ライラの火を消すな」の声を高めてゆきます。

ライラを終えて、ロータリアンの皆さんにお願いがあります。ロータリーへの理解と感激と感謝を持って帰って行った青年達をロータリーから離さないでください。クラブでの行事に折にふれて声をかけてやって欲しい。彼らが各地域でのリーダーとしての成長、活躍、そして立派な社会人となることに力を貸してやって欲しい。青少年奉仕にもアフターが大切だからであります。

未来を背応う青少年の育成こそ重点課題であります。

ご　あ　い　さ　つ

R.I 第 267 地区ガバナー

牟　禮　米　一

第7回RYLAセミナーに参加された皆さん、その後お元気でそれぞれのお立場でご精励の事と存じあげます。

本年4月4日から7日までの3泊4日のセミナーを終えて、はや3カ月になりますが、セミナーでは、今井顧問・辻ガバナー・江藤ディーン、その他第267・268両地区各カウンセラーはじめ関係ロータリアンの皆様方には一方ならぬお世話になり、所期の成果を挙げることが出来たと喜んでおります。本当にありがとうございました。

セミナーに参加された研修生の皆さんには、3泊4日では物足りなかったようですが、先ず何をおいても見知らぬ人々との出会いから、新しい友人を得たことこれだけでも大きな意義があります。そして、皆さま方がこれまでに、それぞれ異なった職域や環境の中で培われた人生観に加えて、セミナーでの講演やキャビン・タイムでの話し合い、またキャンプファイヤーや瞑想に耽ったひととき等々、各人それぞれ小吸収されたものがあり、何かが蓄積されたものと思います。また、このセミナーを通じてロータリークラブが何故こんなことをするのか?についても理解いただけたことと嬉しく思っております。

今や国際ロータリーは、地域社会に対する社会奉仕から国際理解と親善延いては世界平和を指向しております。このことについては、現在はもちろん将来のために立派な青少年を育成することに目が注がれております。

21世紀を迎えるに当たって、立派な国際人としての期待は、あなた方や、あなた方によって指導され育成されるこれからの中の青少年にかかっています。

あなた方に期待しているのです。

福沢諭吉先生は心訓の中に「世の中で一番尊い事は人の為に奉仕して決して恩に着せないことです。」と述べておられます。

一人では何も出来ない。しかし人が始めなければ何事も始まらないのです。

皆さんに第7回RYLAセミナーの報告書をお届けいたします。余島を回想し、そしてこの中から心の糧を探って下さい。

“人知れず　月陰に咲く　月見草”

皆さんの善意と奉仕に立派な花を咲かせ、大きな実を結ぶことを期待し、念じております。

(1985.6.28)

講 演



佃 範夫

現 代 若 者 の 心 理

佃 範 夫

私共は矢張り一つの時代を生きているわけでございます。その時代を生きているということはその時代からのいろんな要請といいますか欲求といいますか、そういうものがあるのだろうと思います。そういうこの時代を私達が生き抜くために何をしておかなくてはいけないか、別な言葉で申しますと、どういう能力を我々は開発しておかなくてはいけないのか、こういう事が大事だらうと思うのです。そういう事を考えます時に、その時代というものは過去から現在、現在から未来へと流れていくその時代でございますから矢張り我々は未来社会からの呼びかけに応えて今私達は何をしておかなくちゃいけないのかという事を考えて見る事が必要だらうと思うのです。

私は「21世紀に生きるために」という言葉を余り最近使わないで、未来社会からの呼びかけに答えるために今の若者は一体何をしておかなくてはいけないのかという事を考えてほしいと思うわけです。たまたま今年は国際青年年でございます。今プログラムをいただきますと I Y Y のマークが下にはいっています。今年は 1985 国際青年年でございます。その国際青年年に当ってその世界の若者が皆などうしたらいいのかという事を考える年になっています。たまたま世界地球に住んでいる若者達が、若者に出来る事は何があるのだろうか、若者として一体何をしていかなければならぬのかを考える年である。そういう 1985 年にあたって一つ我々自身がこの過去の日本、世界、だんだんと流れていく現代、そして未来につながっていく今の時代に我々は何をやっておかなければならないか考えてほしいと思います。私どもよくいろいろな所で話をしますが、理屈としては、かなりな事は知っているのですけれども仲々これを行動に移す事が出来ないのでございます。国際青年年というものは若者が何をしたらいいのかただ考えるだけではなくて、それを行動に移していくというところに大事な意味があると思います。ただ討議をするだけでなく私達が実践活動にうつしていく若者の内に参加して行くというところに意味があるのだろうと思うのです。

国際青年年が 3 つのスローガンをあげています。その 1 つは参加であり、第 2 が開発でございます。第 3 が平和である。国際青年年が掲げた 3 つのスローガンを狙い乍ら、世界の若者達がお互いに考えていくと、いわゆる国際人としてという言葉よりは、もっと進んで宇宙人として地球人としてどういう役割を果したらいいかという様なことを考えてほしい。そのためにはとにかく参加してみる。そしてその自分という者をもう一度見直してみて自分の資質能力とは別の能力というものに気付き開発する。そしてその平和というのはイデオロギーの平和ではなくて、青年の一人一人が心と心とをお互いに交わらせ乍ら協力していくという体制ができる事、こういうことが定義でございます。

この参加と開発と平和という、そういうスローガンに向って国際青年年のこの 1985 年が今 4 月を迎えておるわけでございますけれども、国際青年年を迎えて一体今の若者達がどうだらうかと今日考えてみると、必ずしもいいことばかりではなくて、どこにも問題というものが内蔵され

ておるし、その問題点が浮き出ている所がある。その一つが校内暴力だと家庭内暴力の問題です。そのことに対して日本中の人達がいろいろと考えてそれなりの対策を立てて、その都度青少年の問題が鎮静化の方に向ったといわれますけれども、内容的には実質女子層が急増しており、決して楽観は許されない状態にあるという事も否定出来ないことです。一方においては青年の自殺が非常に増えました。

それは一体何だろうか……。或いは試験地獄だとか或いは偏差値教育だとか色々な問題が今、色々なところに起つておる。そういう問題に対して一体若者としてどうしたらしいか、或いはそういう若者を育てていく人達としてどうしたらしいか、という様な事がこの 1985 年の一つの課題ではないかという感じがするわけでございます。先程申しました様に国際青年年が参加ということを呼びかけておりますけれども、今の若者の一つの特徴はすこける若者が増えて来たことだと思うんですね。すこける若者がふえて來た。それは俺の事ではない、それは私の事ではない、皆んなすこけておるわけです。すこけていって、気がついたら孤独になっておりますから、精神衛生的に考えますと一人ぼっちになつて悩む。それで或いはノイローゼになるし、自殺という道を選ぶことになるわけです。人の和は一人ぼっちを幸い友を作れ、仲間を作れ、そういうことが今は非常に大事なことではないかと思うんですね。いわゆる孤独からの解放、そういうものが今の若者にとって一つの課題である。もう一つの問題点は自分といいますか、個々といいますか、主張が非常に強い。片隅の幸せを求めてメンバーの一人として生きる幸せを忘れている。そういう若者達が多くなつてはいないか、というところに私は一つの問題がある様な気がいたします。これを平凡な言葉でいいますと社会連帯感の欠陥、メンバーの一人としてどうしたらよいかという事がわからないというか、自分だけの世界、自分だけの片隅の幸せを求めている。そういう人が多くなつてはいないかという事が問題だと思います。

そういう事を考えます時に、やはり大事な事は、メンバーの一人としてどう生きたらよいか、或いは勤めているのでありますならば、職場のメンバーの一人としてどう生きたらよいかということです。メンバーの一人としてどういう役割を分担し、チームワークをととのえていくかという事は私達の一つの課題ではないかと思うわけです。すこけた若者からいろんな問題が起つて来る。その一つが何かといったら社会連帯感の欠陥とか、メンバーの一人として生きられないとかいう現象です。そしてその結果は指示待ち族・指示待ち人間が増えて来ているということです。指示されたら出来るけれども、自ら進んでするという事がどうも下手な人間が増えて來た。ちょっと前の言葉でいい表しますとモラトリアム人間が増えて來た。そのモラトリアム人間或いは最近よくマスコミあたりで使われるのが指示待ち人間、そういう者がどんどん増えて来てそして自分から進んでやろうとする人が非常に少なくなつて來た。こういう事であります。

幼児性が何時までも残っている。自主性というものをうたい乍ら自分でやれない人間が非常に増えて來た。その原因はいろんな所にあるだろうと思います。一つの特徴的なものをお答えしますならば、指示待ち人間に若者はなつてないかという事であります。私共の大学なり或いは皆さんの所でよくともに語り合う時間をもちます。云われた事は出来る。だけど自分で進んでやるということはどうもうまく出来ない。こういう事を考えて見ますと、どうも依頼心が強いとい

う様なところがある。これは戦後の教育が、どちらかといいますとお客様教育であったことの一つの産物であろうと思いますけれども、兎に角そういう進んでやろうという者が少い。というわけでこの世界国際青年年の I Y Y いわゆる準備委員会の国におきましても日本の青年だけでなく世界の青年がそういう傾向にあるということで第一に参加という事を唱ったと思います。そこで一つ皆さんにトライして欲しい。今日は皆さんに提言をしたいと思いますが、私は I Y Y に私の提言としてトライという事を書いておきました。そのトライという意味を辞書で調べてみたら25種類くらい言葉の訳が出ております。とにかく挑戦と訳してもいいし、とにかくやってみるという事に訳してもいいし何でもいいですけれども、とにかくトライしてみる。これが今の若者にとって一番大事なことではないかと思います。このキャンプの中でも一つ自分から進んでトライしてみる。トライする中にうまく出来ることもあるし、うまく出来ない事もある。うまく出来たら共に喜こんでそれを分ちあえる事が必要だし、それがうまくいかなかったらどうしてだらうかと共に悩んでいかなくてはならない。そう思うその中に又新しい物を見つけだしていくという事が必要だろうと思います。今の世の中はどちらかといいますと豊かな世の中あります。戦争に破れた日本人は生きる目標を失ったかも知れない。だけれどもさしづめ生きる目標として豊かさを求めた事は確かであります。その結果、高度成長政策とかいろんなものもありましたが、ともかく私達のまわりというものは非常に豊かになったと思います。私もこの小豆島のキャンプ場に昭和30年頃と昭和35年頃2度来てみましたけれどもだんだん整備されております。昭和28年、29年に来た時はそんなに整備されていませんでした。けれども考え方によっては、その時の方が良かったかなあと私は思うのです。何故ならば、自然があるからです。今程豊かな世界というものはだんだんと自然を失いつつあるという事であります。私は時々こういう演題で話をします。「豊かさが奪った子供の世界」。豊かさという様なものによって、いろんな事が失なわれている。非常にいい加減な便利な世の中になったという様な事になって我々幸せである筈であるけれども一方に於て失われたものがある。その失なわれておる第一は自然です。自然というものが失なわれつつあるという事であろうと思います。そういう様な意味に於て自然といいますか、そういうものをもう一度我々は見直していかなければならぬ。逆に云うならばこの頃は木登り等も子供はさしてもらえませんね。昔我々は、小さい時に木に登って松の枝にぶら下って落ちて尻もちついで痛いといったら何だといわれて、ボーンと叩かれて、ハハーと笑って又枝の方へ行ったものです。今はそんなことない。遊園地なんかに木がありますがこれはセメント等で作られた木か枝ですから折れっこないです。そういう風にだんだんと作られた世の中になっていく。矢張りこれは本物ではない訳ですね。

そういう世界に生きていると、だんだんと何が本物かわからなくなってくるわけです。いいかえれば直接体験ではなくて、疑似体験、映像文化です。でくればいろんな物を教えてくれるがそれとの話し合いは出来ない。だから直接に体験して感動する事がない。夏休みの子供の昆虫採集などを見ましても兜虫を一つ取るにしても昔は山に行って一生懸命兜虫を探して取った。そして頭がちぎれると死んでしまう。そういう可哀想な事をした。お墓でも作ろうか。そういう情緒という物が自然に養なわれる。ところが今頃は、そういう兜虫は百貨店の売場に行ったら手に入り

ます。もっとひどい話をするとゴムで出来ている。ゴムでイミテーションで作られている。そういう兜虫は幾ら頭がちぎれても死ないので命の大切さというものが分らない人間に育つて来る。命の大切さや、哀れみとか労りそういう物がわからない人間が出て来るわけです。そういうところに私は考えいかなければならぬ一つの問題があると思います。云い替へれば自然というものが奪われて、ややもすると疑似体験をして本物の体験というものが無い。以前、東京で聞いた話ですが、去年の夏のことですが、子供会のリーダーがメンバーを連れて富士登山をして、その富士の裾野を上り始めたら雲がずっとかかって来て見えない。ところが暫らくするとさーっと雲が消えてきれいな富士が頭を見せた。引率した先生やリーダーは「おお、きれいな富士が見えた。君達見て見ろ。」と感動して話しかけました。子供達の返事は「先生・先生、テレビの富士の方がずっときれいや。」感動するとか美しさを感じるとか、そういう面が分らない人間が出来てきている訳ですね。

いいかえたら何が本当かということが分らない。ここが大事なことです。何が本当かという事が分らなくなつて来ている、イミテーションの世界です。昔は手作りの味とかいいましたけれども、此の頃の子供はラーメンの味という事になっています。お母さんは本当に手作りでいろんな物を作ってくれるよりもむしろそちらのスーパーで買って来た物を並べるに過ぎないですね。或いは一寸切るに過ぎない。そういう様に他人が作った物を只並べておるわけですから子供の中に母親が臉の母のようなイメージには仲々育たないわけですね。

この頃東京のマンションに行きますと、いわゆる包丁もまな板もないですね。それで生活ができる。包丁もまな板もないんですよ。何も自分でしないで、そこらで買って来た物を並べただけでちゃんと生活ができる。これは豊かだから出来ている。だけれども、そういう生活をしていく中に、先程申しました様に感動、労り、命の大切さ、この命の大切さという、そういう情緒的なものが育っていない。本物か何かがわからない様な人間が生れているということは我々は考えていかなくちゃならない一つの問題ではないかと思うんですね。そういう面に於て、こういうキャンプで大自然のふところに返してそれでもう一度自然の摂理というものを我々は学びとらなくてはならない。大事なことは昔は神というものを絶対として生きて來た。その次は余裕がやって來ました。物が非常に価値をもって來た。今はどうでしょう。科学です。科学の進歩は、あの筑波の万博をご覧いただいたらわかると思います。科学というものが我々の生活をどんどん変えていくわけです。ところがその科学がどんどん、どんどん進んでいくことに於て、例えば今まで神秘のペールにおおわれていました妊娠中の子宮の中にいる子供の状態が超音波によって全部わかる様になりました。一寸障害があったらそれを生れてすぐ手術してなおす事が出来るかも知れない。だけれどもその欠隔なりそういう病気のために昔なら死んで子供が生れて來ておったような場合でも科学が進歩してその子供が死なないで生れて來る。けれども障害者として生れるかもわからない。人間の幸せは一体何だろうか。今例えれば水死をしようと思って水死寸前の人人がいても今の医学でしたら命は取り止められます。それは植物人間として生きられる人間である。人間80年になってどんどん医学が発達して生きるだけは100まで生きられると思う。或いは妊娠して直後の子宮の中の子供の状態は全部わかるかも知れない。科学はどんどん、どんどん進んで来ま

す。その時に一体人間の幸せとは何だろうかということが問われて来ると思う。そうするとこれからの大事な問題は何だろうか。自然と科学と人間、この三つをどう考えていくかという事がこれからの課題ではないかと思います。物だけではいけない。神だけでも納得しない。科学だけでも不満。そういうこの自然と人間と科学というか、そういうものをこれからどう調和させていくかというところに我々の課題というものがある様な気がしてならないわけです。

そういう意味に於て皆さん方がややもすると何が本物かを忘れようとした時に、もう一度自然の摂理に対してその中から一つ真実を求めていくという事は大事なことではないかと思います。だから皆さん方は今日この R A L A に参加できて非常にいい経験をさせてくれたと思って感謝しなければいけないと思います。我々はそういうものは体験しなければわからない訳です。そういう豊かさというものが所謂いい体験で勞りとか命の大切さというものを忘れさせています。豊かなこの社会が出て来て失ったもの、失なわれたものは何だろう。私は仲間集団だと思います。仲間集団、これは三K時代ですね。三つのKです。一つは何かというと高年令時代。一つのKは何でしょう。学歴のK、一つのKは何でしょう。核家族の Kです。そういう三K時代を迎えて来た。核家族ということは何かといえば少子家社会、子供の数が少なくなった。昔は兄弟の数は 5, 6 人乃至 7, 8 人はざらでした。

この間28日に青少年育成国民会議の総会をやりました。茅先生が創設された初代の会長ですが、今はソニーの飯塚さんに会長になって貰っています。その茅先生とか飯塚さんだと慶應義塾の塾長の石川さんの育った時代は 7 人兄弟 8 人兄弟が当り前だったんです。ところが今は子供の数は非常に減りましたね。せいぜい、2 人位になっています。そうしますと、兄弟喧嘩を知らない子供がどんどん出来るわけです。皆んな 1 人子ですよ。兄弟喧嘩なんか知らないわけですね。昔は道端にがき大将がいました。鎮守の森にがき大将がいました。それががき大将がいろんなことで喧嘩のやり方も教えてくれました。ここまでやったら危いぞという限度をちゃんと遊びの中で教えてくれた。ところが今やそういう様ながき大将と近隣社会での子供同志の遊びが殆んどなくなって来た。そうすると仲間同志の人間関係のよさといいますかそういうものを学びとる所がなくなって来たです。だから喧嘩したら相手が死ぬまでいくわけです。どこで止めたらいいかわからない。今日の子供は遊べない子供にだんだんと育って來た。所謂、仲間集団がなくなってきたということです。人間関係のあり方を学びとる場がなくなって來たのです。そういうところが豊かな社会とひきかえに失なわれた子供の社会ではないかと思います。序に申しますと第3番目は所謂学校の成績のことになると敏感な親が多いけれども、人間的な事になりますと鈍感な親がいます。羨だと人間的面倒を見るという事になりますと、家庭でも学校でも地域社会でも実践できる人は少なくて來ました。そういう所から何が起って來たかというと心と心のふれ合いの喪失といいますか、そういう問題が起って來ていると思います。こういう風に考えてみます時に今の社会というものは非常に豊かになって便利になって幸せそうだけれども一皮むいてみるとその豊かさというものが、そんなところに私達の心から奪い去っているものが一杯ある。自然であり、仲間集団であり或いは人間的なふれ合いがだんだんと失なわれていると思います。そういうところにあなた達は挑戦してほしい。いわゆる仲間集団とか自然とかそういうところに一歩ん

ライしてほしいと思います。そのトライする中に自分というものをもう一べん見つめてほしいと思います。私はこのこういう所にキャンプすることの意味はいろいろあると思います。いろいろあると思いますけれども、やはり一つは学校で出来る子供もあるし出来ない子供もあるという一つの枠の中で自分を評価するのではなくて、もう一つ別の世界で自分を評価する、そういうチャンスなり争いの場が与えられる所に意味があると思います。

私は青少年育成の仕事をしておりますので全国的にも或いは香川県でもキャンプでそういう証明をしているのですけれども香川県では小豆島もありますが直島の近くに無人島が一つあります。4年前から私は小学生、中学生、高校生、大学生、青年を対象として50人位を香川県民会としてキャンプをやらしています。私も初め2年位ついて行きましたがいろんな事を教えてくれますね。一番最初にキャンプのテントと最小限の食糧しか与えないという事にしますと、先ず第一に野壺を堀る。野壺を堀っても用便ができません。お腹が痛い痛いといっています。面白いですよ。やらしたらしいのです。無人島ですから便所はないですよ。野壺で用たしができないですよ。今は何処でも水洗便所ですからね。

テントを建てる時、波打際のきれいな所に頭のいい人は先ずたてる。みんな建ててしまって場所がなくなって、少し頭の悪い人は山の木とか木の出た所に行きます。なかなか建てられないです。時間が多くかかると皆に非難されます。一寸かしこい奴は波打際のきれいな所に建てて夜中に潮が満ちて来て大変だと注意しても知らん顔している。一度くらいあっても此の頃の子は誰も云う事を聞きません。私は一べん云ったらもう云わない。2、3度もいったら癖になる。夜中になつたら案の定、潮が満ちて来ます。水がテントにはいって来てその逃げる様は面白いですよ。私はそういう体験の中にいろんなものを彼らなりに学び取っていくのだろうと思います。そういう体験を非常に大事だと思います。

飯盒炊飯をさしたら大体薪の炊き方から知らない。この頃の指導者も薪の炊き方を知らない者がいる。よく指導者になっていると思う。

ところで学校ではいつも低空飛行しているけれども飯盒炊飯をやらしたら物凄くうまいやつがいます。お前うまいやないかと云いますとにこっとします。今お笑いを忘れた子供が一ぱいいますよ。笑いを忘れた子供。その笑いを忘れた子供に笑いを取り戻す事が大事な事なんですね。そして「あっ」といって一緒に感激してやってみてご覧なさい。物凄く喜びますよね。そして自分の能力というものに、別の能力というものに気付いて「やれば出来るぞ！」というものに私はつながって行くと思います。だからやはり大事な事は、自然の摂理といいますか一度その中に戻してみてもう一度自分というのを見直してみるということです。皆さんもそうだろうと思います。自分というのを見直してみるという事。こういう見直してみる中に自分というのをもう一度再開発していく。自己啓発という言葉もいいと思う。これが一番大事なことである。共に参加しても自己啓発しなければ何にもならない。ああしんどかったといって、あそこの大飯はまずかったといって帰っても何にもならない。夕べ寒かった位ではしょうがない。やっぱりその中から自己啓発していくという事が大事な事であろうと思います。所謂国際青年年でIYで参加して自己開発ということを云っているのは、矢張り自分というのをもう一度見直して

みてそしてその自分というものを再開発していくという事が必要であるということだと思います。教育という事は一体何であろうと考えてみるといろいろあると思います。やはり大事な事は、そのそれぞれの持味といいますか皆んな特徴があるわけです。その持味というものを発見して見出してそれを開花させる開かせる。それが教育に非常に大事な事である。所謂自分というものを見つめていっていろんな能力というか資質という言葉もありますがそういうものを見付け出して来る。私は皆んな人間には持味があると思います。その持味というものをみつけていくこと、その見つけた持味の花を開かしてやるか、生かしてやるという事が教育であろうと思います。だからある一つの枠の中に入って勉強なら勉強という枠の中に入ってしまって自己を評価しますと、それはそれで終ってしまいます。それとは別の基準に気付いて「あっ」こんな所にも自分の味があったのかと気付いて欲しいと思います。RYLAに参加して案外自分はリーダー的資格があったと気が付く人とやっぱりなかったわと残念がって帰る人といろいろあると思います。いっぱいあると思いますけどやはり自分のそういうものに気付くというか体験の中に気付くという事が私は大事な事であると思う。そういうことに気付かせてそれを開かせていく事が大事な事であろうと思います。もう一つ大事なことは、今の自然とはうらはらになりますけれども我々はいろいろな人と人の中に生活をしているという事です。今の社会というものは絶海の孤島で本能の趣くままに生活することを許さない。云いえれば社会生活ですね。人ととの生活その社会生活を営んでいくためにその社会を円満に運営していくために最低のルールがいるだろう。その最低のルールを守るという事が又人間にとて大事な事ではないだろうか。例えばその最低のルールを守ろうとすると、例えば自分の本能と逆の事が起って来るかも知れない。耐えられない程苦痛な問題が起って来るかも知れない。その時に何が貴重かといいますと、矢張り自己抑止力である。自分を本当によく知る力というものがなかったらその人間は生きられない。この自己抑止力といいますかセルフコントロール、自己統制力というものを養うという事が私は大事だと思う。今学校で校内暴力或いは家庭で家庭内暴力、いろんなものがあるがこれは耐える力がない。いいかえれば自己抑止力がない、そういう所から起って来ている問題だと思います。大体今の教育で一つだけの問題は何だろうといったら、自己抑止力というものが育っていないということではないでしょうか。だから臨教審あたりで考えるとするならば、これをどうするかという事が一番大事な事であると思います。セルフコントロールを養うのにどういう教育を考えたらよいのかという事が必要になって来ると思います。もう一つはやはり教育とは文化の伝達と文化の創造ですね。我々は先祖から何かを受け継いでいくわけです。そして又これを我々は子孫に残していくわけです。そして残すだけでなくそこから新しいものをクリエイティブ創造していく、そういう仕事が私は教育の仕事の大変な三つの柱でないかと思う。

今臨教審でいろいろやっておりますけれどもそういうところの重点を合せてみて、そして今何が欠けておるかという事を考えると同時に未来社会からの呼びかけとして今何を我々に要請しておるかということだろうと思います。こちらの方からの要請されておることは一体何だろうかと考えた時にあげられる一つが国際化社会である。だからこの国際化社会にどう生きるのかという事は大事なことです。もう一つは情報化社会です。技術革新とかいろんなもので情報化社会は非

常にテンポが早いですね。一昔何年というのをこの間NHKが特集しておりましたが、ご覧になった人もあると思います。平安時代は一昔36年であった。ところが明治、大正はどうなったかといふと一昔は10年。10年一昔という言葉が使われておる今はどうかといふと今は2年一昔。いいですか、4年一昔かといふたら2年一昔だといふ。その情報化社会ですよ。先端技術の方面は2年一昔。あのソニーが、天下の、世界のソニーが、皆さんご存知でしょうが、一寸1年間か半年か居眠りしてたら大方倒産しそうになったそうです。井深さんが云つたのだから間違ひないです。1年1月ボヤーッとしとつたらもう駄目になる。1月ですね。2年一昔です。いいですか皆さん、2年一昔です。そういうテンポの早い世の中がやって来ておるわけです。情報化社会とか技術革新とか、そういう方面から考えるとそういう様なものになっている。そういう情報化社会に遅れない様に、皆さんもそういうものには対応出来る様な、そういう人間に訓練なり勉強なりしておかないといけないということが一つです。もう一つが国際化社会といひますか、そういうところの一つの問題だろうと思います。私がここに上って来た時にここのロータリーの人と話したことですけれども、この島を夏休み中はここへ上ったら英語しか使えない村にしたらどうでしょうか。国際村にしたらどうでしょうか。郵便局もお医者さんも……。一寸腹痛を起しても、ボランティアでお医者さんに来てもらっても、そこで診察する時には英語で診察する。ホストを入れる時にも1月したらいい民営が育つのではないかと思いませんがどうでしょうか。こんな事いたら怒られるのではないかとも思います。だけど21世紀には留学生を十万人受け入れるわけです。今留学生は日本に8千人しか来れません。今年中に1万人にする。21世紀になれば、今から15年したら、これを10万人にする。10万人の留学生を受けるわけです。そうすると、ちっぽけな香川県でも千人の留学生を受けなければならぬのです。その留学生に日本語を教える人が必要です。その日本語を教えるライセンスを持った人は今、日本中に千人しかいません。だから皆さんどうですかそのライセンス保留資格を取ればいいですよ。どっからでも引っぱりだこになって大学でも学歴はいりません。そういう能力があれば小学校だけ出とつたら採用致します。そういう様に大学のいわゆる門戸開放を今年からしております。国際化社会というものに我々は耐えてゆかねばならない。私はこの間臨教審の会長代理をしている石川慶應大学の塾長さんに小学校から英語をやつたらどうだろとお話をしました。どこまで取り入れられるか知りませんが……。皆さん中国でも小学校4年から英語をやっています。ドイツ語でもドイツ語の外に第2外国語として小学校から英語をやっています。我々がいろいろな所へ行きましたも意志の疎通が出来なければこれは何にもならないのです。云おうとする事が通じないと駄目です。また向うが云っていることが分らないといけません。その一番の原点は何でしょうか。言葉ですよ。その言葉の問題を私達は真剣に考えなくてはいけないと思います。皆さんもそうだと思います。皆さんは若いのですからしゃべる人も一杯いるだろといます。英語でもよろしい、言葉として一番沢山使われておるスペイン語もいいです。英語なら世界に通じます。国際化社会の原点は言葉です。そういう言葉にどのようにして我々はぶつかって行くか、それをどう工夫していくかという事が皆さんの課題でありこれから日本の課題でもあると思っています。年が寄つて勉強しても駄目です。私も1975年ですか、あの日中の友交関係が成立した時にたまたまそういう仕事をさせられ

ておりましたので450人の若者を連れてプリンセスに乗せて中国へ連れて行きました。その時に中国語を一生懸命勉強しました。早稲田大学の中国語の先生に、特訓をしてもらって一生懸命勉強しました。いくら勉強してもすぐ忘れます。年が寄ったらいけません。飯塚さんも今一生懸命中国語の勉強をしています。もう駄目だといっています。皆さんはまだまだお若いですから、順応性がありますから一寸勉強したらできるだろうと思います。年が寄ったらだんだん駄目になります。今は大事な時ですからそういう国際化社会地球市民としてどう生きたらいいか、ということをじっくり考えて見ることは必要だろうかと思います。それからもう一つはやっぱり皆さん機械には恐れをなさないで挑戦して下さい。今ロボットが15万位あるんですよ。ロボットが全部仕事をしています。この様な問題に対して皆さんは機械は苦手といって逃げまわらずに挑戦してゆかねばなりません。今まで邦文タイプライターを打っていた人もタイプライターを全部倉庫に入れてしまって、どんな職場でもワープロに変っているでしょう。どんどん変りますよ。そういう時にどんどん、どんどん変っていく時に一寸しり込みしているとだんだん遅れていくわけですから挑戦してみると非常に大事だらうかと思われます。

これは未来社会からの呼びかけに応えて、今何をしておかなくちゃならないかということを誤りますと我々は決して幸せな道を求める事は出来ない。今戦後の教育は30年か40年でいろんな問題に直面しています。そういうところから、今私達はという事と未来社会からの呼びかけで今私達はというその接点の中で我々は考えしていく事が必要ではないでしょうか。そういう事を考えた時に国際青年年でも訴えておる様に、参加とか開発とか平和とかといわれておるけれども、さて今の若者はどうなると考えた時に、どうも今申し上げたずっとけでどうか、自ら挑戦するという意欲が非常に乏しい。指示待ちの人間とかモラトリアム人間だとかいうのが非常に増えているという様な事になります。皆さんで一生懸命考えてみる必要があるんじゃないでしょうか。これを脱却するためにはどうしたらいいんだろうかという様なことを一つお考えいただく事が必要な様な気が致します。そういう事と同事に我々は人ととの関係の中に生きていかなくちゃならない。そのためにはその社会のルール、自分達の作ったルールを又自分達が守っていかなければならぬわけです。そのルールを守るにはどうしても努力し力というものを身に付けておく必要があると思います。今日の演題を見ますと「若者の心理」という演題を掲げてくれています。そういう中に生きる若者が今申しましたように一つはずっこけておるという様なところから所謂自殺なりノイローゼなどが増えているから先程申しました様に友を作れ、仲間を作れ、一人ぼっちよさようならという事を考えると、この演題の意味があるということです。もう一つはメンバーの一人としてどう生きたらよいかという事を考えていかなければならない、そういう時に私は一つ皆さんに提案したいのですけれども、いろいろなことがある時に、一寸待って十分の一秒いいから一寸待ってそしてその大丈夫かという事を確認してほしい。我々がいろいろな現代を生きていく時に大事な事の一つは一度立ち止って大丈夫なのか確認することです。なぜ私がその様な事を申しますかというと今の若者の中にはひょっとすると、すいすい、ほいほい型の青年が生れてはいないかという事であります。いわゆるバーバー型です。感覚的な人間が生まれてはいないかという事であります。非常に感覚的な。百貨店に行きますと昔はショウウインド越しに商品

が並んでいた。ところが今頃はそんな物は全部取っ払って商品をじかに肌につけて見なければ承知しない。そういう人間が生まれて来た。その中で特に若者にはファッションとかいろいろなものがあります。そういう時にどうもその感覚といいますか、そういうものが非常に優れて来た。だから今の若い人達というものは司会をさせればうまいし歌を歌わせればうまいです。カラオケもうまいものです。ちょっとダンスさせたらうまい。ちょっとそういうものをさせれば非常にうまい。歌わしても踊らしても司会させてもうまい。そういうところは私は戦後の教育の成果だと思います。何も戦後の教育は悪いとばかり思いません。やはり明治100年というものはそれなりに評価していいものがあると思います。

明治100年の教育というものは日本を近代化するために、日本の指導者養成をするために所謂大学というものが生まれて来たわけでしょう。だから国民のレベルをあげてゆき、水準を上げていくところに非常に大事なものがあった。義務教育をして障子の目の様にカリキュラムとかいろんなものを作つてやつた。それは或る意味に於て近代化を進めて行くために、レベルアップするためにやつしたことであつてそれは非常に成果を上げたと思います。画一主義の教育であったけれどもそれは成果をあげたと思います。ところが、今まででは、遅れていたから誰かやっているのを見て、少し改良して追いついて来た。そういうことで社会に貢献した。ところがある程度レベルが上りますとその改良貢献では許されない。新しいものを作り出していかなければならない。創造していかなければならない。創造貢献ですね。そういうところがこれからは教育であろうと思います。日本人は非常に話を短絡させるのですね。校内暴力とかがありましたら学校の先生が悪い、学校の先生は学校の教員養成が悪いんだといいます。ちょうど私は教育学部にいますから世界の教員養成はどの様になっているか調べて来てくれということで行って参りました。ドイツ、イギリスに行ってきました。

ノーベル学者は大したことではない。ノーベル学者は人間である。だれにもいえます。ドイツのゲッチング大学に行きましたら、このゲッチング大学からノーベル賞を貰つたのは、この3年で16人。卒業生16人で合せて32人ノーベル賞を貰つた。私は腹が立つた。ノーベル賞を審査するのは大体ヨーロッパの人が審査するからたくさん出す。といったけれども辛い。それはなぜかというと日本では基礎化学が出来ていない。だからこれからはいろんな発想の巾を広げなければならぬ。勉強だけをしていたのでは追付くだけですから発想の巾を広げていかなければならない。発想の巾を広げるという事は人間の巾を広げるという事である。そういう人間の巾を広げるというとひょっと発想の巾が広がつていろんなものに気がつく。昨年ハーバード大学の学長が入学式にこういう演説をしている。「大学という所は研究していたらよかったです。ところがこれからは創造貢献しなければいけないのだから、君達は例え文学部の人は理学部の人、理学部の人は法学部の人と或いは医学部の人といろんな学部の違う人と付き合いなさい。例えば農学部の人と理科系の発想をする人と文化系の発想をする人とは大分違うわけです。そういういろんな発想をする人の出会いが大事なんだ。勉強も大事だけれどもそういういろんな人の出会いが大事なんだ。その出会いを大事にしてこれからうんと人間の巾を広げてください」という演説をしている。私はそれはこれからは教育を考える上に於て非常に大事であると思います。だから出会いを大事に

しなければならない。ユネスコというところは、今つぶれそうですけれども、そのユネスコが学校とは何かと定義している。学校とは永遠の友との出会いの場である。二番目は学校とはよき教師との出会いの場であるといっている。^{つぶ}慣れそうになっているので止めときますが、とにかく出会いというものは、よき友、永遠の友との出会いの場である。それは何かといったら同窓会するだけのものだけではない、発想の巾が違うわけである。そういうものを出会いを大事にし乍ら創造貢献をしていくという様な事がこれからは大事なことである。個性はみんな違う。だから個性だという言葉が出て来るのはそういうことです。自由から嘘というのを臨教審でやりましたけれども、あれはむしろ個性から嘘といった方がいいのかも知れない。あれは大変ですね。自由から嘘、例えば教える方には自由はあるけれども教えられる方には自由がない。子供をみて勉強しなさい、先生はこれですよという自由はありますけれども、先生を選択する自由は学生にはない。それならあの先生は好きかどうか人気投票みたいにしてやったらどうでしょう。小学校では女の先生は殆んど失業するのではないか。そこまではやれない。なぜですか。それは我々が近代社会に生きているからやれない。だから出来る事と出来ない事は一杯ある。今申しました様に、これからは創造貢献しなければならない。今まででは改良貢献。改良貢献から創造貢献へとそういうところに進んでいる。そういう中に於て若者はという事が一つ問題になる。一寸脱線を致しました。けれどもどうもその現代の若者の一つの特性として感覚的なものは非常にすぐれていいところもありますけれども、それが行き過ぎると又問題点になっているということです。

我々の青少年育成国民会議なんかをやっている扇谷正造さんは朝日新聞の記者ですけれども、その扇谷さんが付けた名前がスイスイホイホイ型の青年。今の若者はスイスイホイホイ型だというわけであります。

数年前にいろんなところで誘拐事件がありました。大久保きよしという人がいて若い女人を殺して生き埋めにした後に、類似の事件がどんどん起ってきました。その時にスイスイホイホイ型という言葉を使ったんです。例えばキャンバスを持ってきれいな車に乗って「どうです、お嬢さん、今から写生に行くんですが一諸に行きませんか？」、こんな風に誘われた時にスイスイ乗ったから事件が起ったのです。そこで乗らなかつたらああいう事件は起らなかつた。大久保清というのは犯罪史上憎むべき存在であるけれども、勿論悪いけれども調子にのってスイスイ乗って行くから、そういう事件が起ったのです。だから大事なことは何であろうか。一度立ち止って $\frac{1}{10}$ 秒でもいいから大丈夫なのか確認をしたならば、そういう事件は起らなかつたかも知れない。こういう様な事を扇谷さんは云つたわけです。私もそれを拝借致しまして、これから我々が生きて行く時にどんな場合でもいい、お仕事の最中でも何でもいいから、ほんの10分の1秒でいい、ちょっと立ち止って、大丈夫なのかという確認の励行をするのが私達にとって大事なのではないでしょうか。それは今云つた様に感覚的人間が増えて理性を通して判断する人間が少なくなつて來た。例えば試験でも○×で、大学入試でもマークシートです。所謂作り出す作文とかいうものが非常に少なくなった。だから文章を書くとか作文するとか、いろんなものを作るとかが非常に少なくなつて來る。そういうような経験をしていると選択(チョイス)だけすることしか出来ない。考えるという事がどうもいかない、映像で映つて來ます。そのあとこれは合つてゐる、間違

っているということだけのチョイスです。選択だけだからそれを作り出していく、という事が不得手な人間が出来てきている。だからここでも調査する内容も○するだけでなくて下手くそでも書かせてみたらいいのです。書かせて見たら凄く字の間違っているのが多いですね。ここに来ている人はみんな間違えずに書けると思いますが、とにかく誤字、あて字が多い。そういう生活経験の中からどうしてもスイスイホイホイ型になっている。理性を通して判断する青年という者が少なくなっている、という様な事が一つの特徴ではないかと思います。それからもう一つは何だろうかというと、先程から申しています様に新しい意味でのモラトリアム人間というか、モラトリアム心理といいますか、そういう様なものが増えて来ているような感じがします。それを考えてみると、という事が一つの問題の様な気がします。新しいモラトリアムとか古典的モラトリアムとかいろいろなものがあります。新しいものに敏感に反応して自分のものとする能力を持つ者の優越感それが正しいモラトリム心理の1だそうです。それから2番目がより開放感というものを得たい。3番目は修養するよりも遊びを大切にする心です。修業するとか修養するとか、そういうことよりも遊びを大切にする心、そういう心だそうです。4番目、社会に於て認められた既製の行動様式を身につける事に対して自からを局外者の立場におくことにより否定し、評価だけを専らとする当事者意識の欠如。その様なところから起る無意欲、シラケというものが新しいモラトリムの心理である。そういうところで例えば大学生を見てみると、ひょっとすると大学をレジャーセンター位に考えて勉強するというよりも遊びに専念しています。私も今年、去年の香川大学の大学祭の後で、「大学祭は何をしているのか?」いろいろ学生と話した事があります。どうもその遊びといいますか、楽しむという事が非常に多いんですね。昔は展示場を出したり、研究物を出したりすることが多かった。けれども此の頃のを見てごらんなさい。大学祭いうたらコーヒーを売るコーヒーショップだとか、うどんやさんだとか、何かバザーばっかりやる。下手したら美人コンテストみたいなをして喜こぶ大学生がおる。そういう様なことになりますと楽しむということ、勉強するとか修業するとかいうことよりも楽しむことに中心が移っています。もっとひどい奴になるとそれにも参加しないで旅行しているわけです。北海道旅行をね。なぜかずっこけて旅行している。だからそういう様に益々享楽主義的なものが進化しているという様なところがある様な気がします。私が今話しているのは、そういう気持になってますよ、という話をしているのであって、そういうことがいいという話をしているわけではないので間違わずに聞いて下さい。そういう傾向に流れているから君達はどうしたらいいかを考えて下さいという提案をしているのであってそれがいい事だとは一つも云っておりません。どうも享楽主義というか遊びというか、楽しんだらいいんだという様な傾向が非常に強くなつてはいないかということであって、皆さんがプログラムを作る場合でも、遊びで楽しくやつたらいいんだと考えないで欲しい。去年、甲子園の選抜野球の夏の大会で優勝したチームの監督がいったことが面白かった。「君達物凄くグランドで楽しんで来い。」、あの言葉は楽しんで来いといい、頑張って来いとはいっていい。そうしたら選手達は頑張ったけどね……。そういう様に何か楽しむとか、そういう様なところにだんだんと傾斜しつつあり、享楽主義に傾斜しつつあるということですね。だけど私はそれだけではいけないと思います。それだけではいけない。何か無くてはならないものがあるは

すです。そういうものを一つ皆さんで考えていただかなくてはいけないのではないだろうかと思ったわけです。結局、若い者の内にそういう様な傾向を持った若者が増えてくるという様なことが一つの特徴ではないかと思います。そういう若者というものは確かに今申しました様に快楽主義的な傾向を持っているということが云えると思います。それからそういう若者はどうしても第2に権威を否定する。だから自分の欲求を充実することには忠実だけれども、これをコントロールするとか、自分の息をコントロールすることはどうも下手くそである。先程申しました様に、下手くそである。だから権威をすぐ否定してかかろうとする傾向が出て来るということです。もう一つ私達が気をつけておかなければならぬのは、自分を良く目立つ様にすることです。自分を目立つ様にすることは非常に好きなんです。云いかえたら、自分を表現するとか、かっこよさとかそういうものを割と求めるわけですね。そういう様な傾向が今の若者にはある様な気がしますね。自分をよく見せようというところはありますね。今話をしているのは、今の若者というものが現代社会の中でどういう様に変って来ているかということと、どういう様な特徴が現代社会の中で生まれつつあるかということです。云いかえたならば皆さんのお父さんやお母さんも若者の時代があったわけですね。だけども皆さんのお父さんやお母さんの時代とは今の若者とは違ったものが生れて来るのである。今の社会というものが進展しているから、進んでいるからいろんなものがこの中から生れて来ている。けれども、この若者というものは、今の若者だけではなくて皆さんのお父さんやお母さんの時代も若者であったわけですね。発達心理と申しますか、幼稚園、小学校、高等学校、大学、大人とこういう流れの中で人間の一生の中で若者の時代にはこういう様な気持になりやすいというものがあります。それが一つと、今の様に社会が变って来ると、そのいろんなものの考え方方が变って来るというものがあります。これは若者でも日本の若者とドイツの若者とか、或いは中国の若者では同じ若者でも意識が違いますね。又それに対する行動も違って来るわけですね。又総理府が世界の若者の調査を5年目ごとにしているわけですが、同じ問題でしていますけれども、所変れば品變るというので日本の若者と中国の若者とは違います。中国へ行ったらすぐに君は何のために生きておるかと聞かれるんです。この前に何のために生きているかと聞きました。私は1975年に行きましたが「毛沢東路線を推進する革命の戦士として生きている。」と上海の青年でも北京の青年でもいいました。向うから日本の若者に「君は何のために生きているのか？」と聞かれたら、「さあー」といって仲々答えられないのです。1975年に連れていった若者には必ず聞かれるぞと云つてあるのに答えるのですね。

瀬戸内の霧の様にボーッとしていて気楽に過したらしい、その日その日が楽しければよい、所謂社会のために奉仕するというよりも自分の幸せ、片隅の自分の幸せを求めるのです。そういう日本の若者が増えていますね。開発途上国の若者は物凄く違いますよ。話をしても。例えばバンバの青年、ビルマの青年、或いは此の頃でしたら、バングラデシュでもそうでしょう。そういう青年と話してごらんなさい。今は日本に遅れている、先輩国だけど今は自動車でも何でも遅れているけれど、やがては追いつくぞという風に語ります。請うまなざしですね。私は昭和39年に日本の青年の海外派遣の引率をしました。昭和39年ですから今から21年前です。そのとき、100日間あちらこちらを訪ねましたので、そういう様な関係で外国から来ると必ず私の

所を訪問してくれるのであります。外国の青年達を案内しております、農事試験場へ連れて行きましたら、やはり一生懸命見ています。その目差しは、今は遅れてるけれどもやがては追い着くぞという風に見えます。それで、「あなたは何のために来ているか？」と聞くと、「社会のため国のために来ています。」そういう表現をします。ところが日本の青年はどうですか、初めの30分位はちゃんと聞いていたけれども、丁度1時間たってから、そろそろ辛らそうな顔をしています。どうでもいいやといった様な顔をだんだんし始めて来る。でまあ行け行けといわれたから来てやったが……。そういう人が多いですね。無駄な研修に来てと思う人が多いですね。皆さんはそうじゃないと思いますが。だから私は前からそういう相手がいると話をしない。

アメリカ人は自由とかいろんな事をいいますが公益義務は前から学んでいますよ。私は20年前にハーバード大学に集中講義に行きました。自由主義の国だから、もうばらばらだろうと思っていたら50人しか聞かさないのです。51人目は来年聞きなさいと云われて腹が立たないのかなあと思いました。前から並んでいるのですよ。それで一つの説が悪かったらバアッと手を上げるんですよ。聞きますよ、質問しますよ。それにして来ている時は一生懸命聞きます。それなのに外へ行ったらバアッとやっています。やはりやる時はやっているんですね。私はそれ以上席は前から坐れ、前からでないと絶対いけないという癖をつけています。今日は1回講義だけですから余りやかましく云いませんが……。

5分位休憩するかどうか。僕はこういうのは好きではない。2時間位辛抱して聞いたらどうですか。これが若者の悪いところである。寝たい人は寝て、終りの7分間だけ目をさましてずっと聞いていたよという様な顔をしていなさい。大学の授業は2時間区切りです。2時間区切り位我慢しなければならない。

社会生活するにはルールがある。そのルールを犯してまでは他の事をしてはいけないという話をしたんです。ここにはルールがある様ですからルールに従う事にする。或いは休まんでもいいと思う人もいます。人間というのはみんなそれぞれ、こうしたいなあと思うものがあるわけで、それを心理学では欲求という。ところが何々したいなあと思っても思い通りにはならないですね。例えば、私は続けて11時半までやりたいなあと思ったけれども、そういうふうにはならないですね。どうしてかといいますと、いろんな力があってこれを決めつける。もう1つの力が働いて来てそしてその5分という休みという行動になったわけですね。皆さん方も例えば何々をしたいという「たい」がありますね。お腹が減ったらご飯を食べたい。たまには旅行をしてみたい。或いは海外に出て教養を高めたい。「たい」は「たい」でもこの「たい」は大分違う「たい」ですけれども、そういう「たい」があるわけですね。そういう何何をしたいという「たい」ともう1つは、それをうまく出来る様に応援したい。又それを或程度押さえたりするもう1つの力が働く。その2つの力が千差万別に働き合って具体的な人間の行動というものが展開されているわけである。我々の目にうつるのはいわゆる行動です。行動が我々の目にうつるわけですけれども大切なことはその行動を手がかりにして、この人にはどんな家庭環境があってどんな両親と生活しているだろうかというところを或程度見極めていくことです。私達はいろんな人と人の関係の中でいろいろな仕事をしていく場合に、やはりその人も人間ですから人間の基本的なもの

といひますか心理学的に考えました時に基本的なものがあるだろうと思います。そういうところを或程度常識として知っていないととんでもないことになるかも知れないという様な気がしましたのでこんな図式を書いてみたわけです。大事な事は人間にはどんな欲求があるのだろうか。これは顔が違う様にみんな違うわけですね。だけど犬や猫とは同じではない。人間ですから何か共通なものがある筈であろう。その程度の事を知っておくと我々人間生活を営んでいく上に於て、或いはこれから集団生活を営んでいく上に於て、役に立つのではないか、という様な感じがします。若者も人間である。人間の底にうごめく欲望というものもある。欲求というものもある。そういうものもちょっとふれて纏めてみたいと思います。その人間にはどんな欲求があるのだろうか。いろんな人がいひますけれどもその初步的なものとしていわれている第1が所謂承認の欲求。認めて貰いたいという欲求がある。人間は誰でも一寸よくみて貰いたい優越の欲求。人間は誰でも仲間外れになりたくない。集団種族での欲求人間は誰でも愛したい愛されたい。人間は誰でも1つの事をなしとげたい。いろいろな事がありますがどうせいろいろなことを云いましても忘却とは忘れ去る事なりと忘れますから5ついつっておきます。片手だから忘れないだろうと思いません。もう一度いひますと人間は誰でも認めて貰いたいという「たい」がある。人間は誰でも一寸偉く思われたい。一寸だけです。あんまり変り過ぎたらいけない。よく私の所へ学生が来て話すのに、4月から東京へ行って夏休み頃帰ってきて「先生、私はS。大分変ったでしょう。」という。見たら少しも変ってない。青年とはこんなもんだよと、よっぽど云ってやろうかと思うのですが、云うとがっかりするから、「そうか」といって聞いていると面白いですね。それだといつて「あ、あんた物凄く変った、この調子で変ったら動物園でみて上げないかん。」こういうと又がっかりする。どうしてでしょうか。そんな事いって貰いたくないのですね。変り過ぎて動物園まで行ったら困る。だけど一寸だけ偉く思われたら、そういう一寸だけというのがあるんですね。だから皆んな話す時でも、余りおだてたらいけませんよ。一寸だけですよね。「ア、そんな色が今年の流行か」なんていうと喜ぶんですね。それ以上云ったらいけない。それ以上云ったらもとがしれるから。それから3番目には人並のことがしてみたいのですね。取り残されたくない。仲間外れになりたくない。その辺も大事なことだろうと思います。このへんのことがやはり人間の本能としてあるわけですね。3番目が取り残されたくない。仲間外れになりたくない。4番目が人は誰でも愛したい愛されたい。5番目が一つの事を成し遂げたい。これはどんな仕事をする人でもですよ。人を相手にしてやる仕事でしたら、みんなこういうことを考えておかないといけないです。此の頃はどんどん、どんどん……機械化されて会社とか銀行とかいうところの会社の中で働く人は殆んど女人になってしまったですね。女人はワープロとかパソコンとかを打って、男の人は外に出てその会社に対しいろんなことを提案する様になるだろうという様なことになりますと、どうしてもそこの人間を相手にする時には少なくともこれ位のことは知っとかないリーダーにはなれないわけですね。皆さんの中に集って来たのは、若者であれ、年寄りであれ、誰であれ、そういう基本的な常識を持っていなければなりません。基本的な欲求として今日は5つばかりあげてみたい。

これは松下さんでしたか、部課長研修で、こういう人間の基本的欲求について勉強したもの

です。我々もよく引っぱり出されてよくしゃべらされたものです。家庭電化が進められる前でテレビが出たり或いは電機洗濯機が出たり、ああいう物が出る時に一勢にこういうものの勉強をしたんです。一寸日本は遅れていたというわけです。その時に我々は引っぱり出されてこういう話をしたのです。ところが会社というものはがめついんですね。研修をしたら必ず後でディスカッションをやらせて、レポートを書かせます。本当に殺人的ですね。我々が何をしゃべったか整理されていまして、それと同時に6,6討議というのをやります。こここの研修にもある様ですけれども、6,6討議ていうものの原点は1です。その次は3です。3人で討議させたら割とうまくいきます。3人寄れば文殊の智恵というのがあるでしょう。2人だったら妥協して易きに流れるということです。3人いると妥協しないのです。だから3人でいろいろ提案して討議さしたら割と実りが多いです。その次は6人です。4人にしたら団らんムードです。コーヒーを飲む時にも4人でのむのも2人でのむのも団らんムードです。ところが6人になりますと今の様にフレームがつくんです。だからそういう団らんムードにならないんです。だから文部省は6,6討議というのをやってます。

昔の兵隊さんは1個中隊が3個中隊で3つの小隊で3つ位しか見ないです。36人の3倍すると108人ですね。これが除夜の鐘です。こういう研修をする時よりどころの線というのは一体何だろうか。例えば学校教育の適正規模とは何か。いろいろありますけれども、我々がいろいろな協議をしていく場合の元になるのは3だそうです。私は印度へ行った時に、坊さんからいろいろ教えて貰ったんですが、今の煩惱の108の鐘は冗談ですけれども何かこう3というのが元になりそうです。例えば奥さんに電気製品を勧めるのにどういう勧め方をしたら最も効果的かという問題が出ます。それで6,6討議をして持って来るんですね。「非常に性能がいいですよ。」とか「非常に便利ですよ。」とか「奥さんの手間が省けますよ。」とかそういう解答を出したらみんなアウトだそうです。

その時にどういう解答をしたら先ず先ず合格したかというと、「お隣りの奥さん買いましたよ。」勿論こういう欲求がみんな頭をもたげて来たと思うんですけれども、最も強くゆさぶったのは1番ですか2番ですか3番ですか……と思いますが「今ねお隣りの奥さん買いましたよ」

今から年前の奥さんである。その後出廻り始めた家電ですね。そういうものを勧めるにどういう勧め方をしたら勿も効果的であるか。お隣りの奥さん買いましたよ、何番ですか3番ですか、2番ですか、これが人間の心の動きです。いいですか、3番ですかといったら必ず2番いふんです。2番ですか云うたら必ず3番と云う。いいですか、これがこつですね。例えば2番が正解だとして別なこというた。3番ですかいうたら2番やそうやいうならない。どっちでもいいけど、どっちでもいいですけれども今3番ですかいうたら2番や、2番ですかいうたら3番や、3べん繰り返します。もう一度云います。今から時は20数年前、電気製品が出廻り始めた頃であり、今だったら住宅街の奥さんにどういう勧め方をしたかといったら、「お隣りの奥さん買いましたよ」が1番効果的である。勿論この協定事項を準備万端最も強く疑ったのは何番でしょうか。そこでいわしたらいけない。そこで解答は一つですからね。そうでしょう。何番ですかもう一度いいますよ。さっきから2番と3番と2番になったわ

けですね。何番ですか、はい3番と思う人正解2番と思う人手を上げて、そうしたらどっちか間違ってますからね。そうでしょう。どっちか間違っている。そうするとこれはやっぱり授業終るまで間違った解答した人は気まずいでしょうね。だからそこでどうするか、深追は止めなさい騒ぎは止めなさい…………。これはね人間の顔色を黑白を明白にはっきりさせても何もとくにならないのですね。だから話し合った方ね……。そうしたらどちらがあっているかわかりませんのですからね。2番と3番いうたんですからね。誰がいったかわからんのですからね 深追は避けてやっぱり今のは住宅街というところに於ておりますので今でい。たら団地ですね。だから団地の所にポイントがあるとするならば勿論その頃でしたら優越の余地もはかられたと思いますけれども、お隣りの家の旦那の月給は一緒なのに何であそこが買えてうちが買えるのかといらいらするんですね。不安定になります。そこをつかれた、とこういうわけですから勿論働きますけれどもどちらかというと3番が正解ですけれども、手を上げさせたらいけない。深追は禁物であり特に青年指導は深追いして追い込んでしまったら逃げ場がいるわけです。特に青年というのはプライドがありますから深追いは禁物である。いいとこまで押しといて、というところが必要なんですね。特にリーダーにとって大事なことであろうと思います。私はこんな話をルームクーラーがはやり出した頃で、もう5,6年位前ですか、松山の商工会議所で話したことがあります。販売会議の時にこんな話が出て来たんです。「お隣りの奥さん買いましたよ」という話を聞いた社長さんが、「よっしゃ」といって帰って店員を集めて話しました。その話を聞いた店員さんが阿讚山脈じゃなくて愛媛県と高知県の山の涼しいところヘルームクーラーを売りに行っていました。「お隣りの奥さん買いましたよ。」そしたら、「あそこは買う筈がないでしょう。」といわれた。その社長さんから電話がかかってきました。先生、「お隣りの奥さん買いましたよ。」といつても駄目でした。どうしたらしいんですか?。私は電話でこういいました。ああそうですか。人間全部同じ人じゃないですよ。四国山脈の涼しい所へ行ってお隣りの奥さん買いましたよといったって買わないのは当たり前でしょう。それなら、どういえばいいのでしょうか?。お宅が買ってくれなかったらどこが買いますかといえばよい。そういえば、そうですかとニコッとするでしょう。皆さんもそうでしょう。肩叩いて「オイ君でなければいけないんだ、頼むよ。」といえばニコッとしてやってくれる。だから人間というものは面白いですね。いろんな気持があるわけですから、そういうところを理解しておくことが非常に大事なことだと思います。知っておくという事が非常に大事なことだと思います。そういう意味に於て人間は誰でも持っている基本的欲求があります。そういうものをやはり知っておかないといけませんですね。大都会にいましてね女の子を見てごらんなさい。高い20cmものハイヒールをはいて来て、ひっくり返りそうになる。足をねじはしないかと心配になります。一昨年位でしたか大國主命のズボンの出来損いの様な太いのをはいている。それは何ですかといったら、あの先生は駄目だとなる。それではどういえばよいか。「ああ、今年はそれが流行か?」といえばニコッしますよ。そして「あの先生は物分りがいい。」といわれます。何も物わかりが良いのではありません。そこで、もう一つパッとついてやる。「今年は何色が流行するのかな?」そうするとニコッとして答えて来る。少しだけれど一人前より一寸高く評価する。そこで倫理的にいいとか悪いとかいうたらいけません。い

い事もあるし悪い事もある。いろいろあるのです。だからそういう人の心のについてあるところを理解するということが私達にとって大事ではないかと思います。皆さんの様なリーダーにとって大事なことではないかという気がします。そういう面から人間を見ると、もう一つ2番目には発達です。発達という発達主義的な面から人間を見る。ビブラ隊の研究というのがあります。ビブラの奥さんです。ビブラという先生が非常に人間発達を面白く説明していますので、一寸ビブラ先生の言葉を借りて今日は紹介してみたいと思います。

ビブラ先生はオギャーと生れてみたら、そこにある木にも年輪がある様に、又竹には節が入っている。その節々に名前をつけておかなければならぬ。オギャーと生れて歩き出す頃までを一つの時期にした。乳児期です。歩き出してから小学校に入るまでを幼児期、それから次に児童期青年期、壮年期、老年期、こういうふうに分類しました。その次に墓場へ行きます。オギャーと生れてから墓場に至る長い人生をこういうふうな節々を上げて話をしました。ところが夫々の時期には夫々の節の特徴がある。発達段階に於ける特徴がある。幼児期の子供は自己中心的であり、そういう様な意味に於て叱るべきである。学童児童期には非常に理にかなった物の見方をする。そういう意味で客観的である。それから青年期の子供は自己主張が強い。そういう意味で主觀的な時代である。壮年期というのは非常に現実的である。そういう意味で客観的である。60の坂を越えると非常に頑固になる。そういう意味で非常に客観的である。その次は墓場ですから……。そういう様に主客主客と人間の物の考え方方が變って来るというふうに説明しました。その説明が正しいかどうかは別問題として、人間の心の底にそういう様な流れがあるというふうに考えて見ても間違ってはない様な気が致します。それは日本の心理発達心理をやっている牛島さんとかいろいろな人が、人間の物の考え方を主觀的な極と客観的な極に分けました。地球にも南極と北極があるということで両極に分けて考えると人間の物の考え方方はこういうふうに変っていくといったわけです。オギャーと生れてここは幼児期、ここが児童期、ここが青年期、ここが壮年期、ここが老年期と、昔は人生50年ですからここで死んでくれたのです。今は80ですから又曲ってきてします。ここまで来てしまった。こういう事です。そうしますと、幼児期、青年期と老年期とはどちらかというと主觀の側によっている。児童期と壮年期はベテランのこちらに寄っている。こういうわけです。ここは自分というものが強く前に出る。自分というものが強く前に出ますから外との間に摩擦衝突が起きます。その摩擦衝突をこの人が見て勧告となる。それが何回もありますからここを第一勧告ここを第二勧告ここを第三勧告とする。そういう様に人間の物の考え方というものが流れて行く。そういう流れしていく中の例えは皆さんは今したらどのあたりにいるのでしょうか？曲っているのですか？曲って済みましたか？曲り損ねたのですか？曲り損ねると、これは非行青少年という。ここを曲りそこねると、どうなるか？48才の抵抗という曲り角は非常に大事なところですね。どうか知りませんけど、青年期の場合でもここを青年前期といいますが青年前期と中学生の時は（女の子などは小学校6年生からそうですが）内面化して、今まで全員外ばかり見えていて、客観の世界ばかり見ているから、今度は自分を見つめて来る。今度は自分を見つめて、肉体的自己をうまく見つける。能力的自己をその次に見つけて、自分の弱いところが非常に気になるわけです。女の子だったらだんだん足が太くなって来て気になり始める。

その時期に晩ごはんの時にお母さんが、「まあ、あんた足が太いね。」といえばがっかりする。
その時はそっとしてやった方が良い。

あの委員長さん一寸頭が禿げてますけれど、禿げ頭いわれたらカッと来ますね。人間という者は自分の弱いところをすんなりいわれたらね物凄くショックに感じるものです。おれがおれがという唯我独尊の主観の世界に沈潜するのです。

此の頃の大学生でも就職試験にはきれいな背広を着て行きますね。今までバーッとしとる奴がネクタイして行きます。「君どうしたの?」と聞くと再就職試験ですといいます。「そんなことせんでいいのに。」というと「あれはあれ、これはこれです。」と答える。そのことがそれ程矛盾にならないんですね。そういう時代がこの時代ですから。「君//もう矛盾することはいわないように。」というと追い込み過ぎて反発をうけるわけです。こういう様に同じ青年期という者を見た場合でも発達という面からこの時代はどんな時期だろうかというふうに見ると発達心理学の青年心理になるわけですね。だから若者という者はこことここでは違います。非常に違うわけです。だけど、全体としたらこちらに寄っている。こちらに寄っているというところが共通しています。こういう様な見方が一つの見方になります。これを又逆に教育学的なものとかみ合すと、青年期というものは身体的にはエネルギーッシュな時代です。だから徹夜の一晩や二晩したって平気ですね。その位エネルギーッシュといわれていた。この頃はそうではないですね。この間から新入社員の研修がありまして、いろいろな所でこういう声が今年聞かれています。先ず、すぐ頭が痛くなったという。腰が痛くなる。最後まで聞かない人が非常に多くなった。今年の新入社員教育の特徴です。すぐ頭が痛くなり、お腹が痛くなる。最後まで聞かなくなる人が増えたという話をしている。それからその次に知的には文学誌を読んでも解るし哲学誌も読んで解る時代です。だからチルチルミチルとか理想青い鳥とかそういう夢を追い求めてゆく。そういう理想主義的傾向を青年はもつわけです。第3番目は感動的であり、情緒的な側面があります。ところがそれはモラトリアム心理からいいますと、どうも今の若者はそういうところは薄らいで来たのではないかと思います。そういう中に若者というものをやはりもう一度取り上げてみる必要があると思います。

人間というものを見る時には発達という面から青年若者というものはそういう時代です。だから東西を問わず日本人であろうとソビエトの若者であろうとどこの若者に於ても、そういう流れは必要です。人によって早い人と遅い人がいるが順番は狂わない。テンポが違うわけである。いつまでもこの辺にいる人がいる。いつまでも青年前期にいる人がいるし、テンポは違いますがこういう流れの中のこういう一こまを過して行く。だから人間を見る時にこういう流れの中で自分の前にいる奴はどこへ行っているのだろうか、自分はどこへ行っているのであろうかという事を考えないと人間関係はうまくゆかない。相手の事ばかり見て自分はどこへ行っているかを見ないのも困る。その中に関係というものが生きていくのですが、そういう流れというものの方向と順番は変わらない。テンポは変る。同じ生年月日でも一寸違う。そういうことを正しく掲げていくという事がリーダーには必要でしょうし、又自分はどういうところにあるかという事を知っておかないと人間関係の調整というものはうまくいかないと思います。こういう面からみるのが一

つです。もう一つパーソナリティ 形成というのがある。人間のパーソナリティはどんな関係かという色々な問題がありますが、例えば顔が似るというようなことは遺伝します。例えば、皆さんの血は親から半分貰っているわけですから半分は血を検査して病気の診断をします。全部血が問題になる。誰でも性格的なものは後から作られる物が非常に多い。感情的な要素で作られるのが非常に多いといわれている。どの様に作られるのでしょうか？一つは人形術の様にまねるのです。真似ていく中にだんだんとその子供の性格が作られて来ている。もう一つはテレの構造に依る人格形成、これは皆さんの時代に特に影響があると思う。1900 年の初め頃に「人間関係の心理」という様なものを取りあげて来るわけですけれどもその時に人間はいろんな人と暮している。例えばⒶという人がいろんな人との関係の中に生きている。例えばおやじとの関係、或いはおふくろの関係、或いは妹との関係、或いは親類のおじさんとの関係、或いは趣味の釣りが好きであれば釣りの関係、学校の同級生とか、或いは近所の人とか色々な人との関係の中にこの人は生きている、生かされている。その色々な人と人とのかかわり合い、いろんな人と人の関係、それをテレといいます。そのテレにはいろんな性質がある。まず、テレには強弱がある。強い関係もあれば弱い関係もある。だから皆さんとの間にもテレの交換が出来ているわけです。私と皆さんのテレよりも皆さんと皆さんのおうちの人とのテレの方が強い筈です。そういう様にテレには非常に強い関係、弱い関係、強弱がある。2 番目として、テレには転移のテレと反発のテレがある。引っぱり合うテレと反発し合うテレがある。情緒的に申しますと愛と憎しみの関係がある。そういう様に引っぱり合う関係と反発し合う関係がある。

3 番目として或特殊のテレを強める。例えばここの関係を強めるとある特殊なテレを強めると他のテレはだんだんと薄らいで来る。物凄く強くなると私と離れられない関係になる。私とあなたの関係になってこれが全部自滅する。だから心中というのは私とあなたの関係になってしまって他がなくなってしまった。これを云いかえると痘痕も笑くぼに見える。だから若い時に物凄い熱烈な恋愛をするでしょう。そうしたら男の方からいうと、空の星ほどいるとはいいませんが、沢山女の子はいる。女の子からいうと男は一ぱいいるわけです。ところが余りここが強くなると痘痕も笑くぼに見える。こうなった時にはこの関係ですね。そして永遠の統一をしたら自殺心中に到る。だからここが非常に強くなったらここが要望する。例えば連合赤軍でもあの浅間山荘に立てこもっていますとこの関係が非常に強くなります。お母さんがマイクを片手に持って「迷惑したから出て来いよ。」といつてもこれは銃声が一発帰って来るだけであります。これはこういうこっちの定理が出来たので、だからリーダーとしては、こいつは役に立つと思ってこいつばかりに用事をいいつけていたら外の者皆んなそっぽを向きますよ。全部そっぽ向くということになります。

4 番目は何でしょうか？4 番目はもう孤立である。そういうこのテレと人の関係を研究していく中に人間関係の心理を研究しておられる人がモレノでございます。モレノはこのパーソナリティ、人間の性格というものはテレの構造の特色によるといったのであります。だから、皆さんがどんないい人とどんなかかわりを持っていくかは皆さんの性格を作り上げていく上に於て代用になっていくという事です。あいつはこんな人間でなかったと思うのに変ったなあという話がある

でしょう。それはいろんな人と人とのかかわりの中で人格というものが作られていくということです。だから今はRYLAでいろんな人と会います。或いは永遠のつき合いのある人もあるかも知れないし、今日今回だけでさよならになるかも知れないし、皆さんのテレの構造にこの仲間といいうものは非常に大きな影響を興えるわけです。

そのテレの構造を人格形成に於て、望ましい様な方向にしていくということは、その人の意志に依って或る程度出来るわけです。もう止めておこうとか、やろうかということができるわけです。そういうテレの構造の特色というものがその人のパーソナリティの特色である。例えば、今日皆さんのところに新しい友がやって来ました。テレの構造は変る可能性があるのです。だけど一丹解散するともう大きな影響を興えないかも知れないのです。

皆さんのテレ構造はRYLAに参加することによって成長し得る可能性をもっています。だから皆さんの性格形成に於て、今回のこういう集りというものは非常に大きな意味を持つということです。そこで皆さんはこの機会を自分の性格形成の上において望ましい様な傾向に発展させるのも発展させないのも自分の意志で或る程度決められるのです。どうぞこれから約3日間の生活を皆さんのが望ましい人格形成になる様に皆さん自身がお考え戴いたら有難いと思います。皆さんのまわりには色々な人がいます。その色々な人のいいところを学びとり乍ら色々な人の戦いの中で発想の巾を広げ乍ら人間の巾を広げ乍らどんな世界がやって来てもそれを乗り切つて、けるだけの逞しい力を今つけておくという事が必要であろうと思います。そういう意味においてこの大自然の懐でこの余島というこの大自然の設備の中で、皆さんが逞しく、どの様に生きていくかということは自らを決めていく大事なポイントであるということを感じます。どうぞこの機会を意義ある機会としてほしいということをお願い致します。最初に申し上げました今年は国際青年年でございますので何にでも若者が挑戦してみよう。トライということを申し上げ、その中から自己啓発をして、そして友との戦いかいつでも出来る体制をお作りいただきまして、宇宙市民としてどう生きたらいいかを考えていただきます様にお願い致します。

講 演



加藤 義和

私 の 社 会 觀

加 藤 義 和

皆さんお早うございます。只今ご紹介を賜りました観音寺市の市長をし乍ら皆さん方にも非常にご愛顧いただいておりますカト吉ちゃんのエビフライ、エビコロッケ、カト吉グループの会長ということで二足の草鞋をはいている加藤ですが、今日は第7回のライラーセミナーにお招きをいただいたて2時間社会観というテーマでお話せよということでお招きいただいたて非常に光栄に思い喜んでおるわけであります。

私の社会観ということでございますが、私が毎日行政や又経営の中でいろいろ考え出されることを今から話をしてみたいと思います。先ず私の哲学を申し上げたいと思います。私の哲学は総て人だということです。それは皆さん方の家の中で喜び多い幸せな家庭を築いていくのも、又勤めている企業や団体を充実発展させていくのも、又住んでいる故郷を住みよい豊かな明るい町に発展させていくのも総てそこに居る人がつくるのです。そこに居る人の考え方、行いによって家庭が喜び多い幸せな家庭にもなる。又企業や団体も発展する。よくなるも悪くなるのも総て原因要因があるんです。その原因や要因は誰が作るんだといえばそこにいる人なんですね。総て人がなすんだと云うことです。その人というのは、環境や風土によって考え方、意識や心が、育って来るんです。環境や風土によってその人の考えが変化して来る。環境や風土は誰が作るのかといったら又そこにいる人です。まあいわばそこの指導者、主人なんですね。会社でいうたら社長や重役の考え方や行いがそこに会社の社風を作るんです。環境を作るんです。そこで人がこう育っていくんです。その人の心や意識が培われていくわけです。まあ総て人だというのが私の哲学です。まあそういうことから社会観の話をする時、又人生観や経営の話をする時にも、冒頭に英國と日本を比較せよ、と申し上げることにしています。それはどういうことをいうかというと、日本はまだ皆さん方は生れてない時なんですが、昭和20年、今から40年位前に戦争が終った。戦争が負けたわけでその時に私は小学校4年生で9才だった。昭和20年ね、その戦中戦後私の小学生、中学生時代どうなっただろうか。日本は今の様なおいしい飲み物はなかったんです。みかん水とかラムネがあったんですね。みかん水飲ましてもらえるのは病気かお祭りでないと飲までもらえない。一度米のご飯を腹一杯食べたいなあと、一度うどんを食べたいなあ、卵を食べたいなあとこう思った。お祭りが来れば、ばら鮓が食べられる、天ぷらが食べられ甘酒が飲めて学生服を着せてくればお祭りが来るのを非常に楽しみにしていた。私の子供の頃は、その位日本は貧しかった。その日本が今世界の中で一番自由であって豊かな国として発展した。

英國は私が子供の時に、英國のことを大英帝国、7つの海に雄飛して多くの植民地を持った豊かな紳士の国だと教わった。日本は戦争に破れて資源が少なく貧しくて40年前ですよ、そして40年間でどうなったか。今逆転している。日本の方が自由で豊かで逆転している。誰がさせたか、それはそこにいる国民、人がした。日本人の皆さん方の心配が、英知と勤勉努力で豊かさを求めて一生懸命頑張ったんです。だから今日この様に日本が発展したんですね。私は二度程英國へ行

ったんです。今から16年前の昭和44年そして6年前の54年の2度です。44年に行った時はね、先進国英國は先進国ですね。勉強を行ったんです。何の勉強を行ったかと云うたら冷凍食品の勉強にです。ヨーロッパへ行ったら多山式のオープンの商品、今の日本で売られると様な冷凍食品が沢山並んでいた。日本は今から16年前はねアイスクリーム売っとるボックスで売られとった。向うへ行ったらオープンでね多山式のショーケースで非常に進んでいろいろ勉強になる。只し英國の人のその時の所得は1人の平均で大体250万円位、日本はその時100万円位です。1人当り2倍半の所得です。英國はだから経済指標もいろんな文化の面も日本より進んで先進国であった。但し英國に行ってみんなが働いている姿、工場に行っていろんな働いている姿、町角に若いヒッピーが沢山いる姿、これを見た時に必ず日本が追いつくであろう追い抜くであろうという事を予測して帰った。みんなが働いている姿を見てこれは日本の方が上だ必ず追いつくだろう。そして今度10年たって行った。もう早逆転している。10年の間で今から6年前行った時には日本の平均の所得は300万であって、英國は240万です。80%と税金は国民の所得の平均日本は23%位です。その当時英國は37%税金だから実際の手取りは70%位。日本の人人が平均300万の収入があれば英國は210万位です。

私は5軒の家庭訪問をしました。英國でカラーテレビのない家庭が2軒あった。白黒テレビ古いテレビをまだ大事に使っている。カラーテレビの普及率60%代。6年前に冷蔵庫見せていただいても15年前20年前位の物を大事に使っている。家庭で食べているもの着ている物、日本と比較すると日本より質素である。収入も少ない。何故そうになったのか。かっての大英帝国豊かな国が日本と比較して何故逆転したのか。それはそこにいる人の労働意識・働く意識の遅い、やる気の違いなんです。やる気の違いがどうなっていくかということね、かっては英國は鉄工も造船も海運も皆進んでいた。100年前は大英帝国は進んでいた。でもそこに奮起がきて頑張らなくなるとそこで作るもののは高くなる。英國で鉄を作ったり自動車を作ったり、高いんです。高いからよその国では売れないのです。よその国から買う方が安いんです。よその国へ売るのは輸出ですね。よそから買うのは輸入ですね。輸出と輸入のバランスがくずれて輸入が多くなると赤字になるんですね。英國は赤字になってきている。赤字になるとどうなるかというとそこのお金の値打ちがさがる。皆さん方も海外行かれた方が何人かあると思うんですが、皆さんが海外へ行く時はドルと交換しますね。日本のお金は円、イギリスのお金はポンド、私が16年前に行った時には1ポンド860円で日本のお金860円出したら英國のお金1ポンドくれる。10年たって行ったら向うのお金の経済価値が下って460円で替えてもらえる。860円だったものが460円だから約半分ですね。給料倍貰っていてもそこのお金の値打ちが日本と比較すると2倍が一しょである。経済の伸びが違うから日本より悪くなつた。10年前に2.5倍であったものが10年たつてみたら80%に逆転している。そこのお金の値打ちが下っている。今行ったら1ポンド280円で替えてくれる。それだけ英國は衰退している。イギリス病とか英國病とか、何をいっているかというと、一生懸命働かないということである。16年前に行ったら1ポンドで食事が出来ますね。日本のお金860円出したら1ポンドで食事出来る。今皆さんに行ったら1ポンドで食事したら280円で食事が出来ることになる。その位なんです。只最近多少持ち出すドルが高い。これはアメリカは今金利が高いから

どんどんお金がアメリカへいく。アメリカの国は強い。将来も心配ないと投資するならアメリカだという事で皆んなアメリカへお金を持って行く。そうすると黒字になる。そしてドルが高くなる。実際は今経済では日本が一番うまくいっている。日本人は非常に考えて努力するからです。日本人と英国の人があなたがなぜそんなに違うかというと、英國は環境風土がよかったです、豊かだった。恵まれた英國は古くから繁栄した。但し日本も今その様になって来ている。日本も恵まれて豊かになって来た。だからここでしっかりとしなければならない。英國はね、福祉が早くから進んでいた。年金制度が100年前から確立している。今日本も皆さん年金はいっているから皆さん方が今度60才で勤め止めたら年金で食べて行ける様になっているんです。日本も、日本も全部の方が年金に入っているんです。それは国民年金とか共済年金とか何かの年金に入っているから老後は年金で食べて行けるんだという事です。英國は100年前からそういう制度が確立しているから英國の人にはもう老後は年金で食べていける。失業になってしまっても失業保障で何とか食べていけるんだという。英國は今12%の失業率。8人に1人失業している。町角に沢山ヒッピーがいましたけれども、失業しても失業保障3年位もらえるとか、その他に社会保障で何とかやっていける。日本も今失業したら10ヶ月は失業保障くれる。その後でも、もし子供さん3人で女親、4人でお母さんが身体が悪くて勤められないとか、又子供さんがまだ小さくて勤められないとか、そういう場合は日本でも1カ月に13~14万円最低の生活保障を受けられる。日本もそこまで進んで来ている。觀音寺市に2年前大西ヨシコさんといって中国から4人の子供をつれて引揚げて來た人がいる。長男と次男はもう成人しているが、言葉がわからないから勤められない。だから言葉がわかるまで生活保障が毎月16~17万円貰える。そして市営住宅に入れば家賃はいらない。中国にいる時お母さんと長男と次男が一生懸命働いて月に2万円か2万1千円位の給料しか貰えない。3人ですよ。今中国で1人大体月給は7~8千円なんです。自転車1台買うのに2万円かかるんです。3ヶ月の給料で自転車1台、日本へ帰ったら働きたくとも言葉が分らないから働けなかったんすけれども16万円もらえる。向うでは3人働いて2万円である。日本もその様に社会保障が進んで來た。そしてヨーロッパの家というのは天災地変が少ないので、湿度が日本の様に高くないのか、家が長もちする。200年くらいもつ。ヨーロッパの家は私が行って泊ったホテルは120年前のホテルでしたが、まだ一流ホテルで残っていますね。200年家がもつといったら、日本でいいたら7代ですね。30年で代が替ったら自分の代で家をやり替える奴は運が悪いということになる。七代もつものだから考えてみて下さい。家の将来ですよ、家の心配しなくていい老後は年金で食べられる、失業していても何とかやって行ける。働いても税金が高い。總て恵まれた世の中であった。古くからそうすると日本の様に勤勉さがなくなる。一部階級制度も残っているけれども日本は皆さん方のお父さんお母さん、そういう戦中戦後の苦しい中で食べる物も不自由な中で豊かさを求めて一生懸命頑張った。日本にはまだ見栄の文化とか恥の文化という隣りの人には負けたくないという気持があるから一生懸命頑張って立派な家を建てたいといろんなそういう人がいるわけですね。そういう勤勉さがこの違いが^{こんにち}今日この様に日本を発展させた。但し私は何を云いたいか、2つある。1つは人口1億5千万の国ですらそこにいる人の考え方行いによって浮き沈みがあるんだから、50人や100人の会社、4人~5人の家庭、10~20年もせんでも短期間にそういう浮き

沈みの格差が出て来るわけである。だからしっかりしなければいけないという事が一つ。もう一つは日本も英國の後を追っているんではないかという気がする。豊かになって恵まれて、自由で何でも役所がしてくれるんだ。そういう考えになって来てはいないであろうかと私は非常に思う。

私は市長しているからよくわかるんです、皆の心が。自分から何々しますという人は少ない。何でも市がしてくれる。そういう事を考えると市がするお金も、国がするお金も全部皆さんが今から税金で納めるお金なんだから、それをよく知つとかないかん。市長の金でしているのではない。政治家のお金でしているのではない。皆んなの納めるお金でしているんだから、それだけ皆が今からいろんな事に責任を感じて共にやっていくという心にならないと果せない。そういう点で日本の将来はこれでいいのかという事を私は憂慮します。日本のね、財政の話をするによく分るんですが、簡単に申し上げますと、その国のお金も市町のお金も県のお金も全部皆さんが納める税金なんです。それで今、国は行政改革とか財政再建の問題に突き当っていますが、何故行政改革をしなきゃならないのか、でこの行政や財政の話をする時には経済の話をしなければいけない。それはなぜか。国の財源も市町の財源も全部皆さんの税金でまかなうんだから経済がよくなったら税金がよけい入って来る。経済が悪くなれば税金が入るのが増えない。そうすると日本の経済はどうなるのか、それはですね、戦後順調にずっと発展して昭和48年の暮までは高度経済成長といって毎年2桁の成長して来た。48年の暮に何が起きたか、オイルショックですね。今から11年前オイルショックです。石油は日本では全然とれないんです。99.9%よその国から日本は輸入しとる。そのオイルが中東でね、いろんな戦争が起きたりいろんな問題から一べんに5倍になった。今から11年前ですよ。一べんに5倍になった。また日本へ油を送るのを15%減らすぞこう来たんですね。油というのは電気も、これ油で起しとんですね。皆が着とる化学繊維も油で作っとるですね。勿論自動車も油で走っとるし肥料も油で作っとるし、袋・ナイロン・ポリエチレン、ああいうもの皆油で作られとるんです。油が一べんに5倍になって油が来るのが減るというんで一時はですね、トイレットペーパーや洗剤を買い溜めしたことがあるんですね。で物が上ってどんどん、これではいかんという事で国は総需要抑制ということで一つ景気をぐーっと締めたんですね。金融を引き締めていったんです。それで国家は安定したんです。物価はそれから余り上らん。但しそれからが日本経済低成長ですね。それまでは高度経済成長。それから10年間は総て低成長、時には安定成長。で経済が低成長になって来るとどうなるかというと、それだけ税金が国や県や市に入らなくなる。国や県や市は福祉ね又教育ね、産業の振興費とか基盤整理とか、いろんな面にお金がまだまだいる。出る方がよけいいって入る税金が増えなかつたらどうなるか。金が足らなくなったらどうするかといったら、借金する。国の借金は国債発行という。昭和50年に5兆2千億円あった。5兆2千億円いうたら数字が大きいけれど、1人5万円です。1年間に日本の国民1人当たり大体5万円分を国が借金した。次の年、51年に7兆2千7百億円、昭和52年八兆4千8百億円、53年に10兆九千八百億円、54年に15兆2千7百億円、55年に14兆2千7百億円、56年に12兆2千7百億円、57年に10兆4千7百億円、58年13兆5千億円、59年に12兆7千億円、そして今年が11兆6千8百億円、この10年間にね130兆円国が借金したんですよ。これだけ借金が増えた、だから国はね行政改革で行政が余り金かからん様にして再建せないかん。130

兆円というと金額が余り大きすぎて分りにくいんですが、今年1年間の国の予算が51兆円位ですかね。その中で税金が38兆円位入る。専売公社や日銀やから足らず11兆6千億円からない金が今年国に入る。税金が38兆円だから130兆円いうたら3年半分の税金収入を先10年で使うんですよ。だから今からこれをしまいせないかん。大変な財政が来たんです。それでも国や県や市にもっとして貰わないかんという考えに多くの人がなるわけなんですが、だけどその国や県や市の金は皆さんの税金だということをよく一つ認識して欲しい。じゃ一体、お金はどういうものにどの位いっとるかということを知っとかないかん。5、6点申し上げますと、特に老人、私は老人クラブへ行っても又婦人会へ行ってでもこういうこの勉強会でね、やっぱりこういろいろな話をするわけですね。私は市長になった10年前ね、対話の行政というのがよくはやった。対話の行政、市長や知事はやっぱり県民や市民と対話をしてそれで行政をうまくやらなければいかん。対話の行政を私も打ち出した。話をしようと、何々して下さい何々して下さい、これをしなさいとお金のいる話ばかりするんです。これみんな聞っきょると、市長室へ印刷機でも据えてお金でも印刷しなきゃね出来ない。もっとこういう事の仕組を知ってもらわないかん。知って貰わないかんという事で訴える対話に変ったね。それで老人クラブや婦人会へ行って訴えるのが、まあこの位お金がいっとんですよと本日まで我々の故郷をよくしてくれた人は老人の皆さんですね。皆さんに対する福祉は充分考えて行くけれどもこれだけお金がいっとんは知っといて下さいよとお話しするんです。観音寺市で人口4万5,000の町でですね68才以上の方が4,300人いるんですよ。香川県は68才から医療費が無料なんですね。で6年でお年寄1人の医療費がいくらかいうたらね1年間で45万円なんです。そういうお話をしたら、そんなに医療費いっとるとは思わなかつたいうてね、ま自分が払ってなかったからね。観音寺市みたいな町でも、4,300人で19億円いるんです。老人の医療費が観音寺市の予算で1年間に市の税金はどの位かいうたら37億位入る。町の老人の医療費が19億円、但しそれは全部市が出すんじゃないんですよ。国や県や市や国民保険ですか、このまわしたところから出るんです。そのお金、全部国の税金も県の税金も市の税金も国民保険も全部市民が払う税金なんですよ。そこから出とるんです。そして70才になればですね老令福祉年金といって全然年金をかけてない人も年間30万円位年金をいただける。で保育所の子供1人保育するのに大体今年間50万位いる。父兄からは大体、これは所得によって保育料は違うんですけど20万円位いただけるんですが後の30万円位は国・県・市が出す。幼稚園で大体1人の子供1年間教育するのに35万位かかる。父兄からは4万円位保育料を貰う。小学生の1年間の教育費が45万円とする。中学生で50万位ですね。そういう様なことを考えるとね、70才のおばあちゃんがいて中学生と小学生がいたとしたら医療費と年金で75万円です。中学生と小学生との教育費が95万円です。それだけで170万円は国や県や市が行政の方でお金をみてくれとるわけです。ま、それ以外に産業の振興費とか道路の整備とかいろいろ役所にはお金がいる。役所の金は全部国民が納める以外はないんです。天からは降って来ないんです、お金は。で金が足らないから借金しとる。但しこれは払っていかなければいかんね。まあそういう今日の情勢になっておるわけです。そこを充分理解しなければいけない。それは政治家に責任がある。政治家は何々します、何々します、することはいいんだけれども、それだけ負担をしてもらわないかんということもいわなければな

らない。それをいと選挙にマイナスになるから負担の方はいわん。する方の事ばかり云うわけで大きい借金が出来て皆さんにつけがまわって来るわけです。これが実態ですよ。ま、130兆円も借金してね、増税なき財政再建は出来ないんです。必ずどっかで増税はあります。但し、間接税で取るのか消費税でとるのかそらいろんな税金もあるから、130兆円借金し乍らまだ一兆円減税の方がうけるんですよ。たくさん借金しているのにまだ減税やいうてわかっとる事をね、政治家いうんは皆やっとるんです。但しそれは選ぶ方に責任があるんですよ。政治家の考え方変えるのは選ぶ人がもっと責任持ったことをして責任持ったことをいってくれる人でないと困る。だけどやっぱりみんなの票をいただいてみんなの喜ぶ事しかいえない。そうするとこのままいっとると日本はどうなるか、それを私は心配しとる。隣りの韓国や台湾ね、常に隣りとの緊張感がありますね。そして今働いてでも日本の給料の3分の1です。一生懸命頑張ってカラーテレビを買わないかん、バイクを買わないかんいって一生懸命働いております。男はね学校卒業したら2年間軍隊でいろいろし込まれても来るしね、そして一生懸命働いとるから今、鉄にしても造船にしても、造船なんか日本で作るいうたら1万屯の船を造るのに25億金かかる。韓国だったら22億円か23億円で出来るいうて韓国の造船は3年位受注注文を持つとるんですね。皆さんが持っているあの洋傘の折畳みの傘なんか韓国のがうんと安いからといって向うから入って来るんですね。今韓国もどんどん伸びて来て追い上げて来よるんですね。かって日本がヨーロッパを追いあげて追い抜いていた様に隣りの国から追い上げられてきよるわけですね。しっかりしとらないかんのです。日本のが優秀ないうても、最近スポーツ見とてでもねいろんなもの韓国に負けるものが大分出て来とる。そこでやっぱり私はしっかりしとかないかんといいう事をいいたい。皆さんそういう事ですね、日本の将来をね確かに今豊かで自由でいいんですが、然しこのままいっとったら英国でも大英帝国で豊かな国だったのが逆転せられたんです。やっぱりそこに居る人の考えが一番大事なちゅう事を私は申したい。まそういう意味に於て、行政改革ちゅう事をやらなきゃいけないね。私は行政改革とか財政再建はね、お金だけの問題じゃない、もう一度お互いの心を引き締めないかん。

日本はね、今人でいえば私の様に肥満体になっとるんです。ちょっと肥り過ぎとる。肥り過ぎるとどうなるかというともうそろそろ心臓病とか糖尿病とか病気にかかりうとしているところなんです。ここでね苦い薬も飲まないかん、時にはね、痛い注射もしなきゃいかん、時には思い切った手術もしなきゃならない時期に来ているわけなんです。これだけ豊かで自由になっとるのにね、まだ不満が非常に多いですね。私はいろんな人からききます、役所はこうだもっしてくれ。先日も私ね、今年の予算終って財政もきびしいんで、実はあの各学校の体育館を夜遅くまでバレーボール使いますね。電気代が沢山いるんです。やっぱり利用する人が幾らか負担したらどうかといいう事を提案してね、500円位負担して貰ったらどうか、バレーボールする人は30~40人来ますね。1人が10円か15円負担してくれたらどうかって教育長が各地区に話を持って行ったら総スカン。もう500円取るっちゃ何事かってね。帰りに皆喫茶店へ寄ってコーヒーは250円要っとるのにそれは何にもいわないです。1人10何円かの電気代は何かとこう云うんですね。その

500円、それを又将来の学校の何らかの補修費にでも使えるし、というてもなかなか、何でも役所がしてくれるんだという意識ね。だから今の子供さん、何でも買ってくれる、何でも与えてくれる、そんな中で大きくなって本当に強い人間に育つんだろうかと、そういう点で非常に憂慮します。だけど皆さん方先輩がここまで築いてくれたんです。これをしっかりと守って、ま、頑張って貰いたいと思うんです。

ま、そういう事からですね私は矢張り町をよくするのにはどうするかという事で、私は市長になった時にね、これはやはり先程いったそこにいる人が郷土愛に燃えて町をよくしてやろうという気持になってくれないと町はよくならない。いくら役所がお金を使って清掃してもその後市民がすぐ捨てて汚したんではきれいにはならない。そういう事から市政の目標に、参加し助け合う地域社会づくりを挙げました。それは皆んなが郷土愛に燃えて町を綺麗にしてやろう。ごみが落ちておればきれいに片付ける。公園に吸いがらが落ちておればひろおうという気持。この吸いがらをひろおうという人は捨てないんですね。いくら役所がお金かけて人をつけて清掃したってその後吸いがら捨てたり川へほうぐ放ったらきれいにならない。皆んなが郷土愛に燃えて町をよくする事に参加するんだ、そして助け合ってることは福祉福祉いってもね、お金や物だけで福祉じゃない。いわば人間の幸せは何だろうかってね。矢張り精神面じゃないでしょうか。目の前にいくらおいしいおご馳走があっても家庭の中がいがみ合ってけんかをしておったらおいしくないです。食事の場が楽しくないんです。貧しい物であっても皆が仲良くして思いやりを持つ家庭だったら楽しい食事の場になるんです。泣きもってビフテキ食べるよりは笑いもって大根食べる方がいいってね。だから物だけじゃない。皆んなが助け合うという思いやりを持つ。いくら立派な大きい家に住んでいても隣の人と喧嘩していたんでは毎日面白くない。小さい家であっても隣の人と仲良くすれば毎日楽しいんですよ。やっぱり精神面ね、そういう心の面が大事です。参加し助け合い皆が郷土をよくしてやろうと、皆が助け合おうとそういうふうになると行政はお金がいらなくて町は住みよい町になるんです。そういう話をするとね、市長はお金のこと云うたらすぐしぶって精神の話ばっかりする。その通りですよ。本当に皆んなの心掛け次第なんですよ。今から行財政は厳しくなって来ます。

130兆円の借金は払わないかんし、但し皆んなが郷土愛に燃えて参加し助け合う地域社会を作つて行くことによってよりよい町が出来るんではないかと思う。そしてこれから経営と町づくりということなんですが、私は大体経営の話の方が、得てとるわけなんで、まあ直接皆さんには関係はないかも分らないのですが経営の話をさして貰おうと思うんですが、矢張り人がなすわけなんですから、人がしっかりしとるということ。それと矢張り経営のコスト意識というものも行政に入れていかないかん。やはり役所ですね、お金によっていろいろ運営するものが多いもんだから、そういう経営感覚を持たなければいかんということ、そういう事から市の職員にも矢張りコストという事を常に話をするわけです。それで役所の職員にですね人件費の話をすると非常に厭がられるわけなんですが、私は知っとかないかんよということで話をするとですね、全国の市役所の職員の全国の市役所の平均の給与と共済費と合わせると440万円位です。1年間大体40才で全国平均440万円ですね。それでですね1年間何日勤務するかというと大体有給休暇を

皆引くと 270 日位勤めると思う。440 万円を 270 日で割ると 1 日がですね 1 万 6,300 円です。これ全国の市役所の男女平均の 1 日で計算すると 1 万 6,300 円。それでですね、1 日何時間実際仕事をするかというと平日は 8 時半の 5 時ですから 1 時間昼の休憩を差し引いて 7 時間半ですか、土曜日は 3 時間半ですから合計で平均の 6.8 時間です。平均が 6.8 時間、1 日平均働く時間です。1 万 6,300 円を 6.8 時間で割るとね、1 時間が 2,400 円です。平均時間給にすると役所の人の時間給は 2,400 円です。私はそれを高いとか安いとか云わないのですよ。沢山給料貰ってでも一生懸命働いてね効率のいい仕事をすれば高くないんですよ。少なく貰ってでも働きが悪かったら高いんですね。高いとか安いとかいうのはその働きによって評価されるんであって、だからね人から高いといわれん様に頑張らなければいかんという事を職員にいう。そしてもう一つはですね、1 日 1 万 6,300 円のいわば市民の税金で給料を貰つんだから、今後いろんな事をやる時に市の職員が多く参加しなくてでも事業がやれる様に市民に協力していただいてですね、職員が余り出でていかなくてもやれる様な考えですね。そうすれば人件費に廻すお金が外の方へ廻せるんだから。そういう事を常に今から考えて事業をやって行かなければいかんという事を申し上げたんです。そうするとですね、1 時間 2,400 円ということ 10 分で割るとね 1 分が 40 円なのです。分給 1 人分の給料が 40 円です。で私の煙草論がね、煙草一本が 10 円するんです。10 円する煙草吸うのに時間どの位かかるかといったら 5 分かかる。5 分かかると煙草ぼけーっとこう吸いよったら時間代何ぼいるか。賃金が 1 分 40 円だったら 200 円いる。10 円の煙草吸うのに時間代 200 円 5 分かかるとぼけーっとして吸うんですよ。時間代は来年又 5 % 上って 210 円になる。その次の年は 220 円ね。5 % ずつ。220 円の煙草は 5 年に 1 回 2 円上って高い高いんです。吸う時間代は 10 円宛上の安い安いというて仲々つじつまが合わない。これは事実ですよ。役所の職員、観音寺市だけでいいよるんでないんですよ。観音寺市いよったら職員に叱られるから、全国の平均が 5 分が 200 円ですよ。40 才でね、但しね 5 分 200 円は役所でいう事で企業へ帰つたらそんな生やさしい話じゃないですよ。会社へ帰つたら何故かいうたらね、会社は人件費の 2.5 倍位かせがないかん。それはまあ企業によって違いますけどね、税金もいる、利息もいる、宣伝費もいる、いろんな経費がいるわけですよ。電気代もいるね。そうすると 100 万円給料払いによる会社は 250 万円稼がな会社がなり立たない。2.5 倍いるんですね。2.5 倍いうと役所では 5 分 200 円、会社へ帰つたら 5 分が 500 円です。若しトイレへ行ってね、一寸寄つて 10 分して戻つて来たら、トイレへ行ったのが 1,000 円につくんですよ。これ事実だから、40 才代の人で会社で事実ですよ。それだけのコストが会社でいっとんです。だから会社の 40 才代の人が営業マンとして出ますね。よく喫茶店やドライブインへ入つておしゃべりするでしょう。営業マンが入ることは私は悪いとはいわん。人間やっぱりそういう憩いの場、安らぎの場が必要なんです。そしてコーヒーを注文しますね。やる気のある人は手帳出して今日どこをお伺い、コーヒー来るまで電話で何時頃お伺いしますとアポイントたてたりね。やる気のある人はね。やる気のない人とはいわないんですがコーヒーを注文したら先ず何をしようかというたらね、スーツと行ってスポーツ新聞を読みみよるね。それが終つたら週刊マンガ位読んでね、そして 30 分かかるとコーヒー飲んだらどうなるのか。コーヒーは 250 円とする。30 分のコストは 3,000 円ですよ。40 才代の営業マンはね。コーヒー一杯 3,250 円です

よね。私は今いった様にそらもうコーヒーも飲んでいいんですよ、但しそれだけのコストがいるということを知っとかないと。なら今度頑張ったらしいんですよ。30分の取り返しは取り返えせます。そこで私の経営の話は、経営を発展させる要素は2つあるんですね。1つは優秀な人がその会社へ入ってもろてその人がやる気を起して一生懸命頑張るちゅう事ですね。2番目にはその経営者も社員ですね。先ずは仕事にはれるんです。好きになるんですね。そこで好きになれば仕事に取り組む熱意、やる気が出ますね。熱意、やる気が出れば、どうすればいいかいう創意工夫、創造性が起きますね。そして常にその問題意識をどうすることが売上げが伸びるか、どうする事が商品のいいものが出来るのだろうか、そういう問題意識を常に持つんです。そしてベストの努力を尽す。この2つがそろったら、企業はいつの時代でもね、充実発展するんですよ。企業は今いった事何にも難しいんですよ。当り前の事なんです。だから経営者も社員もね常識家であれっちゅんです。当り前の事一生懸命やってるかやってないかというのですね。これだけの違いだけです。常識家であれっちゅんですね。じゃいい人を集めるにはどうするか。これはその経営者の信頼、信用と将来性ですね。いい人が集って来ますよ。もう一つ大事なことは、やっぱりあそこへ入ったら自分の力を發揮させてくれるとね。いくらいい経営者であり、いい企業でも自分等行ってもそれだけのポジションを与えてくれんのではないかという経営をするんですね。やっぱり頑張ったらそれだけのポジションを与えてくれるところ、ま、そういうことです。そうすればローカルでもいい人が集って来るんですね。じゃ集った人がやる気を起して一生懸命頑張るちゅうんわね、そりゃ皆さん方は勤めている人が多いと思うんですが、やっぱり経営者から見ると信賞必罰はっきりするところね。やたら報われる、やらなんだら取り残されるんですね。ま、皆さん方いろいろな所へ勤めとる様ですが役所は何ぼ頑張っても1号しか上らない。余りやらんでも1号上げてくれる。企業の場合はね、やたら早く上る。ま皆さん方も欲望の一番何だらうか。やっぱりやっている事を認めてほしい。自分の存在を認めて欲しいという欲望が多い様ですね。認めてくれるというのは口だけで認めたいとも、後のあらわれが何にもなかつたらいいけない。あらわれとは昇給とか昇格とかそういうものをさーっとしてくれる。そういう様な事でやる気が起るんだから。やる気を起きることが一番ですね。私は会社に行ったら常にですね、8を9に出来ないかといっています。これは何といっているかといったらね8時間で9時間分の仕事が出来るかということです。9時間仕事をしたら1時間分残業料を払わないかんのです。8時間で9時間分したら払わんでえんですが、この1の違いが会社が儲かるか儲からないかの重要な点です。1時間じゃいくらかといったら先程いったね、30分が3,000円ですよ。1人のコストが40才代で1時間6,000円ですよ。8時間で9時間分の仕事をしてくれたら6,000円余分に儲かるんですよ。1年間で300日頑張ってくれたら、やる気があつたら出来るんです。机の前へ坐つってでもね、隣の人が事務8つするのやつたらやる気があつたら9つは出来るんですよ。やる気がなかつたら隣りの人が8つしても7か6も出来ないです。常にやる気があるかないかです。営業に出てでもね、やる気があつたら人が8つ売るところ9つ売れるんです、10売れるんです。やる気がなかつたら8つ隣りが売つとっても7つも6つも売れない。その一だけがね、年間1人に180万円のコストを浮かす。企業にはやる気のある人がおつたらどんと儲かる。じゃね、やる気

があっても仕事がない、そういう人もいます。仕事ちゃ自分で作るんです。幾らでも仕事ちゃあるもんです。作らんからないだけなんですよ。やる気がある人は次々仕事作るんです。ま、この違いなんです。企業はね、まその事で私は社員にやる気を起さす。それは信賞必罰、やったら報われる、やらなきゃ損です。役所はそれができないので非常に苦労しているのが毎日です。人件費の話が出たからもう一点話しておく。高校卒業して去年役所でも企業でも入ったら大体年俸、175万円です。全国平均ですよ。これはまあいろんな賞与とかいろんなボーナスいろいろをたしてですよ。そして58才～60才で停年になりますがま、停年まで40年間勤めますね。毎年、5% 実給料が上ったらどうなるかというと2億8,000万円位になりますよ。役所でも企業でも人一人入れたらもう止めさせ事も出来ないです。そうすると一人の人が入ったら2億8,000万円のもう投資したんと一緒です。もう絶対払わなきゃこらえてくれないのだからね。但しその人が頑張れば40年間でいくら稼いでくれるかわからない。いくら仕事をしてくれるか分らない。人は石垣、人は城、^{あと}総てその人が後ようするか悪うするかね、そうして入った限りはいいとか悪いとか云えないです。2億8,000万円投資をしたんだから皆んなよくなつて貰わないかん。そこで教育ということになる。今日は私の教育の持論はですね教えるいう事は後ろ姿で教える。私が今日なったのは母親の後姿で育ったから今日なったんです。私はですね役所へ行っても部長や課長、会社へ行っても部長や課長がやっぱり仕事に忠実に一生懸命やっとるこの姿で部下を教える。口先だけね、いい事いってやっとることが悪いことであれば部下は悪く育つ。家庭教育も大事ですが矢張り両親の後姿で子供を教える。両親がやっとる姿でそこに環境が出来るんです。家の風土の家風が出来るんです。会社では社長や専務や部長が一生懸命やっとるんで会社の社風が出来るんです。そこで部下がやらないかん様に育つて行くんだってね、ま、私事云つて非常に恐縮なんですが先程いった様に私は母親の後姿で育った。私は9才の時、昭和20年3月にですねおやじが沖縄の沖で戦死をしたのです。私が長男で9才でですね弟が4才で今専務をしておるのですが、妹が1才だったんですね。母親は29才で未亡人になって子供3人を抱えたんですね。私の家業というのは観音寺市でやはり瀬戸内海に面してにぼしの加工屋だったんです。海産物の加工屋だったんです。そしてそのシーズンが当時5月の中頃から10月の中頃までで煮干の加工していた。シーズンだけ働いても充分生活出来ていた時代なんですね。但し母親の出里が農家だってですねシーズンオフは同業者が遊んでいた時にでも母親は農繁期には農業の手伝いに行くわけです。そして母親の姉の家が蒲鉾屋だったから11月から翌年の4月までは蒲鉾屋が忙しい。繁忙期ですから蒲鉾屋へ手伝いに行く。同業者が遊んでいてでもこうして働くことが家庭が裕福になるんだと将来の備えになるんだと、女でも人に迷惑かけずにすむんだと、そういうね働く尊とさ喜こびね、この母親の働いているその喜こびの後ろ姿で自分はこう育つて行つたんです。私はですね15才の時の中学校3年の時にね祖父がいたんですが脳卒中で倒れたんです。で煮干の加工っていうのは、この瀬戸内海に取れる鰯の買付けをするので小さい舟を動かす人がいるのですね。母親を舟に乗せるわけにはいかないんですね。私の友達は皆すべての人は高等学校へ行ったんですが、私は高等学校へ行く事を断念してですね、15才で家業を引き継いだんです。そして10月の半ばが来ればシーズンオフになつてね、その時に私は誰からも云われずに朝3時に起きて琴平まで蒲鉾の行商に行

ったんです。琴平へ行っても15才の者が売りに行ってもなかなか買ってくれないんですね。ずっとあの土器川という川を上って美合村といつて今琴南町というんですが観音寺市からです。30キロの所を毎日自転車でですね蒲鉾売りに行って人より早くお店へ行ってお店をあける時の荷物の積降しを手伝うわけです。昼間食堂が忙しい時はね、裏方へ行ってどんぶり洗うの手伝う、お皿洗うの手伝う、そうすればね明日から蒲鉾10枚買ってやる、天ぷら10枚買ってやる。努力すれば道は開けるんだなあということをね15才の時にこの身体で経験をしたんです。そして20才で今の加ト吉を起したんですね。15才の時にねそういう発想と構造を起したのは何か、それは母親がそうしてねシーズンオフでも働くことは家庭が裕福になって将来の備えがあるんだってね。今こういう話をするとね、15才の時いうと高校1年生の時ですが、苦しかっただろう、辛かっただろうとこういう人がある。私こう振返ってみて苦しい辛いと思ったことない。眠かったなあとかね寒かったなあとか、自転車で山道しんどかったなあとということは思うんですが、苦しいとも辛いとも思わなかった。何故かといったら、そうすることがいい事だと、いい事するのに苦しくも辛くもない。私寒いとかしんどいことは但し、ま、それも時代が違いますし時の環境が違いますし、今の若い者にそんな事いっても無理だと思うけどその時は働くことによって、頑張ることによって家庭が裕福になるんだ、美味しい物も食べれる様になるんだってね。そういうつまり物的な欲望があった時代だから、そういう環境だからやれたと思うんです。だから只努力すれば道は開けるんだなあということはやっぱり15才の時に経験したことはですね、その後いろいろな意味で今日になる発展のやっぱり過程になって来ておるんです。だから私はやはり教育というのは上に立つ者の後姿で教えるということが大事だと申しております。次に企業はですね、経営者はひとつ留意して欲しい。社員がですね仕事にほれて熱意とやる気を持つことがいろんな創意工夫につながり創造性を起してベストをつくすことになる。ご承知の様に日本は資源が少いからよその国から資源を買って来てね日本人の叡智と勤勉で自動車や精密機器やいろんな物作って輸出して稼いで来ているんですね。それだけに海外の要因や圧力によって日本の経済や産業が変って来るわけです。それがニクソンショックとかオイルショックとか200カイリ問題とかね、農産物の自由化問題、今貿易摩擦ね最近テレビでもアメリカとの貿易摩擦が起きておりますね。だから日本だけではどうにもならない。世界の交流の中で栄えていくんですね。そうするといろいろ変って来るということ、予想しなければならない。日本でも30年代によかった産業が40年代になおい産業として残ったのは20%です。40年にいい産業が50年代にいい産業として残ったのは20%位、時代と共にいろいろ皆変っておるのですね。そうすると常に問題意識を持てという事を先に申しました。私は常に問題意識を持ってベストを尽す前にもう1つね、常に危機感を持って時代の変化にチャレンジするんだ。このままいいっていいんだろうか、自分の仕事が又日本の将来がこのままでいいんだろうか、危険性を感じ乍らチャンスを狙うんだ。これが危機感である。そして時代の変化にチャレンジをするんだ。新しいニーズが起きた時にそれにチャレンジをする。だから私の家業というのとは何かというとですね煮干の加工から始ましたんですね。海産物の加工屋で、海産物とは常にこの相場の変動があってね価格の変動があって非常に不安定なんです。又その年の水揚げによって仕事の量が決って非常に不安定なんです。頑張ろうと思ってもね相場が下る場合

もあるし量がない場合もあるわけです。だから何か安定性のある変動のないということで一般的な食品の問屋を始めたんです。

21才の時に会社を作つて、そして一般的な食品の問屋業を始めていっている時にスーパーへ納めるとやっぱり問屋業よりは最後のお金を握れる小売店の方がいいんじゃないか、うんとスーパーを始めた。スーパーを始めたのは今から22年前で昭和38年ですけどね、スーパーを始めた時に横にそのレストランをもつことがお客様にサービスも出来るし又一つの事業としてもやれるんじゃないか。20何年前ですからスーパーでも小さかったんですね。レストランを始めた。レストランの経験を持ったからですね。国道にですね、今からどんどん車が増えるだろうからというのでドライブインを始めた。その横へガソリンスタンドを始めた。そして私の観音寺市の附近にですね今から14、5年前ゴルフ場が2、3ヶ所造成されたんですね。ゴルフ場が3ヶ所出来るのはゴルフ人口が増えるだろうという事でこんどはゴルフの練習場を作つた。ゴルフの練習場を作るんならせっかくだから横にレストランと喫茶店をつけたらしい、というんでレストランと喫茶店を作つた。レストランせっかく作ったんなら駅の近くだからそこへビジネスホテルを作つたらいといいうんでホテルを作つた。観音寺グランドホテルといいうんで、観音寺のホテルは1つだから会議したり会議室を持って宴会場を持って…宴会場を持つたら観音寺・三豊は結婚式が派手なんだからブライダル産業に力を入れたいといいうんでブライダル産業をやつたんですね。一方では海産物ちゅうのは沿岸物ですね、冷凍にする方法が鮮度を保持出来るといいうんで冷凍にして輸出をした。で日本の内海の海老が少なくなつて、又日本国内で海老を沢山食べる様になつて海外から海老を入れて日本の国内用の冷凍のエビフライを始めたんですね。だからそういう一つの関連で次々こう始める。だから仕事いうものは考えたら幾らもある。やるかやらんかの違いですね。そういう事で次の手をこう打つわけですね。で私は常に問題意識を持つとるからね、皆さんも今日こうして研修に来たわけですね、勉強もしとる。ま3人の講師の人からいろんな話を聞き何か1つは擱んで帰つてやろうとこういう気持で来とる人と、行けいうから来たんだとではね心構えが違うたらね、切角こうして3日間で皆さんの厚意で来られとんだから何か擱んで帰る気持が一ばんなんですね。そりや問題意識を持つとれば自分に当つてはまる話も何かは関係ある話がある。

私は16年前にイギリスへ行った話をしましたでしょう。あの時に8人で一緒に行つたんです。ヨーロッパが30日とアメリカで10日と40日間ね、この40日間の研修がね今になつて考えたら10億円いや15億、20億円以上の成果が表れとる。8人で行って皆その冷凍食品の工場を見せて貰つてそして包装資材の展示場なんか見てホテルへ4時に帰るんですね。私はそれからですね、タクシーでですね、ショッピングセンターとかデパートの食品売場へ行って日本で将来売れるだろうという冷凍食品を買って帰つて、それを写真に撮つたり、その包装資材を持って帰る用意をしたり、そして夜が来れば皆ナイトツアーリーで夜出るんですね。7時頃なんですね、私はガイドさんにどこか家庭を紹介してくれないか。どうするんですか。先程冷凍食品を買って帰つたもの、どこか実際調理をしてね、又ヨーロッパの家庭の食生活いうのかそういうものを聞きたいんだ。そしたら紹介してくれるわけなんです。で行ってそこの冷凍庫フリーザーにどういう冷凍食品が入つ

ているか、オープンがどういうオープンか、どういう料理方法か聞くわけです。非常に参考になるんです。それが帰つていろんな商品を開発するに大きい参考になったんですね。そしてこんどはアメリカの最後はロサンゼルスへ行った。商社の人と食事をしとつてね私は40日間アメリカ、ヨーロッパをこうして視察に来たけど、自分が見たかった工場が見られなかった。どういう工場か？ エビフライとか魚のフライの工場です。それなら私の知ったところがあるから聞いてあげるというので日系人で川口さん云うてフィッシュチームいうてね、ロサンゼルスではエビフライの冷凍食品の大きいメーカーへ電話してくれて、明日の10時に工場へ来なさい、というね。考えて見ればですね明日ホテルを9時にたつてハワイへ寄るようになつた。私は後の7の方にせっかくのチャンスやから一日残つてもこの工場見ませんか。そういつたら皆スケジュール通りいくといふんです。私は初めてのアメリカ旅行やしね、横文字にも弱いから一人残るというのも非常に心細かった。でもせっかくチャンス与えてくれたから残つた。工場へ行ったんですね。エビフライや魚のフライは機械化出来ないだらうという考えがあった。ところがですねかなりライン化してですね機械化されるとわざです。人件費が日本では女の人が1日1,000円位の時だった。日給でね16年前アメリカでは5,000円ですね。なる程人件費はここまで高くなつて品物がどんどん量産され売れる様になればここまで機械化が出来るんだなあという事を掘んだんです。そういうことね、それで帰つてですね工場建てる用意をしていたところをですね国道添いをすぐ処分して、こんど広い土地のところで県道添いに持つて行った。それは何故かというと矢張り機械化するのには1人当りのスペースがいるから狭い所でやつてると又いき詰つてね、次やらないかん。それない広い所構えとくね冷暖房して。それで15年前にですね第1期工事やつて10年前に第2期工事やつてそして4年前に第3期工事。そうすると人を増やさないで工場増やして機械増やす事によつて3倍も4倍も生産出来る。冷凍食品はここ15年間でですね大体1.5倍にしかなつないんですね。15円のコロッケだったら今22円位、4円のしゅうまいだったら6月位工場渡しですね。但し人件費は6倍位になつた、但しそれは機械化出来たからやつた。それはそこまで機械入れることアメリカで見つたからそういう考え方で。それからアメリカでもう一つ日曜日に会社も訪問出来てボーリング場へ行つたんです。16年前は日本ではね、日曜日いうと時間待ちせないかん。アメリカへ行つたらね、ガラーンと空いとるんですよ。私はすぐにガイドさんにマネージャ呼んでくれ、何故今ボーリング場が空いとるか聞いてくれ、とこういった。そしたらね、マネージャが来てこれは6年前オープンしたんだけど、かっては非常によくこんでたけどアメリカ人は屋内のスポーツとかレジャーはあきが来るのかね。キャンピングカーで郊外へ出ていって今オープン当時の40%位しか稼動してない。こういうことなんですね。私はですね、帰つてショッピングセンターを建てる時に2階、3階ボーリング場をしたらいいですよ、今ホテルとゴルフの練習場を作つた所へね、ここは駐車場も広いからボーリング場やつたらいいですよといわれた。16年前ね、日本ではその頃日曜日やいうたら時間待ちしなきゃいけなかつたから勧められたけどね、アメリカで見つたからやらなかつた。やらなかつたお蔭でね、観音寺周辺に4つボーリング場があつて4つとも閉めて、そのうち3つ程買つてくれというて来て買い取つた。隣りの丸亀市のも買つて4つボーリング場を買つて取つた。今加ト吉の本社なんか36レーンのボーリン

グ場の跡地です。土地が1,300坪ついてねま6～7年前ですから1億3,000万位。建物があるからといってのけ料1,000万引きますというて1億2,000万になった。今その36レーンのボーリング場の空調関係と電気設備と排水設備それだけでも1億円位いるんです。その位の建物が土地はついて家はついてね、それで今150人の社員がおるんです、本社に。まだレーン残してあるからもう少しボーリング盛んになったら何時でも出来る。そして置いてあるけどね。私が1週間に1回行く会長室いうとね、元電気室が会長室。それでですね、もう一ヶ所のは40レーンでね土地が3,500坪でねこれは加ト吉物流いうて加ト吉の配送センターです。40レーンのボーリング場で6千トンの冷凍庫なんです。その横へ6千トンつけて今1万2千トン、倉庫代だけでも月2,500万円位。もう一ヶ所の24レーンのも冷凍庫にしとる。これは4千トンの冷凍庫にしとる。

丸亀にあるのはね、丸亀ニューグランドホテルでね結婚式場を中心にブライダル産業にして披露宴式場をいろいろとてね。それが非常に場所もいいから利用していただいておるわけです。そういうこと考えると4ヶ所共元ボーリング場だから非常にいい場所で、その買う時には必ず上の建物ののけ料を引いてくれるんです。その建物又皆使えるわけです。今非常に皆その4ヶ所うまくいっとる。考えてみりゃ、アメリカで下手なボーリングして何なし帰ったら日本帰ってボーリングはいいですよいって建てて失敗したらね、そんな買う力もないんです。だけど常に問題意識持って、なぜ日曜日に空いとるかといって聞きゃ一時はこうだったけど今はこうだ云うんですね。だからみんな常に問題意識持つときね、いろんな自分のこの吸収出来るわけですね。それは矢張り自分の仕事が好きでないとそういう意識持てないわけです。だからテレビ見ても新聞見てもパッと思うことがある筈なんです。ひらめきが出て来る筈なんです。矢張り問題意識の積重ねが大事でないんかと思うですね。だからね私は今云った様に本当に仕事というのは考えれば幾らもあるしやれば幾らもある。但し、そらその人その人の人生観の違いがあろうと思うんです。それだけやったら苦しいだろうとか、しんどいだろうとかいうけど何にもしんどないんです。好きながら非常に楽しいんです。皆さん方も今から進む道も決まり皆さん殆どの方が就職されたんだと思いますが好きな道へ進まないかんね。嫌いなところで厭々やっとんたんでは駄目ですよ。だから全力投球してでも、全力投球すればね、ストレスというものは残らないんですね。中途半端にするから残るんですよ。私は二足の草鞋市長と経営者というものに全力投球しているんですね。さて時間の話を一寸しますがね、結局今の時間の使い方というのが非常に大事なんです。この時間というのは皆24時間あって平等なんですよね。まあお金はその人によって持ってる人と持っていない人とありますけどね時間だけは一緒ですな。24時間で女性は一寸私わからぬのですが男性の場合生きて行くのに必要な時間は何時間でしょうか。私は9時間だという。9時間といったら何々か。寝る時間が平均7時間、若い時は8時間ね、食事3回の食事してねお風呂に入ってひげそってちゃんとみだしなみするんに2時間あつたら充分なんです。9時間あつたらきちっとこうして睡眠もとて身だしなみも出来るわけですね。後の15時間が考えて動っきょる時間です。それですね、15時間かける365日、1年間でこれは5,475時間、考えて動っきょる。それで自分の職業として働いている時間は何時間か。地方公務員とか大手の企業とか週休2日制のところは2,000時間割っとるんですね。市の職員は働いとる時間ですよ、先程1日6.8時

間の 300 日いったら 2,040 時間ですから 300 日行かんから 2,000 時間割つとるわけです。ま、中小企業で 8 時間の 300 日で 2,400 時間ですからこれが一番長いですね。そうすると自分の職業としての働く時間というのは 2,400 時間、この 2,400 時間にはシナリオがある。仕事のシナリオがある。それで自分がこう動いて行くわけですね。職業のシナリオに基いて。後の 3,000 時間は自分がシナリオをかけるわけです。何に使うかちゅうてこの書き方がその人の人生がどうなるかの鍵をにぎっているのです。シナリオ、人が書くんじゃないんですよ。自分がかくんですよ。人によったらパチンコへ行く時間を書く人がある。マージャンや友達と旅行に行く時間を書く、スポーツする時間を書く、又自分の自己啓発、自分の将来のための勉強に行く時間、又仕事の延長で 1 時間余分に働く時間を増やす人もあるしいろいろある。2,400 時間で稼ぐ、3,000 時間でお金をたくさん使う方に書く人と今度はお金が入って来る様に書く人と又今金使うでも将来に実る様に書く人とこれはその人その人の書き方がある。この書き方なんですね。出来ることなら将来に実ることに多く書いてほしいんです。私は一方では観音寺の市長として 3,000 時間位、加ト吉の方で 1,000 時間位まで 1,400 時間は余っとる、とこういう。たまにはゴルフにも行く。私の場合日曜祭日はもう全然休みがないからゴルフに行くというても朝 5 時 10 分に起きて早朝に行くとか 4 時頃からちよこっとハーフに行くとかね、そういう事しか出来ないんですが、それでも結構やれるとわけです。うまく時間使っとるから。そして私はもう一つ効果的に使わなければいかんというのかね、2 つの人生歩んどんやからね。私はお蔭で 2 人前生きとるんだから二人前 49 才で実際 98 才かもわからん。2 人分生きてそれだけに動きは 2 人分動かないかん、だから私の寝室いうたら大きいんですよ。大きい机があってこっちには役所の資料があって、こっちには会社の資料があって寝室があって電話もあって、ワープロも置いて自分のベットみたら後ろにね自分が読まないけない本とか参考書本がズラーとあるんですよ。鉗押したら電気がバッと明るくなつて電話が右手で届くところにあってその横に会社の資料がズーッと 1 年分位ありますよ。そうやって寝ながらでも全部見える様になっている。すぐバッと寝室へ行っても洗面所がって風呂がって余り動かんでも時間が勿体ないから 2 人前生きないかんからね、効率的に使っとるというのかな。でも先程いった様に行政改革で皆様が納めた税金を有効に使わないかんという事ですね、私は市長になった時にですよ、役所の予算を見たらですね、市長の車の予算が 500 万円市長の車の予算がね。当時市長の車と助役の車と議長の車と予備車と 4 台あったんです。で助役の運転手が亡くなつたんで私の運転手を助役に渡して市長の公用車と予備車の運転手は下水道に人がいるのでそっちへやって 2 台減らした。で見たら 500 万円というのは何かいうたらね、400 何万円が人件費ですね。私は自分の車で運転して行く。そしたら 500 万円稼ぐ。今だったら 700 万円、2 台減らしたら 1,400 万円。一寸努力したらこれだけの金が市民が望んだる道路の舗装とか福祉に使えるいう事が自ら先程云つた様に後姿で教えなければいけない。忙しい中でも自分が今云つた様に自分で車運転して行く。非常に総てを合理的にして時間を効率的に使って、何ですね、だから研修しても何してもこう何か擱んでやろうと云う気持でいる。

まあ時間が来ましたんですね、最後の締めをして終えたいと思います。私ですね、人間というのはね素質がないとか才能がないとか云うことをよく云われますが、私は素質や才能ではないん

だと。素質かける教育は能力、皆さんもこうして勉強する事で能力が高まって来るわけです。教育受けること、能力かける何かが成果に表れるのです。何かが大事です。それは何かいうとやる気なんですよ、熱意なんです。熱意を持ってやる気を持てばいろんな道は拓けます。そして私は私以外の人はすべて師だ、自分以外の人は全部先生だ。先生に2通りあるんですよ。非常に家のうちの中も又指導者としても立派に生きとる先生と駄目になつたる先生と2通りあるんです。いい事は学ぶんです。いい事は真似たらしいです。悪いことはしてはならない。そうしてはならない教えに従う。よくなるんも悪くなるんも全部原因があるんです。いい事はまねるんです。悪い事はしてはならない、だから先程経営者も人間も常識家であれというんです。そして今回ロータリークラブですねライラーのこういうセミナーが催されているわけですが、ロータリアンの先輩の皆さん方は本当に家庭も非常に円満であって又地域のためにも非常に奉仕をして戴きそして人間関係も非常に大事にし乍らですね、こういうロータリアンの精神を学び乍らですね皆さんも今後大いに一つ頑張って貰いたいと思います。時間が来ましたので最後に私の信条を申しておきたいと思います。私の信条はですね、誠実と努力と創造と愛です。実は私が行きたかった学校の校訓がね誠実と努力と勇気なんです。今になつたら4つのうえに勇気も加えてこの5つの言葉を守って今まで来たわけです。誠実とはね何事も誠心誠意真面目に一生懸命やることなんです。誠心誠意真面目にやればね、多くの人から信頼と信用が高まって來るのです。その信頼と信用によりよい協力者が生れて來るんです。信頼と信用、人間ね何ぼ偉そうに云つてもね、自分一人では出来ないんです、何にも。皆んなの協力があつて事を成せるんです。物を売りに行っても営業に行っても相手が買ってくれる、協力が必要なんです。やっぱり同僚や上司や部下からの協力があつて事を成せるんです。そのよりよい協力者が出来るというのは信頼と信用のこの信です。信とは人が言うと書く。人が信頼してくれ人が信用してくれる、この信が政治家にとっても又経営者にとっても又人間としてでもですね、大きい力であつて財産なんです。信を失うたらもう駄目です。その信を高めていくのが誠実な日々を毎日お過しになるということです。努力、何時の時代にも努力は報われるんです。努力は実るんです。天は自ら助くる物を助くという自ら努力する者が報われるんです。自ら努力する者が……。創造何事にも創意工夫ね、知恵を出します。皆んなね、知識はあるんですよ、知識はあるんだけど知識じゃなく知恵にしなきゃいかん。人間は動くんじゃなくて働くんですね。作業するんじゃなく仕事をせないかん。やっぱり考えて動かないかん。創造性を起さないかんね。創造性をね、そして愛、これはすべて何でも通じますね。先程いった様に熱意、やる気に愛、好きながらやれるんだ、自分の仕事をね好きにならないかん。自分の故郷を好きになるから地域社会のためにもなれるんですね。愛する事によって総てをなし得るんだ。私はまあこの言葉を信条にして今日までやって來た。浅学非才というのは私の事なんです。中学校しか出てないのです。でも20才の時に自分が会社を起しました。その会社がですね去年7月に大阪証券取引所にですね上場出来たんです。四国で18社、18番目になつた、三豊観音寺市人口15万人のところで初めて上場する企業までに持っていく事が出来たんです。20才の時に起した会社が28年目でね、そして31才の時に市議会議員にさせて戴き、37才の時に2期目にね、全国で一番若い市議会議長をさせて貰った。644の市で一番若い議長にさせてもらった。39才でね、市長にさせて

くれた。中学しか出てない私ですよ。そこまでさせてくれるんです。皆さん方の方が私よりは素質才能もあると思う、又私以上に教育を受けとんだから私以上の能力があると思うわけです。どうか私に負けない熱意とやる気を持ってですね、今後仕事にも地域社会のためにも大いに頑張っていただこうことを心から祈念を申し上げて私の今日の講話にさせていただきます。どうもご静聴有難うございました。

以上

講 演



徳永尚子

卓 球 生 活 を 通 じ て

徳 永 尚 子

只今ご紹介をいただきました徳永でございます。何分不馴れでございましてご迷惑お掛けすると思いますけれどもご了解いただきたいと思います。たまたま卓球を学生時代に10年間致しまして運よく世界選手権にも優勝する事が出来ましてその卓球生活を通じてという事で学生時代からの卓球生活を顧みながらお話を進めていきたいと思います。よろしくお願ひします。

先ず私の声を聞いて貰ったら分ると思いますがとても上っております。非常に馴れないものですから仕方がないのですが、久し振りにこう緊張したものですから試合の前に何度も試合はないのですけれども何度もやっぱり上りまして、こういう感じで試合をして来たのかなあと今考えていました。余り胃にはよくないしとも思い乍ら考えていましたがとにかく上ってしまった時にはどういうふうに考えていたのかと思いますとよく監督、コーチから上っているのは自分だけではない、相手も上っているのだから同じ条件だし、とにかくいい試合をする事を心がけて自分の力を出す事だけを心がけなさいと何時も云われて試合に臨んだ様に思います。必要以上に上るのは余りよくないと思うのですが少しは上らないと試合の場合は余りいい試合が出来なかった。という記憶がありますので少し上った程度でいいかなあとそんなふうにも思います。

先ず必要以上にあがった時というのは、自分の持っている力以上のものを何かうまくみせようとする力が働き過ぎると必要以上に上りますのでどちらにしましても持っているものしか出せないのだからというふうに思うと少し楽になる様な気が致します。

先ず私が卓球を始めましたのは中学の1年生からであります。今は高松に住んでいますが、私の郷里は愛知県の徳川家康で有名な岡崎であります。そちらで中学の時から始めたわけですが、非常に田舎の町というか、田舎の村に近い所でありますので全校生徒も当時で150人位なものでありますから、今は残念乍らもう少し町の方に寄りました大きい学校に統合されてしまいまして懐しい練習した講堂なんかはなくなってしまった様なその様な小さな学校だったんです。けれどもたまたま卓球だけ非常に上手な熱心な先生がいらっしゃいまして、その田舎の中学校には卓球部、バレー部、テニス部と3つ位しかクラブ活動がなくて卓球部というのは花形のクラブだったわけなんです。それで当然小学校の時から中学にはいったら卓球部に入部しようという事で決めておりまして卓球を始めました。そして昔私の頃は中学校の大会というのは県大会までしかありませんでしたので全国大会はなかったのですけれども或試合で中学3年の時に優勝したわけなんです。此の頃から本当に地元の小さい村で非常に近所の人も応援してくれますし先生も熱心だったという事で小学校の時から時々人数が足りないものですからいろいろなバレーの試合であればかり出されるし、他にドッヂボールの試合だとか陸上だとか何でも行くんですけども何時も全部1回戦2回戦位で負けるという様な状態で、そういうコンプレックスが卓球をする事によって非常に満たされて来たというか、そういう不満が爆発した様な感じが致します。それで3年生の時にはもうラケットの裏には「この道より我を生かす道なし」とはっきり書いておりましたのでかなり

その頃から卓球をしなければ他にはとり得がないという風に思っていた様に思います。中学の時にも練習というのはとても熱心ではやりましたけれども楽しくて楽しくてとにかく練習するのが楽しくてという状態で卓球のとりこになったという様な感じである。そして高校に進んだんすけれども、高校に進む時にも絶対卓球をしたいという事で熱心な高校に入りましたが丁度豊橋の方になりました少し東になります。豊橋の学校に入る様になります。この学校が凄く特待生を入れたりという学校で卓球の名門校でありまして入るのにとにかく全国優勝を狙っていました。日本一になるために日本一の練習をしなければならないという事をしょっちゅういわれていました。こここの高校時代の練習というのは中学と全然変ってまいりまして今日皆さんは合宿なさってますけどこういう感じで学生寮に入って卓球部ばかりの所でふだんも学校に近いのですから授業の前にも練習するし授業がすんでからも又練習という事でもう毎日合宿ですね、ずっと合宿という感じがありました。

この高校時代の3年間というのは私の今までの人生の中で一番頑張った時だという風に思っているのだけれども、どんな練習とか生活をしていたかといいますと先ず授業中にでもいい悪いは別にしまして何時もノートに卓球台を書きましてね、4角を書いて真中に棒を引っぱるわけです。ネットですね、何といいますか、こういうサーブを出したらこういうレシーブを返す。次はこういう様にしてという幾つかこういう回転をしたらこういう風になるだろうしとか一杯そういうのを書いておりまして、どの教科書にもこういう4角いのが出て来るわけですね。だからとてもそればかり考えていたんではないかという様な感じがします。一寸変った練習といいますかそういう所ではさっきの上るところに又来ますけれども練習場が卓球専用の卓球場でしたので割と狭くて音がよく響く所で練習をしていました。ポンポンというふうなこういう所で練習していく試合になりました大きい体育館に行きますと上った状態と一緒に非常にボールの音が聞きにくくなるのです。それで余計に上ってしまうという様な所があるので先生が考えられまして耳に栓をして練習をしたらとかそんな事をして効果があったかどうかはっきりわかりませんんですけど非常に耳せんをのけた時には調子がよくなる様な感じが致しましたので試合に行った時に耳に栓をされた時の事を思えばよくボールも見えるし聞こえるなあという様な感じがしたのを覚えております。よくその頃授業中それから歩き乍らでもいつも手首をぐるぐる廻しておりますね、それで卓球の場合は手首の回転が非常に大事でございますのでいつもこう回していました。友達も皆なんいつも卓球部はどうしても歩き乍らもこうぐるぐるいつもしているんだなんて云われた事がありました。そんなふうにしたりしておりました。そして先生からはよく試合には負けても構わないと、次に勝てばいいのだから、それはかまわないけれども自分に負ける癖は君達の一生つきまとから気を付けなければならぬ、とにかく自分に勝つ様に、ま克己心ですけれどもそういうことをよく云われました。

試合の前にはですね、やっぱり人事をつくして天命を待つという気持ちで臨むしかないということでございます。あの3年間の時に又優勝することが出来ましてシングルスなんですかれども優勝する事が出来ました。それで益々国際試合への夢を私としては広げたわけなんですかれども非常にずっとこれは選手生活を通じて云える事なんですかれども選手としましては、卓球を少し

なさった方はわかるかと思うのですけれどもかなりきつい運動でございまして体力的にですね、私は余り筋肉も強くありません。走ったりするのも速くないし、そういう事で体力的な不安をせめて自分の卓球は高校時代までの卓球ではないだろうかとうすうすは感じていましたがやっぱり優勝したりしますと次を狙いたいとか卓球の本なんかにもホープだとか書かれたりしますとやっぱりやりたいという様な気持でそのためには矢張り東京に中央に行く方が有利だという事で東京の方に進学しなさいというふうに先生にも勧められましてそして大学の受験のために半年位勉強にも少し頑張りましてうまく慶應に入ることが出来ました。半分は卓球の力で入っておりますので運と卓球という感じで入ったんですけども只今皆さんのお食事なさっているのを一寸見せていただいたら、この感じを見て戴いたりすると非常に寮生活を送っていた頃を思い出すんですけどもその3年生の勉強の時、もともと勉強が苦手の上に学校の授業がすんから練習をしますので大体食事がいつもああいう感じでみんな揃ってするのが7時半～8時位になるんですね。その後3年生の時、私の同級生はみんな就職してしまって卓球も強かったですからもうすでに夏にはみんな就職が殆んど決まっておりまして、のんびりしているわけなんです。そして20年前というと皆さんがそれこそ幼少の頃かと思います。けれどもあのテレビが普及し始めて勿論自分の部屋にはそんなのありませんし、何というか食堂だけしかないわけなんです。もう私もテレビが好きでテレビが見たい時にみんなやれやれ食事まして8時位からいい番組を就職も決っているし、のんびり見るわけですね。これが自分1人だけ部屋に帰って行く時の辛さが思い出される。半年位の事ですけれども、それがよく自分でいえばよく頑張ったなあという気が致します。勿論自黒テレビの頃ですね、といってもテレビが珍しい頃でしたから、そんな気持を一寸お食事なさっているあれを見て非常にそんな感じがしました、思い出しました。そしてこの高校時代の私は練習を通じましてですね、やっぱり練習というものは自主的にしなくてはいけないとかやっぱり自分で考えてしなければならない、そういう風なものなんですかね、やっぱり人間は弱いところがありまして仲々上からやらされたために私は高校時代の生活が出来た様に思いました、そのへんのところがある期間は若い時でないと出来ないと思いますけれども、無条件で上からやらされるというそういう期間があるのも必要じゃないかという気がします。といってもそんな厳しいそういう環境の中に入らなかったら自分から進んでみんな練習とかいう事が出来た筈がないと思いますのでそういう長い期間は出来ないかもしれませんけどある時期そういう無条件で上からやらされる、そういうことを今の若い人達はとっても嫌う傾向だと思うんですけれども、やって見ると意外に自分が強いなあと、意外に出来るんだなあというふうに感じる場合があると思います。だからそういう時も必要じゃないかという風な感じが致します。それから皆さんが青少年育成の場ですね、スポーツを通じて指導なさる場合もあると思うのですけれども、私も球技のこと、ま、卓球のことしかわかりませんけど私の中学の時代の練習が非常に実戦的な練習が多かったわけなんです。これも技術が高度になればなる程当然体力的なものが欲求されるのは当然なんですかね、ですから小さい時からというか初めからですね、将来を考えて体力トレーニングといいますか、そういったものは当然必要なんですかね、それがその本人に会わない時ですね無理にそれをさせられた上にそのスポーツがいやになっちゃうという様な場合も

あると思います。私はですから中学の時に非常に体力トレーニングが主におもきがおかれた指導をされていたらひょっと卓球が続けられていたかどうかわからないわけなんです。

先ずその勝負というか球技の面白さという所に先に行ってしまったものですからその中に、はいれたのです。けれどもそのへんのところが必ず技術が高くなればなる程体力的なものが要求される事は間違いないわけなんですからそのへんのかね合いも非常に指導するという立場にある方は個人差もあるし難しい事だなあというふうな事を感じました。大学に入りましたて5月に5月病とか何とかいわれます。けれども私も初めて田舎からですね、東京に出ましたので一番よく覚えていますのが、あの余り未だスパゲティーを食べた事がなくって、それが食べなくて仕方ないんですけれども、あのくるくる廻してするのがよく出来なくってこっそり練習してからみんなと一緒に食べようなんて考えたことがあります非常によくそういうことを覚えております。

そういうところで大学のお友達特に、女子ではあまり私の様に卓球ばかりして来た人はいなくって所謂お稽古ごととか勉強も一生懸命やってた人もいます。そういう中に突然入ってそれから田舎から離れて都会に行ったこともあります非常にどうなるか分らない卓球をですね、そればっかりやっていいのかなあということを5、6月非常に悩みましてそして先輩に相談したりなんかしたんですけどもその時に先輩から聞いた言葉ですが、その人は図を書いて説明してくれました。地上がありましてその下に地下水があると、その地下水の中に人間が生きていくのに一番大事なあらゆる養分が含まれている。それをそこまで掘り当てないとその地下水を汲み出せないではないか、幾つも掘っても底までいかないものでは何にもならないから君は卓球であればそこに一番近いから、もう少しすればたどりつくかも知れないからやりなさい。というふうに図を書いて説明されたのでとてもよく覚えている。あそつかなあと思いました。その頃の先輩はたかが卓球されど卓球というじゃないか、やっぱり卓球の仲間ですから、そういうようなことを云ったりして卓球1つが問題にならなくて何が出来ると思っているのかとか云ったりいわれまして、やっぱり卓球しなくっちゃ当然やっぱり卓球しなくちゃいけない、ということは何となく分っているのだけれども、そういう言葉が欲しかったという様なところもありますそして真剣にそれから国際試合ということに目標をおきましてここで一寸技術的なことになってしまいますけれども、私はペンホルダーいいまして所謂日本式の片面だけラバー貼っている攻撃型の選手なんです。卓球のスタイルにはもう一つシェイクハンドといいまして両面ラバーを貼っている守備型の選手ですね、カットする選手2通りあります私は守備型のカットの選手に対して極端に弱いという欠点を持っていたわけなんです。高校までは何となく余り強いカットマンにあたらなかつたとか、幸運もありましてインターハイに優勝したりとか、いい成績はおさめられましたけど絶対弱いという欠点を自分でも分っていましたし、それから上の方の指導者もそれは分っているわけです。国際試合に目を向ける場合にはもう外国の選手にはこのシェイクのカットの選手が多いわけなんです。これに強くならない限り無理なわけなんですね。そしてそこでそれを考えて1年生の夏過ぎた頃から真剣に取り組み始めてから私は高校までの卓球から全くスタイルが変ってしまったのです。これは結果的にはよかったですけれども、大学の女子の選手は、はっきり云って私には相手にならない位弱い選手ばかりしかいなかったものですから特別にインター杯

に優勝してはいっているということもあって卓球部の方は慶應の卓球部にはいったためにあの選手はつぶれちゃったといわれたくないという事で非常に男子のキャプテンなんかも気をつかってくれまして、いつも男子の方、男子の選手と一緒に練習する機会があったわけなんです。そのカットの選手に対してどの様な技術を身につけようかとした時に今では珍しくないのですけれども女子としてはその当時といってもまだ余りそういう技術を取り入れている選手は少なかったわけなんですけれどもドライブの技術を取り入れることにしたわけなんです。それは矢張り男子の選手と練習してましたので男子の選手から教えられる方法がそのドライブだったわけですね。ドライブを取り入れるという事になりました一生懸命本当にシェイクの選手というのもう握り方見ただけでも厭だったんですけど7割位のシェイクの選手と練習する様に心がけまして何とかドライブを身につけたわけなんです。でこのドライブが非常に珍しいというか少なかったものですから女子の選手としては非常によくききました特に始めの頃どんどん強いシェイクの選手にも勝てる様になりました非常に嬉しかったんです。このスタイルを変えてしまう途中にですね、勝つために一生懸命取り組んだことが結果的に世界選手権にも結びついたし、反対に今まで勝っていた攻撃型選手にも負けるとかいろいろ途中で困難な事もあったんですけどもやっぱり目標を高くといいますからきちっと国際試合ということを考えてはっきりさせたために乗り切れたのではないかと思っています。この2年生の秋に中国へ遠征したわけなんですけれどもこれが丁度東京オリンピックの年です昭和39年です。初めて新幹線が通った時ですから大体おわかりになると思いますけどその時に中国に遠征しましてこの中国遠征の話を一寸させて載きますと当時の中国は丁度文化革命に入る直前の中国でして毛沢東一色なんです。とにかく毛主席のため我々が卓球するのも毛主席のためということで卓球の選手は卓球のボールを蒋介石の顔だと思って打てというふうに云われていたようです。中国に行きますのにも、今中国から帰った方にお聞きしても北京に行くにも3時間位で飛行機で行けるそうです。けれども私が行きました頃は香港からしか出入り出来ないんです。だから北京につくのにも2日がかりでやっと北京につくのですけれどもそういう時代でした。そして選手が毛沢東語録という赤い語録を持って入場行進するのです。そういうふうに非常時のところに行きました。だから紅衛兵が駅に一杯おりましたし、自己批判させられている人、そういう人も実際見ました。そういったところで国際招待大会というのですけれども実際は当時の中国の友好国が参加しておりましたが実際強いのは中国と日本だけという事で日中戦というような感じなんです。その中国遠征の時に私は一番年下で参加しましたけれどもドライブの技術が非常によくききましたそして14連勝しまして優勝したんです。その時に表彰式で周恩来首相から直接こう手渡された七宝の大きいカップも載きましたけれどもこの中国遠征が本当に私にとりましては後の選手生活を決定することになりました。そして毛沢東語録を持って入場行進しますし、当選手はその語録の中から自分の好きな言葉を手の平に書いています。何と書いているかは分らないのですけれども今のP.L学園のお祈りみたいな感じですね。一寸不利になると見ている感じがする。なんかされると2、3本とられてしまう様な感じがしまして非常に何というか脅威といいますか気になりました。

何を書いているのだろう、結局何を書いているのか分りませんでしたけれども何を書いているのだろうというふうに思っていました。そして中国遠征が39年の秋ですね、丁度オリンピック開催中に行きましたのでその翌年の4月に先程紹介なさって下さいましたユーゴスラビアのルブリアナ大会というのがあったわけなのです。世界選手権になるわけなんですかけれどもその選手は女子4人男子4人しか代表になれません。それで仲々私の国内の成績では難しいぎりぎりのところにいたと思うのですけれどもこの中国遠征のお蔭で代表としての切符を手に入れる事が出来ました。中国で優勝してかなり自信を持って世界選手権に臨んだんですけれども国体戦では少し話がいろいろしますけれども今年は世界選手権をスエーデンでしてるんですね、今日が最後でもうシングルスの方でかなり負けたし、国体戦は中国が既に男女とも優勝してすみましたけれども、今日が最終日なんですかどもどこが優勝するかちょっとまだわかりません。何時も4月にあるわけです。話を元に戻りますが40年の4月にユーゴーの世界選手権にいったわけなんです。ところが国体戦では中国と決勝になりました負けました。私はその時にとにかく半年前の39年の秋に中国遠征した時に当った選手と又対戦したんですけれども中国に行った時は私はノーマークで全然研究されていなかったものですから勝てたんですけれども中国で優勝したもんですから次の世界選手権では彼女は出て来るであろうという事で、その1ヶ月余りの中国遠征中に徹底的に研究されていたわけですね。それを知らずにあの選手にはこないだ勝ったという感じで同じ作戦でいったわけなんですかども全然ドライブがきかないんです。少しも浮いて来ないし向うはミスをしないし、そういうことで、それとその時中国と日本との決勝の時に当ったリンケイチョンという選手です。けれどもその人が半年間の間にですね、正規の選手は2枚ラバーをはります。ホターとバックと今では余り珍しくないですが当時の日本ではなかったんですけれどもホターとバックのラバーを替えて来ていたわけなんです。半年の間にですからホターがわは非常に切れるラバーですね、バック側は全然きれないラバーに変えて来ていたわけなんですね。中国に行った時は全然そういう事はなかったんですけど半年の間にラバーを変えてきたわけなんです。今高校生の中にシェイクの選手は異質のラバーにしておりますけど当時国内ではそういう選手はいなかつたわけなんです。それもわからず先ず試合を始めて、それはすぐ2、3本やればあゝこれはラバーが違うなという事は頭では分るんですけどもとにかく馴れておりませんし、そして変えて来ているというのもあるし、それからその中国遠征の時にきいたドライブが全然きかないというのもあるし、そういう焦りでですね非常に自滅に近い型で負けてしまって、私1人の責任じゃないんですが先輩も負けてそれまで日本は30年間5連勝しております。世界選手権は2年に1度あるのですけれども5連勝していた日本の女子団体というのをですね、私も責任の一端を担って負けたわけなんです。3対0で残念なんですかども全然歯も立たずに負けてしまったのです。団体戦はそういう事で負けてしまって今度は団体戦の後1日休養がありまして、その後個人戦に入るわけなんですかども、個人戦で準決勝では山中選手といいまして、その時のキャプテンでその先輩と当りまして、もう一つの準決勝は中国同志が同志打ちしていたわけなんです。そうしますと中国の方はとにかく毛沢東主席のために卓球やっているわけですから日本の方の私共の同志打ちの方の様子を見乍ら有利な選手を決勝に出そうという様な感じなんです。非

常に八百長に近い様な試合をしますし、そういう感じでこっちの試合の進行を見乍ら試合をするという形で試合をやっていたらしいんです。それは後から聞いた話ですけどところが分からいわけです。接戦になりました5セットシングルスの準々決勝からは5セットになるんですけど、その5セット目の19本で私は勝ちましたので仲々うまく予測出来ませんね。試合し乍ら出来ないんですけどそういうことで隣りはそういう試合をしているけれども、その時監督がありました萩村さんが隣りはああいう試合をしているけれども君達は3セット目と4セット目での一寸5分間休憩がありまして、その時ベンチに戻りましたら、同志打ちですから片方だけにアドバイスするわけにはいきませんからね、監督ですから隣りはああいう試合をしているけれど君達の一生に2度とこういう晴れ舞台があるかどうかわからない、とにかくいい試合しなさい。なんて肩を叩かれましたのを覚えていますけれども。そしてその時の試合は非常にいい試合だったということで、後で褒められて嬉しかったんですけどもそういう事で5セット目の19本で私の方が後輩でしたから楽な気持だったのが幸運だったのかもしれませんけどそれで決勝に出たわけです。決勝は翌日なんですね。そして決勝だけを残して翌日になっておりましたので今度は2台だけになります。1つは男子のシングルスの決勝、大きい体育館で2つだけになってしまったんです。こんな時に男子は又中国同志の同志打ちでしたから結局4人の選手の中で中国が3人です。日本は私1人になったわけです。それでもうユーゴスラビアの観客はもう殆んど私を応援してくれました。でも中国ばかり優勝するものですから1つ位勝たせて上げなくてはという気持もあったのでしょうかけれどもとても私の応援をしてくれましてとても心強かったのを覚えておりますけれども、この試合がとても苦しい試合で団体戦で負けた相手なわけです。その人に又リン選手に決勝で当たったわけです。ドライブは全然きかないしとにかくカットは正確で壁の様に帰って来るわけです。私は前から申し上げている筋肉とか体力的なものが、そういう国際試合に出る選手としては非常に欠けておりますから、その私のスマッシュの力ではとても打抜けないです。全部返って来るので。スマッシュを打つ方がとても体力を消耗するのです。あれは一寸素人目では受けている人の方が非常に苦しそうにうけますので打つ方も苦しくない事はないがうける方が大変の様な感じもするかもわかりませんがやっぱりカットの選手というのは、バックスピンがかかっていますから、そのボールをスマッシュするという事は普通に打てばネットに引っかかってしまうですからそれをスマッシュするために非常に全身に力がいりますし腹筋肺筋腕だけではなくて、それぞれいるわけですね。結局守備の選手というのは、その打たせて何本か拾っている中に呼吸が乱れて向うがミスするからそうして勝っていく作戦ですね。ですから私一発二発でバッと抜ければいいのですけれども、私の力ではとてもその時抜けない事は団体戦でやっていますからわかっているわけなんです。どうしても先輩のキャプテンに勝って決勝に出ていますし団体戦は5連勝しているのも自分の責任にありますと負けていますし、どうしても勝たなくてはならない。そしてその時に萩村さんと相談しました作戦が、ねばり抜く事しかなかったわけなんです。普通に打たしますとやっぱり自分がミスしてしまいます。抜けないものですからその時に私の力としては勝つ方法というのは粘って勝つ方法しかなかった。粘ってという事は結局私の方が攻撃を加えないで只普通に打っていれば向うも攻撃出来ないわけなん

です。だから何本でも続くわけなんです。ましてさっき申し上げました様にファ側とバック側のラバを変えておりますから私がバックに打ったりファに打ったりしますといろんな球質のボールが返ります。で、ミスしたりしますのでこのラリーはバックならバックばかり、ファならばファばかり私は返すわけです。向うは動かして来るわけなんですね。なるべくミスをさそうと思いますから動かして来ますがカットの選手なので時間的余裕がありますから自分は動いて返すのは一方の方向だけにしほって、そして粘るという非常に単純な自分の方のミスを少なくする作戦しか勝つ方法、それでも勝つかどうかわからなかつたんですけれどもそれしかなくて、そうしますともう50本も60本も続くわけです。私が攻撃を加えない限り続くわけですからね。相撲の水入りみたいな感じで両方が攻撃を加えないわけですから本来ならば私は攻撃の選手ですから攻撃を加えて点が昇って行くわけなんです。それをしないわけです。そうしますとそのルールで時間がかかり過ぎますので促進ルールというのを1セットで15分たってもまだすまない場合は促進ルールというのが適要される。そうなりますとサービスが5本宛の交替じゃなくて1本宛の交替になりますて、サーブを持った選手が12本までポイントしないと必然的にそこで相手のポイントになってしまいます。だから進んでいく。そうなると12本以内に何かしてしまわなければ只続けているだけではとられてしまうですから何かしかけるわけです。だから両方が無理な攻撃を途中からしかけるわけですね。そうしますと私の方は元々攻撃の選手ですから有利だということ、そういう作戦をとったわけなんですね。それで5セットの17本フルセットになりまして17本位ですがそれでやっと勝てたという感じなんです。

これが世界選手権で勝ったあれなんんですけど、只この、その時の試合が長いということですね卓球の面白ゼミナールという本が出ているんですけどここに余り長くかかった試合という事の記録になってしまったわけなんです。この試合が私の守備対守備の場合にはもっと長い試合があるのですけれども攻撃型の選手対守備の選手の試合で一番長くかかった試合、今でも破られてない様な余りあの、きっちり卓球がわかる人にはそれは非常に私の力がないという事で余り自慢になる様なことではないのですけれども、またまたまそういう記録になってしまった、それによりますと自分は数えていますんでわからないのですけれども100本とか200本も続いたなんて書いておりますけど200本は違うと思いますけど100本近いのはやっぱりあったと思うのです。時間は稼いでいますから向うも何でも出来ないわけですから、そういうそれ位長く続いて時間を稼いだというそういう非常に苦しい作戦を立てまして勝てたんですけどその時にその世界選手権に行く前の日本選手団の合宿ですね中国の選手でこういうカットの選手が出て来るのが分っていたので女子の方はカットの練習ばかりしておりますて、そしてその時のことといいますか忘れられない練習は1,000本カットのボールを粘る練習をやらされたわけなんです。カットのボールが1,000本といいますと30分から35分位かかるんです。受ける方の位置にもありますが大体30分ちょっと位かかるんですね。その間ミスなく途中で自分がミスしたらもう1ペん1からやり直しという練習をやらされまして何でこんな練習をやらなくてはならないのかと思ってその時は非常にこの練習が果して効果があるのかどうか半信半疑というような感じでやったんですけども、まさかその世界選手権に行ってシングルスの決勝でそういう試合をしな

ければいけなくなるという事は、その時、合宿の時は分りませんでこんな練習をやらされてと思いましたけれどその練習をしていなければ絶対にそういう作戦はとれなかつたし、そして私は勝てなかつたわけなんですね。でその1,000本の練習をしますとね、その頃は毎日何時間も練習していますから腕とか何かはもつのですが目が充血してしまうのです。といいますのは普通の練習をしました場合は5、6本長くて10本位でボールを拾いにいくわけですね。だから目は休めるわけです。ところが続けるとなりますと、とにかくボールから目が離せませんから非常に目がみんなですけど非常に目が充血していました。この練習がすんだらみんな翌日目が真赤になっていたのを思い出します。本当にこの練習をやったお蔭で苦しい決勝で苦しい作戦が取れたと思いました。何というか攻撃をしないで我慢するという事ですね。そんな事しか勝てないんじゃないかと薄々は思いますけど自分だけではとてもそういう作戦を取るという事は出来ない。やっぱりその時に監督がそれしかないというふうにいわれたので出来たのですけど、その時から私は何でも勝負する時は思い切ってやれば負けても仕様がないとか、思い切り攻撃して負けたのだから悔いがないというふうな感じに云われる場合がありますが非常に普通に打ってポンポンと試合が進んでいった方がずっと楽だったわけです。勝てるか勝てないか、勝てない方が強かったなんですかと非常に我慢して打ちたいところを我慢してそれを打たずに粘るという事は非常に勇気がいる事だと思いました、感じておりました。我慢しなくてはいけない時に我慢出来るという事は勇気がいる事で仲々1人では出来ない場合もあるしという事を感じました。もう1つは、そういった大きい大会がある時にそういったいろんな練習をしていくんですけれども実際は例え相撲なんかでいえば相手が近いということで相撲でいうんです。けれどもパッと飛ぶのはいいのです。相撲の立合いで逃げるああいった事は矢張りかなり力の差があるとか何かでないと出来ないと思うのです。同じ位の力であればそういった事は絶対出来なくて私は絶対基本に忠実な物しか何というか使えないというか効果がないというか、ですからいろんな練習をします。例えばカーブにしましてもこちらに出そうと思った時に一瞬こちらをかなり体を開いてこうしますと、こっちにいく様なふうに相手はとりますね。それをそちらに出さずにこっちに出すとかそういう一寸ごまかしの様な感じですね。そういったこまかい練習もいろいろするわけです。どういうふうにしたら相手の逆をつけるかとか、そういった事を幾つもしていきます。けれども結局一番大事な時に頼りになるというのは余りそういうのは頼りにならないですね。本当にきっちりドライブを粘る時は粘る。例えばスマッシュの力が何キロか出るという様なそういった絶対的なものでないと大きい試合になつたら通用しないなあということを感じました。基本的なものしか通用しないという事を非常に世界選手権の時に感じたんです。本当に運でありましてうまく世界選手権に優勝することが出来たわけなんです。これから2年後次のストックホルム大会まで卓球は続けましたけれども非常にこの2年間はブランクといいますか国内でも負けるばかりしまして辛い時でございました。特に一番印象に残っておりますのは、全日本選手権が何時も東京であるのです。けれどもその私が優勝しました翌年のその年の4月、40年の全日本選手権が名古屋でたまたまありましてその年だけしか、今でも東京だけしかないのでしょうけど、その年だけ名古屋でたまたまあつたんです。それで例の田舎の方からですね世界選手権取った後ですしちゃ優勝す

るのではないかという事でマイクロバスで随分応援にかけつけてくれました。中学の先生とか沢山来てくれまして余りにも気おい込みまして、そして何か準々決勝位で本当につまらない試合をして何か分らなくなりまして途中からそれで負けたんです。あの試合だけは本当にお礼にも行かず何かどこから帰ったのか、後どうしたのかも覚えていない様な感じなんんですけど、何か昔具志堅選手が沖縄で出身地で負けたとか、だからそういうのを聞いたら非常に可哀想だなあという気がします。東京で負けとけばよかったです。そういう事を非常に感じたんですけども。ですから昨日もP.L.が負けましたね。桑田選手とか顔を見たりしていましたけどそういう非常なプレッシャーの中での年令ですね、プレッシャーの中で勝つということが、如何に難しいか、よく勝つのはやさしいけど勝ちを守るのは倍ぐらい難しいとよく云われますけど私はよく守る事が出来、あせらずにすみましたけど本当に大変な事だなあと思います。高校野球を見ていてもそういう様な事を感じ乍ら見ますけどそういうふうに思いました。次の42年の世界選手権はストックホルムでありまして、これには中国が文化革命に入ってしまいまして4、5年国際試合に出ませんでしたからこの年の42年の世界選手権に中国は出なかったんです。それでその留守中に日本は男女共に団体戦取り返しました。ソ連と決勝になりましたけど余り苦戦する事もなく取り返しました。私はこの団体戦取り返した事で非常に責任を果したという事でその時一緒に戦ったパートナーの2人と本当に団体戦が済んだ時世界選手権がすんだ様に思いました更衣室で2人で本当においおい泣いたのを覚えております。とてもやっぱり日本が5連勝していたのを日本の女子団体が負けたものですから何とか取返しまして中国がでなくて負けたなんて云ったら日本に帰れない様な雰囲気で、その時のそんな感じでしたので非常に緊張致しました。けれども余り苦戦した記憶もなくソ連と決勝でそして取り返してよかったです。でもやっぱり相手のあるスポーツ、記録のスポーツと違いましてやっぱり一番強いところと当らないということは不幸といえば不幸な事かもわからないと思います。そうして42年の世界選手権の後私は選手生活を終りました。私の卓球生活を何が支えてくれたのかなあと考えましたら、やっぱり中学の時に田舎で卓球だけしかないところで県大会に優勝した事に皆んなが、近所の人が喜んでくれたということ、そういった事が非常に励みになってずっと来た様な気がいたします。それからとても何といいますか個人的な事になりますが、私は母が43才の時の子供なんです。非常に年がいって兄弟はたくさんいるのですが10年程出来なかつて一寸間違えて出来たわけんですね、ですから今も私の主人に今だったら葬られていたらどうといわれますけどきっとこの世に生をうけていなかつたですね。時代が違つてればそう思うんですけどもそういう事なんですねども、年とて子供が出来たという事で母も年の割に頑張らなくてはいけないという事で田舎の小さい商売人の家というのは本当に忙がしくて朝から晩まで働きづめという、そういう何といふか年の割に頑張ってくれた。よその友達からすると、もうおばあちゃんなんわけなんですから、それで小さい時には本当に私は恥かしいとかそういう様な事を思いましたけども、だんだんその後姿が何か非常に自分の卓球の支えにもなつたというか、そんな気が致します。そういう事を考えますと、今その私の後姿に子供がどう見ているだろうか、全く自信がないんですけど矢張り母親の男の人はどうか分りませんが母親というのは矢張り影響力が強いですね。何才

になってもやっぱりあの時ああいうふうに頑張ってくれたなあとか、あの年でまだこれから私が3年後で子供産むわけですから非常に大変な事であったんではないかという思いがだんだん年を取ると共に分って来てそんな事も少しあ支えになったかなあとというふうに思います。でよく私はもう一つ自分の性格なんですが、仕事の関係で料亭というのを手伝っていますけど、お客様は何かスポーツをやっている人はスカッとして明るくて非常にいいなあと仰言つて下さるわけですね。そうしますとそれは営業中でございますので、私はハイ有難うございますという感じで非常に明るく振舞いますし、やっぱりスカッとしなくちゃとそういう風にしますけれどもそれをみてそういうって下さるのかスポーツ選手が全部そうだとは限らないと思うのですけれど私は自分の性格です、自分で考えますと非常に物凄くよくよする性格ですし、今まで本来はねくらの性格なんですね。とてもこんな風に多勢の皆さんとの前でこんな風にお話ししているという事は小学校・中学校までの先生がご覧になつたらもうそれこそびっくりなさってしまうだろうと、何時も通知票には理解は出来ていると思うのですが全然発表しないからもっと積極的に発表する様にとかそういう事ばかり書かれていましたし、今でも多少年と共に厚顔しくなつておりますけれどもとてもよくよする事にはスカッとして明るくてスポーツマンはいいですねと外の人は云つて下さいますがそういう事は本当は全然ないと自分では思つてゐるわけなんです。これがくよくよするとか例えば後で後悔するとかそういう性格でも卓球する時に後で後悔したくないとかくよくよするのが自分の性格を知つていますからそうするのが厭だから頑張ったというところがある様な気がするのです。とてもだから割と皆さん自分の性格が一寸自分の性格って厭だなあという風に思われる事がよくあるんじゃないかなあと思うんですけれど決してスポーツマンでも勿論スカッとして所謂スポーツマンの典型的な人が沢山いらっしゃると思いますけどそういうじゃないのもいるという様な事を一寸覚えておいて戴いたらとそう思います。といつてもくよくします。それが却つて却つてというかそれも結構いい意味でりますと支えにもなつていてかも分らないという風に考えます。だんだん何のお話をしたらいいのか、初めに書いていますけれど仕事と何とかと書いていますけど子供の教育のこと、教育の問題とかなんとかということは他の難かしい経済論とかと違いましてやはり環境がそうなるのでしょうか。やっぱりうちの子供の場合もスポーツは好きだけれども勉強は好きではないという子供になつてしまつて、せめて子供に私は中学生の息子なんですがもう一寸勉強しなさい、女の子にも負けるとか何とか、あんな勉強ばかりしているから勉強出来るのは当り前だとかそんな事いうわけであります。それが私にしたら腹が立ちまして、せめてうまく云つておりませんけどその他の事ですね、自分の得意ではない事に一生懸命頑張っている人のこと、自分が出来なくていろんな能力の差はありますから出来なくてもせめて認められる子供には最低限育てなければならぬなあという事を非常に感じるんです。

これからだんだん専門的なスペシャリストといいますか、そういうふうになって来て皆んな専門に別れて行くと思うんですね。その時に自分に関係ない分野の人の事の思いやりといいますか、そういう事がないとやっぱりうまくいかない。思いやりの精神だと何とかいいますけれどうまくいかないんじゃないかと自分が出来なくてもやはり他の全然知らない所でも頑張つてゐる人

がいることを認められる子供にならなければならないと思う。その場合やっぱり何か一生懸命にやった時期がないとそういう事が分らないんじゃないかなあというふうな感じがします。

今日こんなふうにお呼び載いたりですね、それから私もお客様のお話なんかででも本当に実際にはお偉い人で足元にも及ばない方が、私の卓球の事に非常に評価して下さる世界選手権大変だっただろうねとかその様に非常に評価して下さるということはやっぱりその方は非常に何かに一生懸命なさって来た方がそういう風に仰言つて下さると思うのです。一生懸命した何か、何でもいいのですが何か一生懸命した事がない人は余り分らないと思うのです。ですから嫌いであれば子供の場合ですけれど勉強はいいけれど何か一生懸命する時期があれば他の分野で頑張っている人のことにも或程度理解を示すことが出来るんではないかなあというふうに思います。最近私、お客様からお聞きした事で、今のコンピューターが発達した時代に、月にロケットを飛ばす難かしい計算は、そういったものはコンピューターが発達しているからかなり無重力な状態なところが多いから簡単に計算出来るんだと仰言ったんです。瀬戸大橋の関係の方です。それより鳴門の渦潮計算する方がずっと難かしいんだよと仰言ったわけなんです。それよりも又本当に難かしいのは人間関係であるという様なお話を聞きましてねとても何かホッとしてしまったんですけども私はその時何か非常にニューメディアのハイテク時代だとかいってどういうふうに変わっていってしまうのか、とても分らなくなってしまうんでないかという不安があった時に、そういうお話を聞いてある面ではホッとしたというかそういう気持ちがありました。けれどもとにかく人間関係が一番難かしいというふうにいわれました。だからまして青少年教育といいますか、そういう立場にいらっしゃる皆様方のお仕事というのは本当に難しい事なんですけれども又それだけにやり甲斐があるのではないかと思います。そしてまたお客様の話で申し訳ないのですが、或本当に大きい一流会社の副社長ぐらいの方が、昔若い時に同期に入った仲間とその上司が絶対自分の方がどう悪く見ても、自分の方が会社に貢献していると思っていたのに同期に入っていた人の評価が全く逆の評価を受けたらしいんです。どうしてもそれが我慢が出来なくてそれで他の人とも相談して会社をやめようかという位我慢出来ない事があったらしいんです。その時に相談を受けた方に大き過ぎて上司の持っている鏡に移り切らないんだよ、と云われたそうです。その言葉で、僕は今似て忘れられないと仰いました。この言葉が無かったら今の僕はなかったであろうというふうに仰言いましたがやっぱりそういう上に立つ人というのはそういう意味では曇っていないよくうつる大きい鏡をもって相手がまさか移らないというような事がない様に大きい鏡をもって皆さんとの子供達といいますか青少年に接して戴きたいというふうに思います。私の卓球生活を通じまして、でも非常に何でいいですか中学・高校そして大学時代は全日本選抜のあれなんですかそれともそういう時代に卓球に対して私は陽の当る道を進んで来られたのは常に一番情熱をもって指導に当って下された方が一番情熱的な時に私が巡り会えているわけです。中学の先生、高校の先生もみんな卓球相手を実際に汗水たらして相手をして下さったそういう時代に自分が次々に進んで行けたという事が非常に幸運であったと思うのです、ですから一番情熱……今昔の先生方にお目にかかるのですがよくあの時の元気はなくなってしまったよと云われたりします。そういう事を

考えました時に私は一番充実したい時に選手生活を送れたなあというそういう事が非常に幸運であったなあと思うんです。教育の問題で、私は2年程前に少年鑑別所というんですかあるそこに一寸卓球をしてくれないかというので行った事があるんです。20人弱17～18人の男の子ばかりでしたけれども初め少し話をして下さい、その後ボールを打って下さいといわれたんです。その時に初め話を聞いてみて、あの、こうこうで世界選手権で優勝しました、なんて話をしていましたんですけども、那人達が生れる前の話になりますし、このおばさんは何を云っているんだろうというしらけた感じでこう見られたのを覚えているんです。けれども何か怖いなあという感じがしたんですけどその後ですねボールを打ち出したんです。別に卓球していない子ばかりなんですけどボールを打ち出したわけです。そうしたら全然目付きが変わったわけです。話をしていた時とほんの15分かそこらの話です。けれども全然目付きが変わって来たわけです。結構やっぱりこのおばはんやるわというふうな感じに変って来てましてね、やっぱりその一緒にやるというかそういう事が中に入るのに一番いい事ではないかなあというふうに感じたんですけども、そんな経験も致しました。

非常に何か取り止めのない話になってしましましたけれどもとにかく情熱を以て頑張って戴きたいと思います。私も今仕事でほんの10人足らずの部下を持っているわけですけれどもやっぱり何時か別れなくてはいけない時もあるだろうし、あれなんですかともやっぱり私が卓球を教えて下さった方が持っている様な後からやっぱり本当に何といいますか、よかったですと、あの人のところで一生懸命してよかったですというふうに思われたいと思いますのでとにかく情熱を失わずにといいますか一生懸命やっていきたいなあと思っております。又どこか高松の方でお目にかかる事がありましたらその時一寸卓球の話を聞きましたが何か一言云って下さると有難いなあと思います。本当にとりとめのない話で申し訳ないですけれどもこれで終らせていただきます。

参 加 者 感 想 文

青年に望むこと

A グループ カウンセラー 幸 岡 清

4月4日から4月7日まで行われたライラセミナーの3泊4日はあっと云う間に過ぎてしまいました。

カウンセラーと云う大役を仰せつかり、初めての事とて不安な気持で仰えた4月4日、しかしながらオーブニングパーティーが終わりキャビンに帰って、A・A' グループ21名の自己紹介からはじまり、その後一人一人がゲーム、かくし芸?等を出し合い次第に打ち解けて来た。私も段々と皆んなの中に解け込み夜の更けるのを忘れて話し込む。いい雰囲気で不安は一晩で吹き飛んだ。

2日目、講演が終わった後、バズのテーマが与えられる。午後はレクレーションで気持良く汗を流し、夜は日頃経験している華々しい営火とは趣を異にした静かで厳かな太古の時代から現代までの4ヶ所の営火を巡礼する。思い出に残るファイヤーだ。その後キャビンに帰って、テーマ「地域における青年の役割」『私達は具体的に何ができるか?』について朝方まで、青年らしくお互いに熱っぽく発言し他人の意見を素直に聞く、気持の良い話し合いだ。

このテーマについては、3日目午後も小グループに別れて話し合う。

『青年』いい言葉だ。私の様な世代にとってこの言葉は、爽やかで心地よい響きがあり、夢が湧いて来る言葉だ。

青年には他の世代には無い、物事に対して燃えたぎる情熱があり、情熱の進るところから行動が起る。A・A' グループの青年達は、先ず自分を磨く事、その為の手段としてサークル活動に参加して勉強するもよし、また単独でイロイロなセミナー等に参加して自分を研鑽するもよし、とにかく自分が世間に対して恥かしくない青年になる事、小さな事でも自分に出来る事から1ツ1ツやろう。

話し合いはここに到達したように思います。青年達の話を聞いていて次代を担う青年達に希望と安心を与えられました。

この3泊4日のライラセミナーは、気障な云い方になるかも解りませんが、私の人生の中で、ほんの瞬間的な一コマかも知れませんけれども、この間に受けた印象は、私のこれから長い人生の中で決して忘れる事のない良い思い出になると思います。

このような思い出を与えて下さった皆さんと私のような未熟な者をカウンセラーとして大過なく過ごさせて下さった橋本カウンセラーに感謝申し上げます。

RYLAセミナー参加を ぜひ後輩にも

荒木克彦

4日間という短い間ではありましたが、た
いへん得るものがたくさんありました。

講演での知識はもちろんのこと、あちこち
から集まつた人との話し合い、打ちとけあい、
又それによって自分を見つめなおせたこと…。

私は、まだ、使命感をもっていません。こ
の世の中に私というものをなぜ、なにをさせ
るために送りだしてくださったのかわかりま
せん。だから、いつでもやる気をもち、死ぬ
まで燃えたいと思います。そして死ぬときによ
かったと笑って死ねる一生をおくろう
と思います。

それからこのRYLAセミナーに参加させ
て頂きたいへんうれしく思っています。私も
2回、3回ときたいのですが、やはり市島町
青年団員の1人でも多くがこのセミナーに参
加できればと思います。又市島町でミニRY
LAセミナーをやってもっと団員の意識をた
かめていきたいと思います。

最後に余島の方々、先生の方々、ほんとう
にありがとうございました。それではまたあ
う日まで……。

すばらしい語らいの場

馬場一郎

3泊4日間、すごく短かく感じました。い
ろいろな年代の方々と交わる、またすばらし
い講演も聞くことができました。また自由と
それぞれの自覚のうえに立つてつくられたブ

ログラムをみなさん真剣に消化し実り多きセ
ミナーがありました。オープニングパーティ
ー、レクリエーション、キャンプファイヤー
それぞれにおいて自分自身ほんとうに楽しみ
ながら学習できたと思います。その中でもや
はり夜のキャビンタイムはすばらしい語り合
いの場となりました。私はA班に属しメンバ
ーにめぐまれ、年令、地域の差を超えて本当に
親しく交わりを持つことができました。2
日目の夜から3日目にかけては1つのテーマ
にみんな一丸となって取り組み他班よりもっと
深いところまで討論できたと確信しました。
夜ねてしまうことがおしいほどメンバーと親
しく交わる、いろんな方々の貴重な体験や意
見を聞くことができ、また自分自身をもすな
おにメンバーの方々の前に出すことができほ
んとうに良き仲間ができたと思います。

カウンセラーの方々にもいつも遅くまでつき
あつていただき、討論にも加わっていただき勉強になりました。ありがとうございました。私たちA班メンバーはぜひもう一度(何度でも)この余島でセミナーを開きます。ほんとうにすべての人にありがとうございました。

迷いからの脱出

前田 豊

セミナーに参加する前、日頃の指導の方針、
方法に疑問をもち、迷い、くよくよしている
内に最後には人として俺は全くなつてないん
じゃないかと、ひどくおちこんでいました。
ですからセミナー期間中に、何かふっかける
ものがあつたらと思い参加させていただきま

した。講演を聞き、そして多くの人と出会い、その人たちと深く立入ったところで話ができる、また自然と接して、ことばに表わしにくいのですが、これからもがんばろうという気持ちになりました。江藤ディーンをはじめロータリーの方々、夜おそくまでつきあってくれました。幸岡・小畑・橋本カウンセラー本当にありがとうございました。そしてセミナーに参加された方々、どうもありがとうございました。

唯一、あまり触れ合うことができなかつたベットくん、ふとんさん、ごめんね。あ~~~ねむた。

意識の変革のめざめ

菰田 恒二

1. ライラセミナーへの参加動機

○上司から会社の若い人達を指導するため
に参加するように……。

2. 参加しての感想

○以前まで持っていた若い人達のイメージ
が変わった。青年は三無主義といわれるが
それぞれ自分なりの考え方を持ちそれを
表現する力を持っていたし明るかった。

3. 内容についての感想

講演について

情熱をもってトライする精神を養なうこ
と、21C世から現在を見つめる必要性、自
分の後ろ姿に自信のもてる生き方、問題意
識と危機感をもつ、参加意識、何もかもが
人と人、その他……。

4. 地域に帰っての自分の行動

地域に帰って青年のリーダーとして、ま
ず自己啓発につとめ新しい活動へまず身近

かな自分のできることからロータリーの4つ
の精神をもって。

大いなる収穫

久保 浩史

私は正直言って遊びのつもりで参加しまし
た。しかし各方面で実際にリーダーとして立
派にされている方々を見ていてそんな自分を
恥かしいと思いました。

参加して今まで経験した事の無いアーチェ
リーや陶芸ができ、また人とのふれ合いの大
切さをあらためて認識できたと思います。

このセミナーに参加する事により言葉では
表現できない何か凄く大きいものを得たよう
な気がします。それは漠然としたのですが、
これから自分の行動により具体的に、かつ
より大きくすることができるような気もしま
すし、それをできるのは自分自身です。ど
うになるのか分りませんが、このセミナー
から帰って少しづつでも着実に仕上げていき
たいと思います。

このセミナーで知り合った方々、この人達
と知り合えただけでも参加した意義があった
と確信を持っています。

最後に、このセミナーを開講するにあたっ
て大変ご苦労があったと思いますが、私達が
セミナーで学んだ事を忘れず、また他の人に
伝える事で恩返しさせていただきたいと思
います。有り難うございました。

自分自身の開放

高 橋 啓 二

今回のライラセミナーは今までにない研修内容で実に為になりました。

まず部屋にカギがないと言われた時は自分自身とまどいましたが後になって考えてみると人間本来持っている人を信用すること、そして自分が皆んなをどの様に見て行動していくらよいかなど色々と考えさせられる点が多くありました。そして、今まで自分自身多少人間不信に陥っていたのですが、皆んなと話しをしていると少しずくわれた気持になつたことはこれからの自分になんらかのかたちでプラスになっていくと思います。最後に研修の仕方にも色々と種類があり、根本的に研修方法の改善していきたいと思います。

年も参加したいと思うし、できなければ後輩にぜひとも参加してもらいたい。必ず得るものがあるはず。少くとも私は4日間の中で男として人生を強く生き、物事にいつまでもこだわらず心の転回をするべき。そうすれば心が強くなり、人の意見に左右されず男として1本筋の通った生き方ができるのでは。ということを得ました。口先だけでは人はついてこない。人の中へとびこんで一緒に行動することが必要であり、ごまかしは人は敏感に知っていることが良くわかりました。

4日間ショックの連続で心の落ち着く時がなかったけども楽しい、充実したショックであったと感じています。このことを仕事に青年活動に、人としての生き方に生かしていきたい。言葉では表現できないものがあります。

以上思ったことを何の考えもなく書いただけですが、私の感想とさせて頂きます。

最後に、人間関係はむずかしく、また楽しい／＼青年団は永遠に不滅です！！皆さんまた逢う日まで。

強靭な心を

芦 田 恒 男

始まる前は4日間長いなぁと思っていたのが、今はあっという間に時がすぎてしまっていた。

少しでも自分を高めればと思って参加したのが、高めるどころか自分という人間がいかにちっぽけな存在で、他の人がすごいと打ちのめされた感じです。まだまだ考え方が甘く集団の中での自分という者の身のおき方、人との接し方、思考方法を今までと変えなければならない。この研修で自分が思ったこと、得たこと、感動を地域へ帰ったら1人でも多くの人と分かちあいたいと思っています。来

これぞ研修会のありかた

上 谷 敏 行

大変すばらしい研修の機会を与えて頂きありがとうございました。

私、これまでいろいろな青少年指導者研修会に参加、又スタッフとしてプログラムの立案、実施をしてきましたが、今ふり返ってみると全てが時間から時間への研修、いわゆる時間の拘束による研修、又、事業清化のための研修会等、参加者よりも主催者側の都合にあわせた研修しか出来なかったような気もい

たします。しかし、本研修に参加し参加者を一個人として扱い自らの責任のもとでの行動相互信頼等、当初研修参加にあたってこのような研修が開催可能かどうか半信半疑でありましたが、実際に出来るということを自分の体験で知り得たことが第1の収穫であります。又すばらしい講師人による講演内容にも誰一人脱落者の出ない研修が出来るのかも知れません。

本研修会を通して受講生を信頼し、受講生の立場になっての研修内容を考えることの大しさがわかったような気がします。今後地域においてライラセミナーで得た成果をもとに地域の子どもたちのために力いっぱいがんばってみたいと気分新たに決意する思いです。

どうもありがとうございました。

YOSHIMA、よしま、余島………又お会いしましょう。

素晴らしい体験

本田 弘之

4月4日から7日までの4日間余島で第7回RYLAセミナーに参加させていただきました。昨年度も参加させていただいたのですが、今年は昨年以上に素晴らしいものであったと思います。講演の内容にしましてもとてもよいものがありました。講演の内容の中に、親の後ろ姿というのが2人の方から別々の日に聞きました、人間の考え方というものは共通するものがあると思いました。このRYLAでの経験を生かして今後の活動に今まで以上に力を入れたいと思います。

新らたな出発

井 上 栄二

今回RYLAセミナーに参加して、ガバナーを始め各ロータリアン、カウンセラ、リーダーの熱い思いを感じ、バズセッション等を通して実際の現場における悩み、すばらしさ、今後の課題を話し合い、今自分自身が地域において何がやれるか考えることができました。

毎朝の講演においても現代青年の問題から人間の欲求、各会の常識人、スポーツを通しての精神力等青年として、人間として欠かせないことばかりで再度見つめ直し少しでも教えに近づくよう努力していきたいと思います。今後ともリーダーとのつながりを大切にしていきたいし、本音で語り合えたことは自分自身のすばらしい刺薬剤になったと思います。

睡眠不足で考えがうまくまとまりませんがこういった機会を得たことをすべての皆様に感謝し、今後とも青年の未来の為にもこのセミナーを継続していってほしいと思います。本当にありがとうございました。

真実を語れる場

公文 英雄

今、私たちは将来に向って期待された新たな旅立ちをしようとしている。その旅立ちに良き友との出会いの場、強い結びつきの場、そして“生きているあかしとして見つめよう”来たる21世紀に向っての“自覚”をさらに強

く私たちリーダーに与えて下さったこの場、ライセミナーに感謝するとともに私たち1人1人の輪が広く全地球的に広がり、平和な世界が必ず作られることを確信しました。

そして私が出来ることは、今からしなければならないことは、失敗をおそれず地域社会に少しでも貢献出来る場をかぎりなく作っていくことです。今集まつた仲間とまたつぎのこの自然に恵まれた地での再会の機会にかたを寄せあい、はだとはだとのふれ合いの中でその喜びを、苦労を、成果を一歩一歩のあゆみとして実施することが出来ることを願って感想の言葉とします。

最後にデーンの先生を初め諸先生方、スタッフの皆さんほんとうに心と心の真実を語る場と将来の身の振り方を悟らして下さったことに厚くお礼申し上げます。

YOSHIMA バンザイ ！

素晴らしい仲間たち

竹本幸治

あ・！ 若い……これが参加した時の初めての印象です。“参加してよかったです”これが終了時における今の感想です。

私の年令は40才、20才の人もいる、多数の人が若い、しかしカウンセラーのおかげと素晴らしい仲間の人のおかげで楽しくすごせました。

なお価値ある講演、連夜続いたキャビンでの討論？……また自然の中で自分の人生について思索したこのセミナーの意義を自覚して今後は特にロータリー精神を若い人達に1人でも多く伝えていくよう努力していきたいと思います。

本当にありがとうございました。

育ててほしい 深めた信頼と友愛を

A' グループカウンセラー 橋 本 知詠子

ほころび始めた桜、つつじ、それに好天と第7回RYLAセミナーは余島の自然の祝福を受け開かれました。A班のカウンセラーとして若者に囲まれ、夢のような、しかし充実した4日間を過させていただき感謝しています。A班は優勝なリーダーばかりで、私の方が学ぶことが多い日々でしたが、敢えて言えば『欠点のないことが欠点』とでも言えるかも知れません。常識的な発言、行動、何ひとつ世話のやけない班でした。これに創造的な発想が加味されれば又一段とキャビンタイムが新しい転回をみせたかとも思います。全体的に『思索の時間』に2人、3人と集って話しあっている姿が、今回は特に多かったようでした。短時間のセミナーでありながら、お互いが人間としての信頼と友愛を深め、閉会式の後も別れがたく、あちこちで再会を約しあい、このような機会を与えてくれたロータリーに感謝すると言いながら若者達は島を離れていきました。これらの人々が、それぞれの地域にRYLAで培われた素晴らしい花を咲かせ、次代の種を育ってくれることを確信いたします。

大切にしたい 心のつながりを得て

山田 祥千子

このたびは第7回RYLAセミナーに参加させていただきありがとうございました。3泊4日のこのセミナーのお話をロータリークラブの方からいただいた時、青少年活動等をされておられる方々と御一緒できるという理由だけでOKしていました。パンフレット等が送られてきて、ロータリークラブの何たるかもよく知らない私が参加させていただいてよいのだろうかと4月4日が近づくにつれて思うようになりました。周囲の方々から気軽な気持ちで、色々な人と友達になれると思って行ってらっしゃいという助言をいただいて不安を抱きつつも、私は中突堤に出かけました。そしてこの余島に着いて本当にいい経験をさせていただいたと思っています。色々な場所から、各、自分自身で青年だと思っている(?)人々が集まってきて自分達は何ができるのかということを真剣に考えるという、学生の私には滅多にないすばらしい機会を得ることができました。そして多くの人々と住んでいる所は離れていても、心のつながりをもてる友達となれたことは本当によかったです。どうもありがとうございました。

得がたい自己反省の体験

黒河範子

今の世の中は何においても心の余裕が無い世の中であると思う。私の毎日も、はりは有

りながら時間に追われ仕事や雑事に縛られ自分で省みる余裕が無く、又心が渇いている状態が続いている。その中短期間でも普段接する事ができない素晴らしい自然を体験しながら自己反省の機会を与えられた事は本当に有難いと思っている。

講演、討論、語らい、遊びを通じて自分の甘さ、浅さ、いい加減さを改めて思い知った。自己啓発の出発点は自己反省であり自分を謙虚に見つめ、勉強し、努力し、向上してゆきたい。

今まで「真剣に考えても」、「どうせ…」という考えに傾きがちであったが、小さな事一つ一つを心に受けとめ何でも考えて行く事を勉強した。人の出会いが、こんなに大切なものの、又1コのゴミを拾う事、何か行動をする事、他人に対する「ひと言」がよりよい社会、自分を作る一歩になる事に気付き安心した様な嬉しさを味わえて、この様な心境を体験できた事、すべての要因に感謝したい。

目前の利益を追求せず、広い心をもって毎日を努力していらっしゃるロータリアン、カウンセラーの方々の生き方に感動し、少しでも近付ける様自分なりに努力したい。それを自己満足に終らせない様1人でも多くの友を作ってゆきたい。

参加することの意味

古山直美

このRYLAセミナーに参加して一番に御推薦いただいたロータリアンの方々にお礼を申し上げたいと思います。何もわからなくこの余島にきましたが島のすばらしさ、セミナ

ーのすばらしさにこれからも忘れられないものになりました。

まず自分を見つめられたように思いました。これからの社会にとって個人、自分が出来ることから行動するということにいろんな活動をしていない私にも出来ることだと思いました。今の青年にとって、まず参加することが一番大切な事だと佃先生がおっしゃられましたが今の自分にそれがかけていたように思いました。

二番目に友情の輪が広まったように思いました。セミナーに参加するまで会ったこともない人たちと夜遅くまで楽しく話をしたり、一つのことと一緒に参加したことで親しみがわくといった感じで、初対面だったとは信じられないようです。

最後に R Y L A セミナーに参加してよかったですと思います。ありがとうございました。

大切なとの出会い

西口 真由美

よい環境、望ましいリーダーシップ、プログラムの中で研修会をさせていただき体験を深めることができました。人と出会いの素晴らしさを改めて認識しました。私をこの研修に参加させてくださったロータリークラブ、又私の両親に感謝しています。高度技術化社会になればなるほど結局は人は人とのふれ合いを求めずにはおれなくなってくると思います。

- 出会いを大切に、真心を尽して出会っていくこと。
- トライの精神

を自己啓発の目標にして少しづつ自分を高めたいと思います。看護婦として、点訳のボランティアとして、又将来妻として母としてそしてひとりの人間として一生懸命生きたい。

山本元師の言葉に「ヤッテミセテ イッテキカセテ サセテミセテ ホメテヤラネバ人ハ動カジ」という言葉がありますが、リーダーとしての生き方を示している言葉であり、私自身そのように努力したいと思います。自然の中にいると、宇宙、神によって生かされているんだなあという感謝がわいてきます。

・講演は大変勉強になりました。

・地域で頑張っている仲間がいるということを忘れてはいけないと思います。

充実した日々を過ごせて

楠田 恵美

第7回 R Y L A セミナーに参加してみて今日はもう最後となりました。この3日間有意義な日々でありこのセミナーならではの体験ができ自分が少なくとも少しは考え方、見直す部分が変わったと思います。4班に分かれ各班それぞれが違うわけですが、私の班は階段を一だん一だん登りつめまだ最後まではいってないけどその1日1日の過程が十分成しとげられ今は心が満足感、充実感でいっぱいです。いろんな人と知りあえ十分話すチャンスがあり本音で語りあえ年令層においてもさまざま普段では味わえない人とお話し考え方をきいてみてプラスになりました。ライラーの研修が1つの島で行なわれたのはすごくライラセミナーに対していいことだと思います。不思議と誰とでもお友達になれ心のふれ

あい、つながりをもてるのは島だという部分
が多分にあると思う。

1日、2日、3日目と日がたつごとに心が
のこってきて今は本当に1日目から3日目の
つながりもよかったです。1日目がああだったか
ら3日目のこの充実した気持ちが味わえると
思う。とにかく感動したし学ぶこともでき、
遊び楽しかった。参加ができて幸せ者だと思
う。

のびのびと 過ごせたライラ

今倉 美香

すばらしい自然にめぐまれたこの余島にや
ってきて、本当に有意義な4日間をすごさせ
ていただきました。これまでこのような研修
に何度も参加させていただきましたが、いつ
でも厳しい規則においたてられるように日を
すごしていましたが、このライラではすべて
の行動を私たち自身の自覚にまかせていただき
本当に自由にのびのびとすごすことができ
ました。かえって今回のようにさせていただ
いた時の方が、時間その他の規則をきちんと
守って行動することができたと思います。キ
ャビンタイムやフォーラムの時間にはいろい
ない方の活発な意見をきくことができ自分を
かえりみ、みづめなおす機会を得ました。そ
の他ファイサー等のような技術面でも新しい
やり方を学べたことは今後の私自身の活動の
上に生かしていくことだと思います。多くの
人とめぐりあい友情をつかうことのできた
このセミナーに参加できたことを心から喜ぶ
とともにお世話をいただいたカウンセラーやロ

ーターの方々、余島のスタッフ
の方々に心から感謝申し上げます。

R Y L Aで得たもの

山本 佳枝

このセミナーに参加して得たもの、それは
環境力、そして友です。

環境というのはまずこの余島、豊かな自然
と整備された設備、様々な可能性を与えてくれ
ました。そして制限されない十分な時間、
私達を大人としてリーダーとして自由に放任
され、それゆえに有効に使わねばと心に言い
きかせました。そしてもう一つ豊まれたプロ
グラムです。様々な分野からいらして、また
知識・経験豊富なロータリアンの皆さん、ガ
バナーの方などと身近に接することができい
ろいろな話を聞くことができ大変良い勉強に
なりました。そして立派な先生方の講義もも
ちろん有意義でした。

第二番目に力。これはもちろん腕力ではなく
考える力、思索する力、判断する力、協力
する力、行動力などなど。私がこれから学校
で、職場で、地域で活動していく上で大きな
プラスとなることだと思います。いやプラス
としていかなければいけないと思っています。

第三番目に何といっても友です。これまで
全く知らない者同志だった様々な職種・地域・
年齢の方々とひざをつきあわせて考え、話し、
学び合う機会を与えられたことは本当にこれ
からの生活に意義あるものとなりました。時
に真剣にそれぞれの活動の悩みなどを語りあ
い、時にズッコケながらゲームに話に花を咲
かせました。

4日間おこること、きくこと、何もかも新鮮ですばらしい経験でした。参加して本当に良かったと思います。RYLAで得た3つのもの、この種にきっといつか花をさかせたいと思ってやみません。

大きな収穫

笹部直美

このセミナーの一日一日は普段の生活の2倍も3倍も充実したものでした。“真に生きる”という言葉を聞くと、こんな自分が恥かしくなり、人生に対する考えの未熟さを思い知らされました。恵まれた環境の中にいる私は、その時、その場が良ければそれで良い。奉仕も自己満足の為であって、本当に情熱をそそいたことなかった。本当につまづいた事がなかったのではないかとも指摘されました。死を意識して常に充実感を持って生きなければならぬ。そう生かされているという事が気が付きました。大きな収かくです。人と人との出会いの大切さ、コミュニケーションの重要さ、自分をみがく為にトライすること、自分自身に問い合わせに終りそうですが、この自然にあふれ出た涙を忘れないようにします。Rの先生方、Aの皆様有難うございました。

心に残るもの

鈴木利江子

ライラセミナーでびっくりしたのは第一日の夕食です。あんなステキな夕食をおなかいっぱい食べれてすごくRICHIな気分でした。

2日目の佃氏の講演は私が心理学を大学で習ったこと也有って、わりと興味をもって聞けました。

キャンプファイヤー、ありきたりの心ではなくて心に残るものでした。

夜のフォーラムは、今までAがみんなで話し合ったことを発表しましたが、他の班の人達もしっかりした意見をもって勉強になりました。

その後のキャビンでのみんなの雑談は、みんなが本音をいいあってとってもおもしろく楽しかったです。

第7回 RYLAセミナー

Bグループカウンセラー 三木 明

前日までの雨もようやく上がり、桜の蕾がふくらみ始めた余島にセミナー受講生が次々とやってきました。どの様な4日間になるのだろうか。期待と不安の入り混じった複雑な気持ちでした。開講式がありオープニングパーティでの若者達の屈託のない笑顔と旺盛な食欲を見ていると少しずつ不安が消えてゆきます。それぞれ異なった社会から参加した人たちですが、講演を聞き、レクリエーションと共に楽しむにつれ親密度を増してゆくのが分かります。

キャンプファイヤーで各自の胸の中に友愛の灯をつけた後のキャビンでは、その友情の証として、何と大酒盛パーティになってしまいました。私はカウンセラーとしての力の無さを痛感しましたが、そのとどまるところのないエネルギーに一種の感動を覚えました。

3日目、バズセッションでは、前夜とはうって変わった真剣な態度に、又々若者達に魅きつけられてしまいました。小グループ毎での熱気をおびた討論、眼の輝き。そしてB・B' グループとしての完璧なまでのまとまり。そこに見たのは、昨今叫ばれている軽佻浮薄な若者像など全くあてはまらない人達でした。現代の混沌とした社会の中にどう純粹に生きてゆくのか。各自の生きて来た貴重な体験を未来の社会にどう生かすのか……。夜明けまで語り合い、情熱をぶつけ合う真摯な姿を見ていると頭の下がる思いでした。4日間、共に生活し語り明かした胸の中にはきっと自信と勇気がわいたに違いありません。地域社会に私達は何が出来るのだろうか。今も考え方を置きます。ありがとうございます仲間達、又会いましょう。

すばらしい人の出会い

長崎 亀四郎

「人と出会い、神と交わり、愛の火のもえるところ」と石に刻まれたY M C A余島野外活動センターは自然環境に恵まれ、自分自身をみつめなおす絶好の地であり、このR Y L Aで出会ったすべての人の係りが大きな収穫がありました。

まず、講師先生との出会いでは、未来社会からの呼びかけに応じて、若者は今、何をしなければならないかについて、まずトライせよとおっしゃられた佃先生、「すべて人だ」常に問題意識と危機感をもち、時代の変化にチャレンジせよとおっしゃられた加藤先生、卓球生活を通して自分自身に勝つことを教えてくれた徳永先生、満月の浜辺で21世紀に向って君たちは何をなすべきか真剣に考えよとおっしゃられた今井先生等……。また、どの先生も自分の体験から「人の後姿を師とせよ」とおっしゃられました。

次にロータリアンとの出会いでは、R Y L Aのスタッフとして、各班のカウンセラーとしてそれこそ夜を徹して献身的にお世話ををしていただきました。また、小豆島R Cの方々には蔭の力となり会の潤滑油としてご奉仕されている姿を拝見し、私達に後姿でもって奉仕の大切さについて教えてくれたように思います。

最後に、参加者の青年との出会いでは、兵庫県、四国四県の各地から初めて会った若者が一つの輪になり、地域社会における青年の役割について、人生について夜を徹して語りあったことは、大きな意義があったように思います。

まさに若さと情熱をぶつけあった4日間、R Y L Aセミナーもあっという間に終ろうとしていますがこれらの出会いを大切にし、今後の活動に生かしていきたいと考えています。そして私達の活動が点として終ることなく多くの人と線で結んでいきたい。そのためにもみなさまのご指導をよろしくお願ひします。

終りになりましたが、お世話いただいたロータリアンの方々、ご推せんいただいた鳴門中央R Cの皆さん、すばらしい環境の余島に心からお礼申し上げます。

反発心も消え失せて

坂本正徳

私は本セミナーに参加するにおいて何の予備知識も持っておりませんでした。ロータリー等始めて耳にする言葉で自分が何故中芸地区ロータリークラブよりの推薦を受けたのか全く理解出来ないでこの島へやって来ただけです。

なにしろ4月3日になるまで私に正式な連絡が全く無かったです。4月2日の時点において私のスケジュール表には6日、7日の予定が入っていたのですから私にとって全く聞いた事の無いセミナーに『「参加しろ」と前日になって通知して来るなんて何考えてるんだ』と腹を立ておりました。事実、私はこの島に来た時にも頭の切り替えが出来ておらず何事に対しても反発心が起って来たものです。しかしその反発心が治ったのは同室の人達との会話を持ってからでした。私達の部屋以外の人達、特に同じグループの人達とのコミュニケーションを持つ事によって私の反

発心は全く頭の中から無くなつたのです。

さて本セミナーにおいて私の意見を書かせていただきましょう。多少生意気かもしませんが私なりの意見を書いてみたいと思ひます。

まず講議時間の2時間は私等学校を卒業して数年をへている者にはかなり苦しいものでした。2時間がまんも重要かもしませんが、正確に内容を把握する為には途中に小休止した方がよろしいかと思われます。次に講議の内容ですが私自身かなり参考になりました。しかし私等がこの内容を生活において活用する時は、自分なりのかなりのアレンジが必要とするように思われます。

話は変ってパズセッション、フォーラムにおいては、実に充実していたと思われます。レストランやキャビンに居る時の顔からは想像出来ないような真剣な顔と積極的な意見とで本セミナーにおいて最も重要かつ充実した時間であったと思われます。

本セミナーにおいて経験し学んだ事を帰つてからも人生において社会教育において参考として活用させていただきたいと思います。

つめなおす時間がなかっただけに、自分にとって思索の時間というのはとても貴重な時間に思えました。そしてほかの県の人たちとも出会い、仲よくなり、また機会があれば会おうという親交を深め合えたことは自分にとって「ほかの県の人たちとも友達になれたぞ！」という感激とともに、このうえない喜びでした。

小さい時の話になりますが、自分はみんなと遊ぶのがへたで友達も少なかったのですが、今現在「自分が友達を自分自身の力で作っている」「ほかの県の人たちとも何の抵抗もなく話している」ということが小さい時の自分を考えてみると、「これがあの時の自分の姿なのか」ととても信じられなくなり、それとは反面「自分もやれば友達なんかいくらでも作れるじゃないか」という両方のことが偽りない気持ちだったのです。

最後に、このライラセミナーで体験したことを生かして、これから的生活・仕事・すべての面においてがんばっていきたいと思います。

大きくなった自分

トライする貴重な機会

後 藤 操

初めはどこのだれかもわからず、ただとどうばかりでしたが、初日の長門さんの提案による自己紹介により、みんなの名前もすぐに覚え、そしてみんなが一つのテーマをもちそれについて本音を出し言い合えたことは自分にとってとてもプラスになりました。

高校卒業以後、仕事仕事の毎日で自分を見

上 野 貴 義

最初ポートタワーの待ち合わせ場所について、知らない人々、内容のよくわからないライラセミナーと言うことを考えてなんなく不安な感じもしていたし、また楽しいんじゃないかなって期待もしていました。

みんなとうまくやっていけるか、みんなに迷惑をかけてしまうんじゃないか、そんな色々な事を朝起きた時から考えていました。

でも4月4日の夜、Bグループのみんなとキャビンタイムでそれぞれの自己紹介をしているうちになぜあんな事で悩んでいたんだろうって思うほどそれぞれの人々と仲良くなっていました。

名前も顔も全く知らない、このセミナーがなければ多分会う事がないだろう人々とこんなに仲良くなれて、今はとても感謝しています。

それでこのセミナーをふり返って考えてみると、それぞれの職場、学校あるいは奉仕団体で日頃活躍されているみなさんの意見を聞かせていただいてすごくいい勉強をさせていただきました。

バズセッションで本音のはきあいをして時間がたりなくなってうまくまとめられなかつた事もある意味で今はよかったなぁとも思います。

僕の場合とにかく皆さんに勉強させてもらいっぱいなしだったようにも思います。みんなの一言一言が少しずつ心の中でプラスになって帰ってからの生活に確実に生かせる自信もつきました。

カウンセラーの先生方もすごく楽しい方々で、ある先生とは朝6時まで一緒にさせていただきました。

ある時はいい兄貴であり、先生であり、またある時は友達であったカウンセラーの方々には僕個人すごく感謝しています。ご苦労様でした。

これからもう帰るわけですが、このセミナーのおかげで、みなさんのおかげでほんの少しですけれど大きくなって帰ることができそうです。みなさん、本当にありがとうございました。

再会を期して

笹野俊

今回、第7回RYLAセミナー'85.4.4-7YOSHIMAに参加出来うれしく思っています。

何が一番うれしかったかと言いますと班のみんなが大変親切で、明るくて、楽しくて、思いやりがあり信頼出来る人ばかりで大変よかったです。

長いようで短かかった4日間、一生心にやきつけておこうと思います。

RYLAで学んだことを自分の職場の人たち、これから社会を背おってしていく若者につなげ住みよい社会に少しでも近づくよう頑張りたいと思います。

機会があればまたみんなと会いたいです。

出会いと自覚

中島寛

4日前兵庫県氷上郡山南町の家を出集合場所の神戸港ポートタワー下に着くまでは「どんな人達が集まるのだろう、僕一人で集団の和にとけこめるだろうか」本当に不安でした。なんというのかな僕自身それほど大きな目的を持って生活してきたわけじゃないし、ボランティア精神なんてものはまったくといっていいほど持っていないません。行ったもののソガイ感を感じ和にとけこめなくてボロボロになって帰って行くのではないだろうか。そんな気持ばかり先に立ってしまってマイナーな気持だけをいたいで神戸に着きました。「あっ

着いてしまった」ところが集合場所で出席の点呼を受けてみるとほとんどの人達がなんとなく心細そうな顔をし集まっているんですね。「そななんだ皆んな、いやほとんどの人達が1人で来ているんだ、心細いのは僕だけじゃない」「みんな一人一人同じ条件なんだ」その時初めて始まりはいつも0なんだということを自覚しました。

船の中ではもう2人ほどの友人はできるし、僕はいったいなにを心配していたんだろう。話をしてみるとみんな同じような気持を持って来ている。少なくともこの2人はこの時初めてメジャーな気持を(自分本来の)取り戻すことができました。

セミナーの内容としては、僕としては香川大学の佃範夫先生の講演がかなりこれから自分にとってプラスになるのではないかと思いました。例えば心理学の人間の基本的欲求を利用した人間のユウ動方法等は職業から身につけておけば便利だろう。幼児期～老年期までの発達心理も聞いて楽しかったですね。

キャビンタイムはみんなでわき合々と語り合い、みんなの考え方が高いレベルのものだなー、僕なんかとてもそこまで考えなかっし考える必要がなかったんですよ「人生感の違い」「価値感の違い」勉強になりました。

バズセッションの時なんかそうです。この時は僕も自身をソウ失しましたね。自分で考えていることが、言葉がたりないせいなどもありみんなに正しく伝わらないのです。それに意見のまとめ方のむずかしさ、でも「こういうことはむずかしいんだ」「自分は他人よりこういうことがおとっているのか」わかつただけでもこれから自分にとってプラスになると思うんです。

僕自身正直な気持ちとして講演なんかはい

ろいろ講演会に出席したり、本を読めば知ることができます、これだけ広い範囲から集まつた80余名が一つの課題にむかって話し合つたフォーラム、班単位ではあるがキャビンタイム、これらはほんとうに僕にとって意義のあるものだったと思います。

RYLAセミナーに 参加して

足 立 稔

3泊4日のRYLAセミナーに参加するに当りロータリークラブについてもセミナーについても何も情報や知識がなく参加することが自分にプラスになるかマイナスとなるかがまるっきり判断できず不安であった。結果的には大いにプラスとなった。

期間中講演、セッション、フォーラム等それぞれ有意義なものであったのだが、特に『地域社会における青年の役割』についてのバズセッションやフォーラムは自分の考え方感じ方をもう一度考え直し他人の考え方、感じ方を知る上で期待以上の成果を得ることが出来たと思う。ただ時間的な制約の為、数多くの奥深い答の一部分を引き出したにすぎないのが残念である。時間をかけ答えを出したとしてもそれが本当にあってるかどうかは誰にも判断しかねるように思うし、私たちが年を経て考えて行く中で答え自体が変化していくと思われる。しかし私たちが話し合い得た答えについては今実行に移すべき当然のことであり、実行するには人へのいたわりや勇気が必要であるが、それが自分の自然な行

動、習慣となるよう努力することが義務であると思う。

本セミナーでは普段の生活では、自分や青年や社会について深く見つめ直し、考え、人々と交流し意見を交換することがまずないが、それをこの機に与えられたことは非常に良かった。

私にとって自分が個人として団体の一部として行動して行く上で大きな自信と知識と行動力としたい。

ロータリークラブの方々には、このようなセミナーを数多く開催し指導者の育成に努めていただきたいと思います。

神秘的感動のとき

B' グループカウンセラー 関 淑子

カウンセラー打合せにて、今井先生のお話は身の引き締まる思いで拝聴いたしました。カウンセラーとして資格も不十分な私、でも私なりに勉強させて頂こう。

立派なロータリアンの方々とお目にかかれればらしい環境の余島での3泊4日、「人と出会い神と交わり 愛の火灯す所」 胸にぐっとかみしめて。

大学生1名、銀行員1名、病院の栄養士1名、英語塾の先生1名、塾の事務員1名、保母1名、計7名のグループ。

良き若者と出会い、話し合い、戸惑い、考えさせられ、驚き、歓び、若者の真面目な取り組みにうれしく思う。指導者としてライラに参加し得た事により一層の高い境地と実行力を期待します。

キャンプファイヤーを囲み、大声で歌い静かにハミング、今井先生の心にしみるスピーチ、無言の移動、直接体験なる神秘的な感動でした。

お世話下さいましたロータリアンの皆様、参加なさった若者達に感謝の気持でいっぱいです。
ありがとうございました。

私の決意

宮 崎 憲 美

四国・兵庫と色々な分野で活躍している人々が集まりライラーセミナーという場で出会い、人と人とのつながり、心のふれあいをみつけ、本音で語り合える友とめぐり会えたことを感謝致します。

今の社会では人と人のつながりがなく、信頼・信用のないうわべだけの友情の中で、ここで出会った友、眞の友情の暖かさは他で学びとることの出来ない宝物であろうと思います。

ここで、今、自分たちが何をするべきか、今から次の世代に何を残し伝えるべきか?という私達、青年の課題を本音で語り明かしたということは云うまでもありません。

今(現在)、一般常識に欠ける人が多く、その人が親になり子供を教育すれば常識のない人間が育ち、おもいやりのない愛のない人間になることだろうと思います。そこで私はまず立派な社会人となり、次の世代の見本、手本になり、地球の愛、人間らしさを伝えるべきではないでしょうか?。短い期間ではありました、このライラセミナーで得たことは私達の一生の財産であり、これから的人生観も変って来ることと思います。とにかく自分と一緒に頑張っている友にめぐり逢えたこと、これから的人生の励みにしてこそしでも世の中に貢献したいと思います。

RYLAセミナーに 参加して

浜 崎 花 帆

恥ずかしながら、私は R Y L A セミナーがどのようなものであるかわからぬままここ余島にやってきました。お部屋に鍵がないということが第一の驚きでした。人間社会において大切なことは正に信頼であり、現在ではそれが失われて「人を見たら泥棒と思え」という風潮になっていることを再認識すると同時に最初に驚いたことに対してひどく腹立ちを覚えました。

こういった環境下で私達は自然に仲間意識を持ち、共に語り合うことによって種々の問題について考える機会が与えられました。そして年の近い者同志は共通した問題を抱えていたり、年長者の方々は人生の先輩として経験を踏まえて話を聞かせて下さり、年少者は熱意があって思ったことを即発言して年長者は沈着冷静で言葉数は少ない一方、もっともなことをおっしゃるということを改めて感じました。ただ残念なことはフォーラムの時間が足りなかったということです。

昨年の夏、私は部落地区にある保育所に実習に行きました。そこでは毎日 cooking 保育というものを実施していました。果して普通 4、5 才の子供に包丁など使わせるでしょうかしら。この保育の発端は台所にまな板も包丁もガスレンジもなく、ただあるのは調理用はさみと店屋物などを暖めるための電子レンジ又は朝食は喫茶店のモーニングという家庭がこの地区では多いからということでした。保育者を目指す者の 1 人としてこういった社会の中から子供を救うことも青年の役割の 1

っとして考えていきたいです。

今、R Y L A セミナーに参加させて頂けてとても幸せに思います。

感動から奉仕へ

福田 久子

まず一番に、この余島について感じた事、それは1つ1つのキャビンに鍵が無かったと言う事です。

今までに鍵が無かった為に事件がおこったと言う例が無い、それだけの単純な事でとどまる問題ではなく人と人との間の信頼、触れ合い、出会いなど…、今私達が生きている現代社会の中で忘れかけている物を無言で思い知りました。

ライラセミナー、ロータリークラブ、私にとってはまだ聞き慣れない言葉、クラブにおいての生活…、この島へ一步足をふみ入れるまでは期待と共に不安もかくしきれないものがありました。

しかし鍵の件にしろ、3人の先生方のすばらしい講演、同じ地区の人がいっしょにならないでめったに会えない人と親睦を深められるようにとこまかい点まで気づかれたキャビン、そしてそのキャビン毎でのバズセッション、又時間をも忘れてしまうほどの討論を重ねたフォーラム。どれを今かえりみても有意義で日常の生活の中ではなかなか体験できない貴重なものであったと思います。たった4日間の経験ではありましたが、今深く自己中で何かさわやかなここちよい感動を覚えていきます。

しかしこの感動を自分の中にだけでとどめておくのではなく私の生まれ育った徳島とい

う土地に今現在の職場に、友達に、家庭に持ち帰り微力ながら私個人からでもできる何かをさがして積極的に行動を（奉仕）したいと思っております。

最後になりましたが、このセミナーでお世話して下さった各地区的ガバナー、ディーン、カウンセラー、野外活動センターの方々、又この私を気持ち良く送り出して下さった職場の上司、先輩に感謝して筆をおきたいと思います。ありがとうございました。

素晴らしい仲間達

岡村 静

一度も会ったことも、話をしたこともない人達、多分、他人という言葉にさえも当てはまらなかっただろう人達が、この4日間のあいだに、意見を交わし寝食を共にした忘れられない“仲間”となりました。また、この“仲間”と語り合ったことによって、自分自身とも深く付きあうことができました。自分の心に正直になるということを忘れていたような気がします。

この余島で、様々な人々と出会い、新しい友達を作ることの素晴らしさ、彼らと本音で語り合うことの大切さ、自然に触れて生きてることの喜びを再発見した思いです。一人でも多くの青年にこの事を伝え、また実際に体験して欲しいと願っています。

このセミナーを陰となり日なたとなり支えてくれた人達に心から感謝しています。カウンセラーの関さん、三木さんどうもありがとうございます。そしてBグループの皆、これからも一生懸命この経験を生かして生きていこうね。

Thank you and see you again.

充実した日々

植 本 陽 子

1985年4月4日、不安と期待の入りまじった気持ちでこの離島、余島にやって来ました。

こういう形でのセミナー参加は初めてで、一つでも何かを得て帰ろうとすごく意気込んでしまいました。

しかし見知らぬ人達、みんなの緊張した顔を見てみんな立派に見え4日間うまくいくのだろうかと不安が一層つりました。

1日を終え2日目、3日目、最初の不安がうそのように充実した日々を送ることができました。

充実した内容のプログラム、講演といえば、つい居眠りをしていましたが、今回は睡眠不足にもかかわらず最初から最後まで一つでも聞き逃すまいと一生懸命聞いていました。3日間の講演、一つ一つが私の心の中に深く入り込んで「なるほど、そうだな、そうありたい」と感心し深く反省させられることばかりでした。

バズセッションではお互いが1つのことに対して一生懸命考え話し合う、こんなに話しあったのは私の経験では初めてです。みんなが1つのことに一生懸命になることがこんなにすばらしいものなのかと、ここでもまた感心してしました。

色々な人、様々な職業の人と出会い、お互いの物の見方、考え方、夜を徹して語り合ったことも大きな収穫でした。

この4日間で行ったことすべてにおいて一つ一つ新しい体験をすることができました。この研修によって一まわり大きな人間になったような気がします。

RYLAセミナーで 学んだこと

森 藤 千 佳

4月4日から7日にかけて余島の地で開かれたRYLAセミナーに参加して何を学んだかというと、やはり沢山の良き友に出会い、生きしていく上で貴重な体験が出来たように思う。

講演では、佃教授からは何事もトライをしてみるという必要性、自然の中で自分を見つめる自己開発をしていくという必要性を、加藤氏からは、人間には誠実・努力・創造・愛・勇気、これを持つことが大切ではないかということを、徳永女史からは何事も『ねばり』が必要であるということを、学んだと思います。

キャンプファイヤーでは皆さんと親睦が持てたということ、そして最も印象に残っていることは、サリドマイド児の話です。もし、自分にそういう子供が生まれてきたらどうするかということ。もし私にそういう子供が生まれたらその子供が社会に出て生活出来るよう自立をめざした教育をして行きたいと思います。

そして皆で燃えて語り合ったバズセッションでは『地域社会における青年の役割り』について話し合い結論は出なかったかもしれないけれども沢山のことを知り学んだと思う。そして私が思うには、自分は集団のリーダー

出　　会　　い

Cグループカウンセラー 細 谷 誠 宏

初日の部屋割り、どこの誰かもわからぬ不安げな顔、顔、顔………荷物を置くのももどかしくすぐ開講式、そして夕食オープニングパーティー。カウンセラーと受講生のもっとも大切な出会いのひととき、いっときも早く不安を取り除き楽しみの輪に入つてもらうべくグループの人達に話しかけ顔色を見て回る。どの顔もニコやかだ、心配なさそう。第1日キャビンタイム、加納カウンセラーの適切なリードによって楽しい話題に花が咲きだしてくる。ひとつの出会いから何人も何拾人の友達、又ひとつの輪が幾重にもかさなりあって心のふれあいを求め深めてゆく。日常の生活、仕事場で体験できない人と人のかかわりにそれが持ち合せている豊かさをお互いに語り合い意思の疎通を計ってゆく、それも自然に、自由に………。

2日、3日、4日目の午前中の講議「未来社会からの呼びかけに若者はどのようにトライしてゆくか。」郷土愛「参加し助け合う地域社会」やる気、熱意、工夫する人になれ、「目標を大きくはっきりと掲げ努力する」、それぞれの講師の持ち味を生かした話題に全員ききはれている。圧巻は何といってもバズセッションでみせつけられた「トライ」のすばらしさ、もうお互いに十分に慣れ親しんでいる仲間同志、討論に入るや皆んな真剣に話し合っている。発言しないものは一人もいない、『おやっ』と思う、各人の新しい発見をする。そばに居てることが心苦しくなる位楽しく真剣に討論しているすがすがしいかぎりだ。夕食の時間がせまってくる仕上げを急がないと………夕食の時間をさいて仕上げする。自分達の手でまとめ上げた自信と達成できた嬉しさがひしひしと感じられる。全員の顔に満足感がありありだ。各グループ毎の発表、他のグループのをみて『うあっ』と声を上げる感嘆の声か！失望の声か！………各グループの発表を聞きそれが反省し又自信を深めたことであろうと思う。どの顔も輝きでいっぱいだ。最後のキャビンタイム、誰れとはなしに次から次へと歌いゲームし、おしゃべりをする。ちょっとすましてた人、キバッてた人、猫被りしてた人、エエカッコしてた人、それが一つの輪となり心となって打ち解け、ひとつの出会いのすばらしさをみせつけてくれる、心に焼き付いているこのすばらしき仲間達に幸あれと心かな拍手する。

すばらしいなすばらしいRYLAバンザイ!!

となる機会は少ないけれど、誰でも家庭のリーダーには成るのだから、親として、このセミナーで学んだことを生かした指導・教育で社会に役立つような子供を育てたいと思います。そして、あれだけの考えを持った人達がいるのだから望ましい社会が近い将来来るのではないかと私は多いに期待したいと思います。

そして夜のグループでの話し合いでは、各年令の人のそれぞれの意見を聞けたことが自分のプラスになったと思う。

終りに、何事にも“心”を大切にしていろいろなことにトライしていく、これが大切な事だと思う。

ロータリアンの皆様方へ

このような体験をさせていただいたてまことにありがとうございました。このことを今後の生活に生したいと思います。そしていっしょに参加した皆様、いろいろとありがとうございました。

ライラセミナーを 終えて

藤田 記美代

私は子供会の活動をしており、その関係からこのライラセミナーに参加したのですが正直言って問題意識を持って参加しようとしたのではなく、深く考えずに来てしまったところがありました。しかし、20才の私はキャビンの班の中でも最年少でまだ学生ということもあり、働いて自立していらっしゃる班の方々の誠実で真剣な心や姿に、私はなんと子供で、甘えていられるのであろうと実感することがたびたびありました。このセミナーに参加して得たものは、年令も出身地も生き方も考え

方も全く違う様々な人々との出会いだと思うのです。キャビンで夜を徹して心を開き合い話し合いする中で、今まで自分がみえてくるのです。狭い社会で狭い人間関係の中で生きている現実の場の私が、現実を離れる事によって並にみえてきて、私はなんと自分が井の中の蛙だったのであろうと思うのです。私はこの出会いを感謝し又大切にしている。しかし初めは激しい人見知りによる緊張で、どうしてこんな所へ来たのであろうと思い、はやく帰りたいの一心でした。私は仲々自分の本音や考えることを言えない質で、このセミナー中もそんな自分がはがゆくて自己嫌悪に陥ることもたびたびありました。でも今はその経験から少しでも自分の心を開いて言うべき事は言わなくてはいけないと思いました。

美しい大自然の懷に抱かれて、様々な人の生き方、考え方、優しさ、真心に触れることができ、現実の私に返ってもこのライラを忘れがんばりたいです。そして楽しかったファイサー、考えさせられたバズセッションなどの思い出を胸に抱いていきたいです。

最後にお世話になったロータリーのみな様方に、このような機会を与えてくださったことを感謝したいです。ありがとうございました。とても今、素直な純粋な気持ちで帰っていくことができます。もっともっとこの余島におりたいという気持ちです。ありがとうございました。

ライラセミナーを 体験して

宮川 真

最初はこのライラセミナーがどんなものであるか全く判らずかなりとまどいながら参加いたしました。

1日目、2日目と日をおいながらこのライラセミナーが少しづつ、そして迷いながら判ってきたような気がする。人と出逢い、その人たちと少しづつ仲がよくなって行く、今の社会問題になっている子供達がなかなか友達ができない、仲間にとけこみにくい現実を私たちに疑似体験させていただいたような気します。

離島で社会から遠ざけられ、しかも一度も会ったことのない人たちがグループになりその中から仲間としてとけ込んで行く様を体験して行き、逆に子供の立場に立ち一人の淋しさ、コドク感、たのしさ、おもしろさを見つめられる指導者に大切なものをおしえられました。そしてロータリーと私たち、私たちの役割、一人の人間としてどう生きて行くか、今まで考えてことのない社会の一員としてどう生きるか、奉仕について。

バズセッションでの熱のこもった話し合い、そして一人で考えぬいてみたり、自分をみづめなおすチャンスを与えていただいたことをありがとうございます。ロータリアンの方々ありがとうございました。

貴重な充電の 機会

井村 晃

自然環境に恵まれた余島での4日間は、時には充実し、また時にはゆっくりと心の洗濯が出来、日常時間に追われて忙しく生活している私には非常に貴重な充電の機会を与えてくれた。

特に充実した講師陣の講演はそれぞれに重みのある心打つものが多くあり、今後の指針としたい。

またキャンプファイヤーも新しい趣向がこらされ感激した。

そしてこのライラセミナーの大原則は『受講生の自主性を尊重する』であり、日頃受け身の生活をしている指示待ち人間の私には大きな意識革命が起った。

このセミナーで学んだことを今後の仕事や青年団活動に活かしたい。

関係者のみなさん本当にありがとうございました。

余島での“音”

松吉徳久

『ライラ』という言葉の響きも耳になじんできた頃、余島を離れる時が近づいてくる。トンビ、ヒヨドリ、ウミドリの鳴声、波の音、漁船の音、キャビンに聞こえる笑い声、IMURAさんのイビキ、思索の時間の沈黙、聴覚に残った音を数え出すときりがない。

日頃の生活で我々の聴覚に訴えるものといえばテレビ・ラジオ等の音響機器、車やバイ

クの騒音、たまに聞こえるのは救急車のサイレン、これらの音を決して否定しているわけではないけれど、自然に囲まれた余島での日々は何かホッとする憩いの時を与えてくれた。居眠りをしながら聞いた講義が果して私の耳に残っているかは不安だけれど……。雨の音を聞きながら寂しさを憶えつつ、今この島を去ろうとしている。

感謝と決意

坂 東 正 博

この3泊4日の研修は、良い天候に恵まれ、私にとって非常に貴重な体験を得、価値あるものとなりました。スケジュールにそって行動するのですが、非常にスケジュールもゆったりとして自由な時間も多く、多くの友と出会い色々と話し合うことができました。生活環境や経験の異なる若者がこの余島において初めて顔を合わせロータリアンと共に過ごし、価値ある講演を聞き、討論を重ね自然の中で人生や自分について思索するなど、このような研修は私にとって初めての経験でした。またこの研修をお世話して下さったロータリアンの皆さんのはんとうに親身にわたるお世話にはおどろき頭の下がる思いです。ほんとうにありがとうございました。今後、地域社会、職場で、この研修で学んだことをもとに自らも研さん、勉強しながらがんばっていきたいと思います。

人間を考えるセミナー

中野英信

このセミナーに参加した目的は野外活動の意義を知りたいと思ったからである。

しかし、開講式、オープニングパーティーを通じて見事この目的は的はずであったと認識した。このセミナーは人ととのふれあい、今の社会をいかに考えるか、未来をいかに考えるか、人間として生きてゆくとは何が必要か、何をすべきか等、人間を考えるセミナーであったと思う。

人一倍人見知りをする自分にとって過酷なセミナーであるなと思う反面、新しい友と語り若者と交る期待もあった。

Cグループよい友、仲間、そしてカウンセラーのお二人さんにめぐりあえて本当によかったと今この原稿を書きながら思っている。3人の講師の講演もよかって、佃教授の「未来社会に生きるために何をすべきか」のテーマで、この先自然と人間と科学の調和が大切であると話された。全くの同感である。自然が破壊されている現在私たちが一番に考え行動しなければならない事であると思いました。

加藤観音寺市長の話では市長自身の生活の迫力をひしひしと受けた。「理論より実践」であることを強く強く教えられた。

徳永さんからはきびしい練習に耐えたにも拘らず淡々とした口調の中に歩んで来た道のりの深さを感じ、人間の暖かさ、温かさを感じた。

お世話して頂いた各ロータリアンの話、行動に本当の奉仕の精神を感じ自分自身の人間の狭さを恥じた。

このセミナーに推薦して頂いた姫路南のロータリークラブに感謝するとともに今回の研修を今後の生活にプラスにすることを誓って筆をおきたいと思う。

楽しく充実したライラ

西 村 裕 明

ライラセミナーに参加にあたって、ここに来るまで大変不安であった。何でかと言うとロータリーと言う組織とか、バズ、SK法、フォーラムと言う意味がわからなかつたからである。また何でロータリークラブがライラセミナーと言う研修会をするのかもわからなかつた。でもここ余島に来てガバナー、ディーンの話を聞くと、意味もわかり大変勉強になりました。そして講師の話しほくらが成長して行きこれから活動して行く中でこんなふうに考えて行つたらいいんではないかと言うような事を、未来にまた現実的に話しをされて大変参考になりました。そして余島での生活はスケジュールが自由でゆったりしていたので食事ばかりしているようでした。それとあまり運動しないのかお腹がへらなくて苦労しました。またCグループの交流会1日目より2日目、2日目より3日目とジョーダンもいい、歌も出て、だんだんもり上り多くの友達が出きたと思います。でもバズセッションでみんなで真剣になんで話し合ったことは一番頭に残っています。そして考えたことは地域を持って帰り青年活動に役立てたいと思っています。この3泊4日生活、この余島は楽しかったです。きっといつまでもわすれないだろうと思います。

二回目のライラ

青木 每祖

私は今回で2回目のRYLAセミナーでした。

昨年RYLAでまかれた種を新居浜へ帰つてからRACの会長として行動し、芽が少しでも出るように自分なりに努力してきました。まだまだ力不足ではありますが今回のセミナーで得たものを肥料として小さな芽を大きく育てて行きたいと思います。

3日目のフォーラムで両親の離婚についての討議が多くありました。私自身昨年のRYLAの1ヶ月くらい前に親が離婚しており、そのなやみを昨年はうち出すことができなかつたけど、フォーラムのあとキャビンタイムで皆んなのいる前で言うつもりではなかつたけど、私の意見として皆んなに聞いてもらつてカウンセラーの先生や深川先生、Cグループの人からいろいろ話してもらい1年余りの間胸につかえていたものがとれたような気持ちがしました。私はもう2回参加させてもらい、もうくることはできないと思いますがまだたくさん的人がそれぞれの指導的立場でいろいろと考え悩んでいると思います。そんな人がRYLAにより心の面で大きく成長できればと思います。これからもRYLAを続けていって下さい。私もいつか手助けができればと思っています。本当にありがとうございました。

様々な人の出会い

C'グループカウンセラー 嘉 納 洋

お懐かしい皆様には、その後、それぞれの地でお元気にご活躍の事と存じます。

打ち上げ花火の様に、大きく燃えた春のライラセミナーから大分日も過ぎました。『どの様に青少年活動を育てるか』と云う一つの目標の他は、これ程条件の異った人々が一つ処で生活し、討論し、考え、そして楽しむと云う、めったに出来ない体験と、素晴らしい人との出会いから、きっと今頃はほのぼのしたものが皆様の中に静かに、時に彩やかに、心の糧として残されている事と思います。

ライラに参加して早七年、才月の早さに驚かされ乍ら、毎年素晴らしい余島での人々との新しい出会いを心待ちにし、その年々に思いがけない発見をし、時に戸惑い乍らも、何か御役に立てる喜びと触れ合いの中から頂くものの大きさに心して過す年中行事の様な3泊4日です。

今年も色々な発見がありました。一見、馴れないのかな、楽しくないのかなと見た方が思いがけないものを得て帰って下さり、人を表面で判断してはいけないと云う事。人は良い事もイヤな事も幼い時の体験が根強く心に残っている、それをどう上手く処理出来る様に御手伝いしてあげられるかのむづかしさ。人は一つの試練を越えられた時、一廻りも二廻りも大きく成長する事の発見。そして毎年何か自分のグループ中心になり勝ちなのに今年は他のグループの方々とも挨拶だけでなく何かとお話し出来た事は嬉しい事でした。せっかくの様々な人との出会いです、もう少し他グループとの交流（親しく）をはかれるプログラムが出来れば、もっと素晴らしいと思うのですが……。

全ての方々に心から感謝と御礼を申し上げます。

悩みと燃焼

自分の再発見

高橋久美子

人と出会い

神と交わり

愛の火の燃えるところ

の石碑の前で「今は何も感じないだろうが
4日たって島をはなれる時、これを読むと涙
ができるんだよ」っておしえていただきました。

私は姫路Y.M.C.Aを通じて色々な活動に参
加させていただいているのですが、時間が極
端に拘束されるんです。燃えていてその中に
意味をみいだしている間はいいのですが、そ
うでなくなった時すごくやむんです。「自
分は何をしているのか」って。家庭内暴力と
か核の問題とかアフリカのこととか考えない
ことはないけど大学生っていう与えられ、恵
まれた時間と立場を自分の満足のためだけ楽
しみだけに費しているんじゃないかなって。

R.Y.L.Aセミナーに参加させていただいて、
諸先生方が巨視的に世の中をとらえておられ
ることにおどろきました。世界を単位にして
ずっと未来を見ておられる。又同年代の方
の悩みをきいて自分の与えられた環境のすば
らしさに気がつきました。自分は小さな小さ
な存在だと思います。だから色々見てみたい。
いろんな人と交わりたい。それ以外の大きな
ことは望まない。

この余島にきて、4日間かかって、たくさん
の人と出会い、交わり、燃えることができ
ました。多くのものを与えて下さったすべて
の方に感謝の気持ちで一杯です。将来何らか
の形で表わしてゆきたいと考えています。
ありがとうございました。

磯道明美

R.Y.L.Aセミナーに参加するにあたり、見
知らぬ人の中へ入っていく不安と、そういっ
た集団の中で自分がどういう風になるんだろ
うという気持ちだけで参加しました。

様々なライフスタイルを持っている人たち
と寝食を共にし、語り合ってゆくごとにみん
な同じことを考えているんだなという喜びを
得ました。また1日1日の講演で学ぶことも
大でした。Cabinで歌を歌いつづけたこと、
日の目をあびることのできなかったスタンツ
の練習、いまでも悔いが残っています……。

そして何よりもこの余島の恵まれた自然の
中で、日常生活の中では得られない違った面
を持った自分を見つけることができたよう
に思います。〈Meditation time〉

余島の生活……自分の心が開けたような
気がします。私の生活範囲の中で豊かな気持
ちで人と接していくような気がします。

最後になりましたが、私たちのためにお世
話して下さったロータリーの方、カウンセラ
ーの細谷先生、嘉納先生本当にありがとうございました。

私の収穫

広瀬佐知

この4日間私の20年あまりの人生の中で本
当に目新しい世界の中に身をおいていたよう
です。ボランティア活動に熱を燃やしている
人が自分のやっていることをいきいきと話し

てくれたことはとてもいい刺激になりましたしとても感動しました。これが私がこの活動に参加した一つの収穫でした。

もう一つはいろんな人の話を聞くことができたということです。1日に1回講演を聞くことができたり、ロータリアンの方々のあいさつ、フォーラムでの深川先生のお話、キャビンでの同じグループの友だちの話、自分の意見を出したこともありましたが今回は他の人の考え、意見の吸収に専念しました。それら他人のものをそしゃくして十分考えて納得できるものは自分のものにしてこれから発揮したいと思います。

しかし私はどうもボランティア団体には所属できそうにはありませんが、德育の方はボランティア団体や地域社会にまかせ私は知育体育の方に力をつくす教師として社会に貢献したいと思います。そして現場で今回の経験をいかしていきたいと思っています。二宮尊徳のお湯の話(?!)教訓にしてがんばります。

身近かな問題と同時に、地球的規模の「神一モノ一人間」といった観点も存在するといったことにも驚いています。

ロータリアンの深川先生が我々のキャビンにきておっしゃった「How to あまりにもとらわれすぎている」といったことが考えさせられました。1つの目標を決め、それに近づくための How to こそ素晴らしいと教えられた私たちが、私が、チャンスとか縁、そして徳永女史のおっしゃった「いさぎよく臨むより、がまんしてねばる方がずっと苦しいし勇気がいる」という意外な価値を見せられたのには少々とまどっています。次期に R A C の活動をするにあたって、将来を決めるにあたってよく考えてみたいアドバイスです。

それにしても R C の皆様に顔見知りでもない私達にこれだけのことをして下さったということに深く深くお礼を言いたいものです。これも少々とまどっています。あまりにもありがとうございます。

私は R A C の活動をやっているのですが、他に YMCA や青年団、ボーイスカウトなどの方も来ており、それぞれが同じ目標に向かって別々の方法でがんばっているのを知ってずいぶん励みになりました。反省点の方が多いのですけれど。

食事は三重マルでした。陶芸をしたのもずいぶん楽しかったですし、カウンセラーの先生もあっさりとした方でしたし、満足この上なです。うんと欲を言えば思索の時間といった1人の時間を半日くらいに増やしても…と思います。

キャンプファイヤーは神聖で印象深いものでした。4つの火をめぐるお話はしみじみと、波の音はしとしと余島にびったりです。最後に、ライラの仲間達の今後の健闘を祈り

セミナーで 学んだこと

松田 育子

3泊4日の長くて短いセミナーでしたが、かなりのものに触れられたと思います。やはり3人の講師の話は心に残るものでしたし、この余島の YMCA キャンプ自体がよかったです。様々な環境の方と離れた年齢の方と、こうもうちとけられたことも我ながら不思議です。このセミナーのテーマの「21世紀における我々青年の地域における役割」は、大きな問題意識を深く刻み今後のことどころとなればと思っています。そういう

ます。

ライラセミナーを ふりかえって

宮田 いずみ

父に初めてRYLAのパンフレットを見せられた時、「指導者」という言葉をみて思わず言ってしまったのは「あんまり関係のないことやけど……」という言葉でした。でも「まあ、とにかく行ってこい。」という父に、「ほな行ってみるわ。」と軽い気持ちでこたえ4月4日中突堤に行ったのです。船の中で周りの人と話してみてもこのRYLAの主旨がよくわからず「一体これはなんだろう」と思っていました。そして1日目、オリエンテーションがあり、夜にキャビンタイムがありRYLAというものが少しあかってはきたのです。ところがキャビンタイムで「充実した3日間になるようがんばります。」といったにもかかわらず今度は不安になってきたのです。私は今までボランティアの経験もありませんし、何よりも人前で意見をいうのが苦手な私にとって周りの人たちがスパッと述べられるのをみると「帰りたい……」というのが正直なところでした。その晩は「不安……けど、もし参加していなかったらこんな経験することもなかったろうし……。自分で意見がいえないなら、今回は他人の意見、自分のしらなかつことを吸収できるだけ吸収してやろう。」と思いねむりにつきました。

そして、今日最後の日になってしまい、今感じているのは「他の人たちにくらべて私はなんて役立ってない若者であったんだろう」ということと、「私も何かやってみたい、こ

のセミナーで少し私の中身もかわったかな」ということです。バズの時もほとんど意見のいえなかった私ですが、私なりにとても充実した4日間だったと思っています。4日間どうもありがとうございました。

成長した私

森上 美佳

毎日毎日を仕事と学院生活だけでいっぱい、いっぱいの私でしたが、4日間という貴重な時間をこのセミナーに参加できたことは私の人生にとってプラスになることばかりでした。講演はすばらしいもので、3人の先生方からそれぞれのことを学ぶことができ、これから長い人生にとっての道しるべとなつたようにおもいました。

自分の今までの生活にはかかわりのない職場や学生の人とも出会うことができましたが、4日前に知りあったきもせざ以前からの知り合いのように、人みしりする私で、人前にでると自分の思うことも半分もいえなかつた私でしたが、この4日間で以前よりずっと自分の思うことがことばとなってでてくるようになりました。

セミナーに参加して成長した私を職場で、学院で役立てていきたいと思いました。

こういう機会を与えてくださった方々に感謝しております。おせわになりました。

セミナーに参加して

木 谷 正 美

私は初めて R Y L A に参加したわけですが、はっきり言って “R Y L A” 自体理解しないまま来てしました。

このセミナーには四国 4 県の 267 地区と兵庫の 268 地区と 2 つの地区で約 100 名近く集まつたわけですが、私は根が暗い上に人見知りが激しいときているので “おもしろくない” “早く帰りたい” しか思っていませんでした。たった 3 日半で初めて会った人が本音で話をするなんてありえない。それが 1 日たち 2 日たちするごとにグループが固まり夜遅くまで皆語りあいました。本音が出ていたかどうかというものは疑問ですが、ここまで団結するとは思いませんでした。

R Y L A に参加して何がよかったですかと聞かれれば土地は離れていても仕事はお互いに違っていても自分と同じ考え方を持った人がたくさんいる、これだけ理解者がいるという事がとてもうれしかった。

プログラムもむずかしいのはあったけれどよかったのではないかと思う。これから社会に出てしまうと R Y L A に参加する機会はもう二度とないかもしれないが、この一つの出会いをいつまでも大切にしていき地元に帰ってもここで学んだことを生かせるようにこれから的人生を歩んでいきたいと思う。

R Y L A も年に 1 回ではなく、また R Y L A だけでなく時間の許されるかぎりこういう会を開いてほしいと思う。

人との出逢い

坪 田 忍

“余島にきて R Y L A 活動についての感想”

この R Y L A セミナーに参加できて本当によかったです。

こんなに楽しく、そしてこんなに深く、全然知らない人と話し合いとかができる自分にとってとてもプラスになったことでしょう。

1 日目はとても不安でした。どんな人たちが集まつてくるのだろうという気持ちで 2 日目になるとたくさんの友だちができるいろんな話がはずみ意見がかわせられ自分にとってのプラスになるものがいっぱいできたように思います。キャンプファイヤーなどあり、それもロータリーの人たちとの楽しいひとときを過ごせたこと。

バズセッションでは、くの中で 3 つのグループに分れ、テーマ「地域社会における青年の役割」、「ロータリーと協同してできることは何か」についてのそれぞれの意見のだしあいがあり、私は自分の意見をはっきり人に言えたことがなによりこのセミナーにきてよかったです。

Dグループカウンセラー 菊澤建明

春まだ浅き瀬戸内を期待希望に胸ふくらませ余島にいそぐ。思い出せば今度でカウンセラーも4回を数える。毎回同じ様な弾む気持が身を引しめる。青年リーダーとの出会いは此の様にして始まるのだ。昨日吹流れ大雨雲も今日は桜前線の色どりを取りもどし心地良い小春日和、何時ものボートで「人と出会い神と交る」余島に足をおろす、今回は思いがけなく林カウンセラーとコソビで受け持つ事になる。D班全員で21名、どうかトラブルの無き様神に祈る。時間と共に若者の国となり第1日が始まる。開校式も完り夕食パーティーとなると早くも若者同志友情の環が出来上がり、その早さは見事と云うより外は無い。キャビンタイムで夜の更ける事を忘れ情熱的に語り合う姿は青春そのものだ。今回のRYLAの目標である「トライ」は各講師により表現されてゆく。キャンプファイヤー、バズセッション、フォーラムと有意義なプログラムが転開され日に如に青年の団体での親睦が有る種のエネルギーとなり感動と感激の波を知る様になる。同じ心を持つ青年が一堂に会し喜びを分かちあい安心し語り合い行動を共に出来る機会がこれ程迄少なかつたのであろうか。最後の夜は別れをおしみ朝迄語り明かした事を青年達は一生忘れる事は無いであろう。どうか此の感動を思い出し社会の為に又より良い人生の為に努力される事を祈りながら4分咲きの桜を残して余島を離れる今井先生、深川先生、牟禮ガバナー、江藤先生、本当に青年と私達リーダーの為に有難うございました。林さんご苦労様でした。

私には余島は私の中の青春かも知れません。

森 崎 好 美

私達は普段は日常の忙しさの中に埋没して自己を顧りみたりする機会が少ないようにおもいます。このセミナーに参加し著名な先生の講演を聞き、人生の造けいの深いロータリアンとの会話、キャビンでの討論と通し自己を顧りみ、そして今まで余り考えなかつた人生、福祉、奉仕、青少年の未来を深く考え方意識を呈してくれました。

又、同世代の見知らぬ人々と4日間、寝食を共にし色々な問題について討論し、そして私を含めてみんなが得難いものを得たようにおもいます。

そして今日、この余島を去る日、見知らぬ人は何年も前からの知り合いのように友情を感じ今はまだいつの日かわからないが再会を願う声がたくさんあがっています。

このセミナーに参加して私の中に生まれた“氣”を小豆島を離れたら忘れるのではなく、ずっといつまでも忘れかけたらセミナーの感動を思い出し、ずっともってできるだけ具体的に行動に結びつけたいとおもいます。

ありがとうございました。

高 島 清 明

RYLAに参加して、私は、我々の社会に欠けているものを発見し、21世紀の国際社会に生きるべく我々の義務を身を持って知りました。

21世紀は国際競争の時代でなく共存の時代である。特に、我が国は食料自給率の低さから見てもわかるように、他の国に依存している。諸外国との取り引きなしには生きていけないので現在は保護貿易など自分の国の事ばかり考えている。そこで我々は21世紀国際社会に対応すべき人間にならなければならない。そして私達の地域社会において現在の都会に欠ける集団生活というものを子供達に教え、共存し、助け合って生きることの必要さを知らさなければならぬ。そこで、我々若者だけでは力不足な経済的な面をRotaryの先生方に助けてもらい、協力し合いわが国を世界に共存できる国にしなければならない。

私は、私の所属するボーイスカウトに帰り、少年達に今井先生をはじめとする先生方の意志を伝え、世界に通用するふところでのかい人間にしたい。そして、自分も成長したいと思う。

どうもありがとうございました。

瀬 山 定 道

このセミナーに参加して一番最初に感じたことは、目標とするものが世界奉仕、地球市民というあまりにも大きなものであったため、どうも偽業者のというものではないかということでありました。シラケの時代にどっぷりとつかっている私にとっては、どうにもそのように考えてしかたありませんでした。（このようなつまらない考えでキャビンタイム等におきまして皆様に批判的態度をとり申し訳ありませんでした、と今は考えて一言謝罪の

弁を入れておきます)

私の疑問の一つに、大が大事か小が大事かということでありました。ロータリーの目標とするものはどうも大かな、と思い、ちょっと違うのではないかなどと思いつつ、カウンセラーさんに聞き、やっぱり個人の幸福が一番、それを他とわかつあうことにより結果としてではなく自分にもどってくるのだ、と教える道を与えられ今一つほんの少しだけ目が薄く開いたと感じられました。

このようなセミナーに参加させていただいた地域のロータリアン、会社の人々に感謝し、またシラケの世代に住む私達若者がより多く参加し少しでも自分を磨き少しでも社会意識をもつようになればと考え、今この余島から羽ばたこうとしています。

杉田勝久

あっと言う間に過ぎた3泊4日間でした。さまざまな職業の人々と本音を出して話し合えたことが大変うれしかったです。自分の中にモヤモヤしてた事やわからないことを話し合えたと思います。少しづつ忘れかけていた暖ったかさを取りもどす事が出来ました。地域社会に対して青年が出来ることをあらためて教えられました。

セミナーの中で一番の思い出は、バズセッションの時、みんなと話し合いそれをまとめたフォーラムで発表させていただいたことは、みんな、よくわからなかっただろうに、『よかったです』って言われたことがなんとも云えずうれしかったです。

みんなで何かをすることの楽しさを何年かぶりに味わいました。『今の若い者は』と言われているけど少なくともこのセミナーに集まつた人たちはそうではないと思います。

うまく云えないけど人間味があるっていいなーとつくづく感じました。又、みんなと会ってしゃべりたいです。もっともっと話してみたいです。

最後にありがとうございます。

宮本和幸

私がRYLAセミナーについて最初に感じたことは、プログラムがユニークだということです。このセミナーに参加しないかとさそられた時、ぱっと頭によぎったことは、ぎっしりとした日程でたくさんの講義がならんでいるプログラムではないかということです。ところが前回の参加者の話しや案内を見ておどろきました。たしかに午前中に講義がありますが、午後からはほとんど自分たちの自主性にまかせられています。このことは大変おもしろいことだと思います。

また、ひとつ感心したことは、みんな大変時間を守ることです。ほとんどが時間どおりに始まっています。ちょっとしたことなのですがなかなかできないものだと思っていましたが、ここに来て自分たち一人一人がこころがければ時間どおり始まり、スムーズに流れ、気持ちのいいものだと感じ、そして今まで自分自身出来ていなかったのでこれからは、まず自分自身が時間が守るように心がけていきたいと思います。

また、よかったですなあと思うことは、講師の話やロータリアンの方々の話はもちろんのことですが、同年代の青年のいろいろな意見や考え方を聞けたこと、知らない人と気軽に話せたことです。

これからもこのようなセミナーを続けていってもらうことをお願いしたいですし、また地元にかえったら、このセミナーに参加することを進めていきたいと思います。

西川 博

(1)「感想」 大変有意義であった。少なくとも私の場合この言葉が当てはまる。青年は誰しも多少なりとも何らかの悩みを心の内に持っているのではないかと思う。そういう私にも悩みがある。それも近い友達や親にさえも相談したり、あるいは話すことさえできないものもある。それをいかに自分なりに解決し取り組んで行くか、まいにまよってどうして良いか分からぬ。その時私はこのライラセミナーに参加した。そして色々の活動をしている種々の考えを持った初対面の人々との話し合いを通してお互い自由に意見を言い、そして考える。きわめて自然な形で解決のための糸口がつかめたよう感じた。だから私にとってこのセミナーは有意義であった。

(2)「セミナーを終えて今後どう青年として社会の一員として生きるか」 私は青年である前に社会の一員であり、何よりも「人」である。それも、まだまだ未完成な人間である。その認識の上でもう一度自分を振り

返ってみて、もう一度講師の方々の言葉のメモを見ながら読み返した時、今どんなに大変な時に青年をしているのか。その置かれている立場に恐怖を感じる。それは将来への不安と自己の不安定さに対する不安である。しかし、一方では理論的・客観的に見た青年像とはこうだ。またやる気を出せば、努力すれば何とかなるんだと言った強い励ましを得て、ある意味での自信が持てたように感じた。その自信で積極的に生きたい。今はただそう思う。セミナーで得たことを他の同じような青年に説明し、賛同を求めるのは難しい。またこう言ったセミナーがロータリーの方々の援助で再度開かれるのなら後輩に参加することを勧めたい。もしこのまま日本の青年達が無気力・無関心で居られるとすれば、私は一人でも自分なりに社会に背を向けず積極的に向かっていきたい。

1. ロータリークラブの何たるかを知ることができたと思う。ライオンズクラブの存在が比較的ポピュラーで親近感があったのに比してロータリークラブの存在感は薄く、この機会に何を目的とした団体であるか知ることができた。一般庶民とともに一般庶民の渦の中で一般庶民に影響を与えつつ光り輝く存在であってほしいと切に願うものである。

2. 同じように考え方活動している同世代の者がまだいることに改めて感銘をうけるとともにいつまでも青年の心を失なわずに健全な大人になってほしいと思う。私は今日までボーイスカウト活動に携って20年になりますが、ともに活動している数少ない指導者のいつまでも青春の心をもって光り輝いている姿に感動したものである。ロータリアンの中にも共通のものを見出すことがで

きたと思う。

3. 自由を原則とした、今まで未経験のセミナーだったと思う。自由には責任と義務が伴うものであることを再認識できた点で有意義であったと思う。

4. 初めての小豆島であり、かつ、自然が比較的多く残された余島で、自然を残すことがいかに大切で難しいものであるか痛感させられた。これ以上の施設の整備・拡充は不要なのではないかと思う。若い時の苦労は買ってでもしろというように、豊かな現代において体験することができなくなったことを体験できるようなものにすればもっとベターなのではないかと思う。

松 下 哲 也

R Y L A セミナー及びロータリークラブの存在については、今回の参加までは全く知らなかった。実際に 4 日間を新たに出会った仲間達と過ごしてみて言葉では表現できない充実感を今は感じている。

自分の考え方と他人の考え方、一致する部分も多く、相反する部分も多い。考え方の一一致する部分を見つけた時は心のどこかに安心を感じたし、その他人は以前から長いつきあいの知り合いであったかのような気がする。

しかし、それよりも相反する部分に気のついた時に、その違っている点がどこなのか、また何故違うのかを考える事の方が重要な気がする。どちらが正しいかという判断をする事よりはむしろその違いに気づいて、はっきり把握する事が大切だと思うのである。

この 4 日間、他人の考え方を多く聞き様々な相違点に改たに気づいたことは私が今感じている充実感の最も大きな原因のような気がする。

渡 辺 耕 次

僕はこの 4 月 4 日～7 日までの 4 日間 R Y L A セミナーに参加して感じたこと、勉強になった事、一つは私たち若者は 20 世紀から 21 世紀にかけて生きられるということで 21 世紀はどのような社会になるのかなんてあまり今まで考えては見なかったが、しかしこの 4 日間の R Y L A セミナーで僕は競争し合って生きていくという社会でなく、地球が一つになって共同し、たすけ合いながら生活していくかなかっただらいけないと思う。

その理由の一つとして、今の社会はどちらかというと競争しあって生きていくという方であると思う。今地球上でも現に戦争をやっている国がある。これではいけない！我々青年達が 21 世紀に向って生きていくという事はいろんな困難にたち向い生きていかなければいけないと思う。又この 4 日間でいろんな他県の人と知り合になれたことをうれしく思う。そして鳴門に帰ったらリーダーとして青年としての役割をはたして行こうと思う。

大江正彦

書きたいことは山ほどあるけど、とにかくよかったです、来てよかったです。

心の洗濯ができたような気がして、とてもすがすがしい。

愛すべき仲間たちに ありがとう
きっとまた会って また語りあおう
大好きだった すべての仲間たちへ
ありがとう

P S またライラに参加したいけど、地元の他の青年にもライラの良さを知りたいという気もするし、でも、また来たいと思う。

D' グループカウンセラー 林 真 紀

お天気に恵まれた第7回ライラのみなさん、その後如何がおすごしですか。それぞれの地域にもどられ職場に又活動に励んでられることと思います。

今感想文を読ませていただき一人一人のお顔をなつかしく思い出しています。住んでいる所、仕事は違っていても、本音で話し合ってみれば同じ人間なんだということを実感としてわかって下さったのではと思っています。一人前の立派な青年が無邪気に遊び、真剣に討論し、講義をきき、夜を徹しておしゃべりするということ、なんてできなことでしょう。心から楽しそうに遊んでられた皆さんの姿、笑い顔が心に焼きついています。

皆さんのやさしさと、思いやりにつつまれたライラであったことを感謝いたします。そのやさしさ、思いやりで地域のよきリーダーとなられますよう願っています。貴重な4日間ありがとうございました。

稻 越 恵吏子

生まれて初めてここ余島の土を踏んだ4月4日から私たちのRYLA指導者育成セミナーが始まりました。

そしてこの島で過ごした3泊4日で私の感じたことは、私たち青年は社会の一員として世の中の動きに参加しなくてはならないという事です。私はまだ学生ですが、今まで自分たちはまだまだ子供で何でも大人がしてくれる、大人の人たちが何とかしてくれるという気持ちでした。しかし今、青年と呼ばれる年代の私たちは、今度は私たちより下の年代の人々から大人の人たちが何とかしてくれると思われる、つまり私たち青年が今度は大人の人たちと呼ばれる番になって来ていると思います。

10年もしないうちに私はきっと母になるでしょう。母となってからさて子供たちに何を伝えるか…それは問題です。母となるまでにつまり青年と呼ばれているうちに私たちはできるだけたくさんの物を見、聞き、体験していろいろな知識を充電し良き大人、良きリーダーとなる様に、そのために私たちはスタートをしなければならないと思います。

最後に、このセミナーに参加する機会を与えて下さったロータリーの方々、このセミナーで友だちになったたくさんの受講者のみなさん本当にありがとうございました。

新 居 喜代子

RYLAセミナーに参加するに当って最初は、ああこれから3泊4日たいへんだ、どうやらもう逃げ出せない、困ったなあ！とあきらめ気分でした。でも全然今まで会ったこともない見ず知らずの人達とすぐ打ちとけて本音で話しあいが出来とてもいい勉強が出来ました。学生さん、経験豊富な先輩たちからいろんな知識を得ることが出来ました。私自身ボランティア活動していますが、今ちょうどマンネリ化してこれからどうすればいいかまよっている時にいい勉強させて頂きほんとうに感謝しています。

このセミナーで得たものを地域社会に持ち帰って活動していきたいと思います。どうもありがとうございました。

風 呂 広 子

この研修に参加して、今はほとんどのスケジュールを消化してありかえってみると、たいへん得るところが多かった。R.Cについての知識だけでなく自分自身の成長のためにもよかったです。R.Cについての知識、考えがもっとも充実して得られたのは3日目のバスの時間だった。私よりももっともっと福祉について考え実せんされている人たちと意見を交換するのは話を理解するのさえむづかしかったが、ふと気つくことも多かった。私はその中で書記をしていたのだが、みんなの話を

理解してまとめて書き留めることの苦労もありわった。みんなが『やればできる』というのを聞くと不思議と力がわいてきた。

自分自身の成長のためによかったですと思うのは、いろんな人と同じ部屋に集まり、友達になれたのが一番よかったですと思う。今、同窓会を必ずしようといつもまでの仲になった。こういう人との出会いを大切にして手紙を書いて交流を深めていきたい。この研修が人生において何らかのプラスになればと思う。

石井 真弓

RYLAセミナーは、余島という自然に恵まれた地で行われることによって忘れかけていた心の余裕というものを思い出させてくれました。この自然の中で講演やレクリエーション、キャンプファイヤー、バズセッションなど、私には経験のないことがほとんどでした。いろんな地域の同じ年ぐらいの若い人達と真じめに自分の意見を出しながら話し合うと、それぞれの人が自分の考えをかなり本音で言うので、今まで自分の周りにいた人とは全然ちがう、とてもしっかりした意見を持っているのでおどろいたり共感したりしてこの数年使われていなかった私の頭も働き出した。

RYLAセミナーによって社会地域などについて考えることも良かったが、それ以上に友達がたくさんできた事がうれしかった。たった3泊4日であったが、あれほど考え、あれほど笑い合えるのは、みんなが本音の部分で話しをするからであったと思うし、私もかなり本音で話していたと思う。

私は9月に結婚してしまうので、もうこういうセミナーなどに参加する機会は少ないと思うが、このセミナーで学んだことを忘れずに人として生きて行きたい。

広瀬 智英美

青少年指導者養成を目的としたこのセミナーに参加させていただいたが、余島に渡るまで全く漠然としかリーダーの役割、技術などを考えていないかった。私はまだ学生の身であり、指導者を目指しながらも、指導されている立場の2つを同時進行させている。

現場で活躍している人の生のことばを聞き、自分自身の未熟さ、勉強不足を感じた。実践に移る前に自分の安易な考えを反省させられた。

余島は島でありながらすばらしい設備がとのっており、自然に親しむという点でも絶好の場だと思った。レクリエーションの時間に陶芸室で作った花びんはこの体験の良き思い出になるであろうし、また、友との再会を楽しみにしたい。

藤本朋子

私は全く RYLAセミナーについて無知の状態でこの余島に来て、会うことも言葉をか

わすこともなかつたはずの人たちと出会って生活を共にし、今すごく豊かな気持ちになっています。それは、自分たちがもっているなやみ、社会がかかえている問題について同年代の人たちとかざることなく話し合えたこと、自分たちの親と同じ年代の方たちと意見交換をすることができたこと、講演やキャンプファイヤーで大学の講義では聞くことのできないような社会観、人生観を聞き、考えることができたこと、そのひとつひとつが私にとって貴重な体験となったからだと思います。

この経験を生かしてこれから私の時間、すてきなシナリオを書いていきたいと思います。

いろんな場所から参加された、いろんな職業の人たちと『わっ』を広げられたこと、ほんとうにうれしく思っています。

ありがとうございました。

平井 満栄

私はこのセミナーに参加して今の気持ち、本音を一言で言うとすれば、先ず『参加して良かった』ということです。このセミナーへ参加する前と後で一番自分を変えたことは、『考えること』でした。日常生活の中で、自分の自由な時間に於いて将来のこと、例えば結婚、家族、人間として……など本当に真剣に考えてみたということはなかった様に思います。セミナーに参加することによって知り合えた人達によっていろいろなこと、当り前のルール等を新めて教わった感じがしました。これから的生活に於いて、仕事、家庭など1つ1つの疑問は疑問に終わらせず、多くの仲間とのふれあいを大切に、他人の話は良いもの

を肥やしとし悪いことは見分けられる人間であります。

「美しい時の流れに」

岩崎 厚江

あなた方の人の心を感じた時 私も人となり
あなた方の愛を感じた時に 私には愛が芽ば
える

あなた方の善意に応えるは

あなた方に学んだ善意でしかない

あなた方の思いやりに応えるは

あなた方に学んだ思いやりでしかない

つぼみであった桜の花が開いた

美しい時の流れの中に

あなた方のやさしい心を 暖かい愛を

いつまでも いつまでも 忘れることはな

い

あなた方に最後の言葉を……「ありがとう」

4月7日 余島にて

前川 祐糊

このライラセミナーに参加する事が出来てたいへんうれしく思います。この貴重な体験を地域にもち帰り今後の活動に、おおいに役立てたいと思います。

永尾 久美

このRYLAセミナーに参加できた事を心より感謝致します。

開講式



講議風景



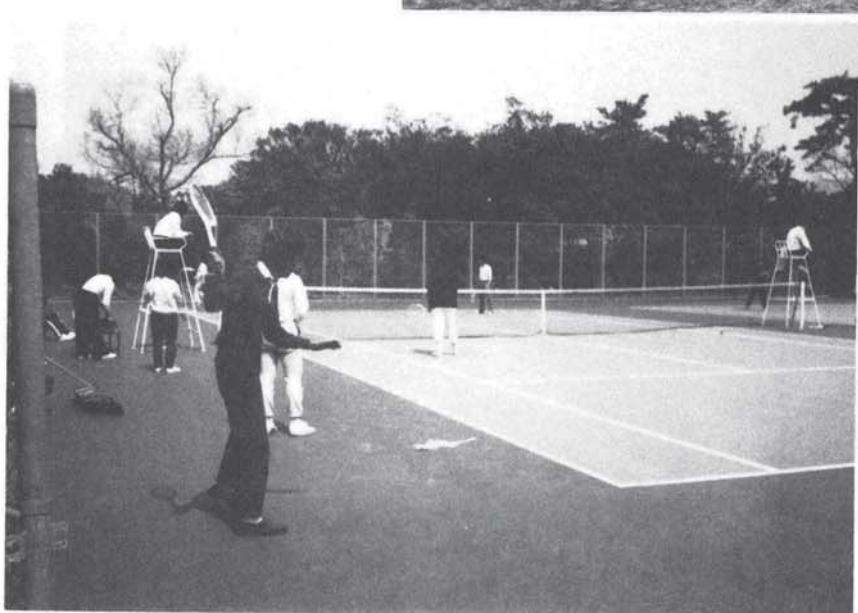
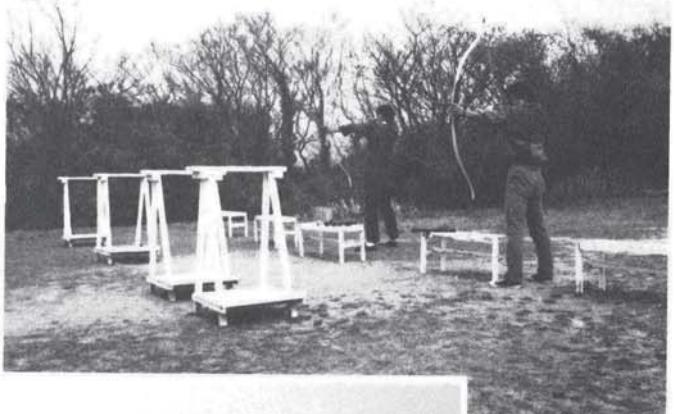
ガバナーとカウンセラーの皆様



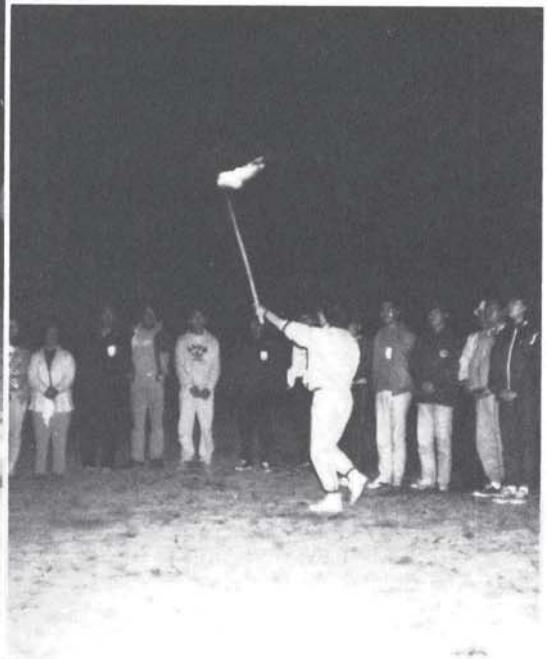
オープニング パーティ



レクレーション



キャンプファイバー



参加者のみなさん



記念植樹



さよなら……余島



